

## 第2章

# 介護保険サービス利用に関する調査

### < 調査概要 >

調査方法	郵送配布－郵送回収
調査対象者	65歳以上の要介護（要支援）認定を受け、施設サービス、認知症高齢者グループホーム、有料老人ホームを利用していない区民（令和4年11月1日現在）
抽出方法	介護保険被保険者台帳より無作為抽出
調査期間	令和4年11月9日～12月9日
対象者数 及び 回収率	対象者数：1,400 有効回収数：796 有効回収率：56.9%



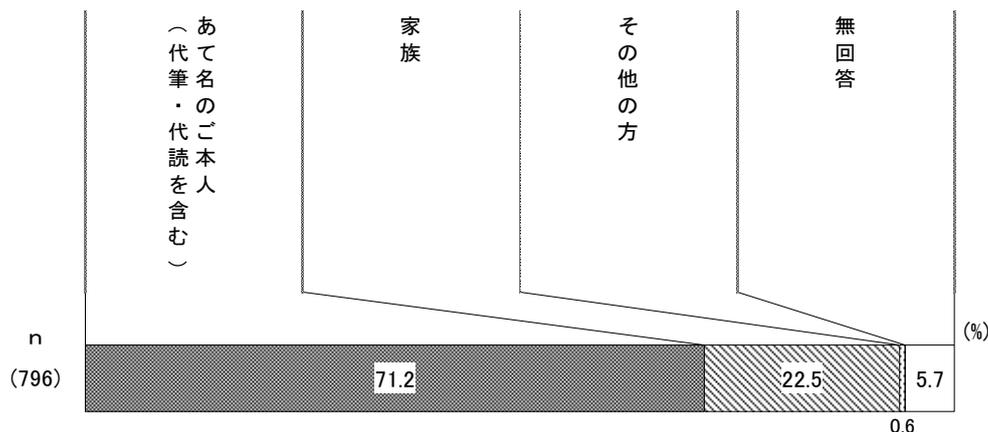
# 1 基本属性

## (1) 調査回答者、性別、現在の満年齢

問1 はじめに、この調査票に回答される方はどなたですか。(1つに○)  
 問2 あなた(あて名のご本人)の性別、令和4年11月1日現在の満年齢をお答えください。

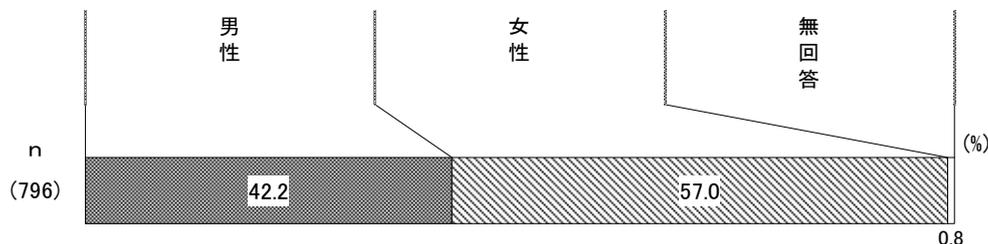
調査回答者は、「あて名のご本人(代筆・代読を含む)」が71.2%となっている。

図表 1-1 調査回答者(単数回答)



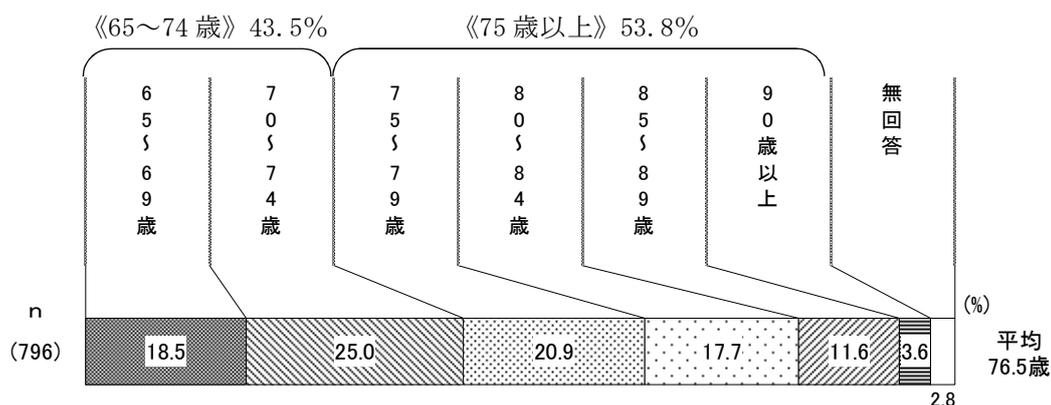
性別は、「女性」が57.0%で「男性」の42.2%より14.8ポイント高い。

図表 1-2 性別(単数回答)



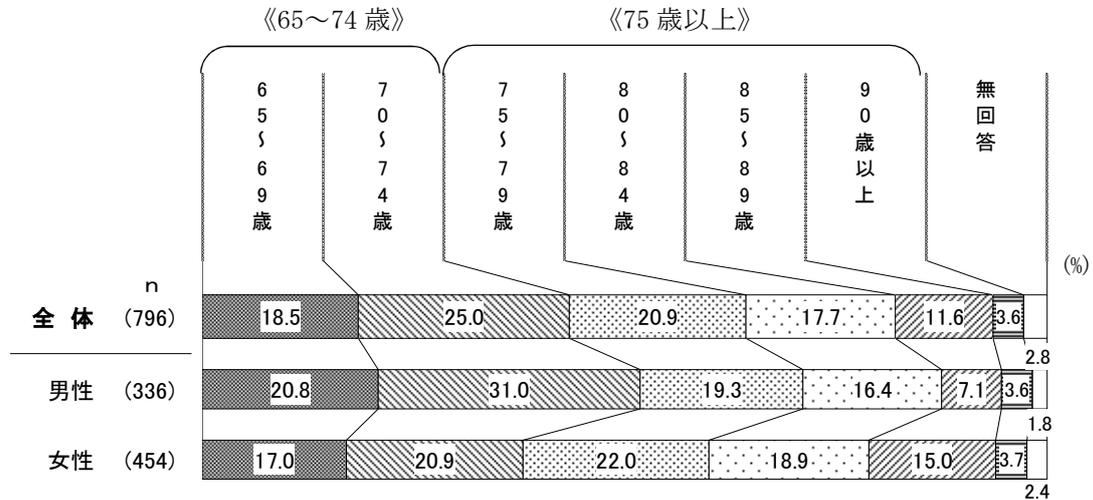
年齢は、「70~74歳」が25.0%で最も高く、これに「65~69歳」(18.5%)を合わせた《65~74歳》は43.5%となっている。一方、「75~79歳」(20.9%)、「80~84歳」(17.7%)、「85~89歳」(11.6%)、「90歳以上」(3.6%)を合わせた《75歳以上》は53.8%である。平均は76.5歳となっている。

図表 1-3 現在の満年齢(単数回答)



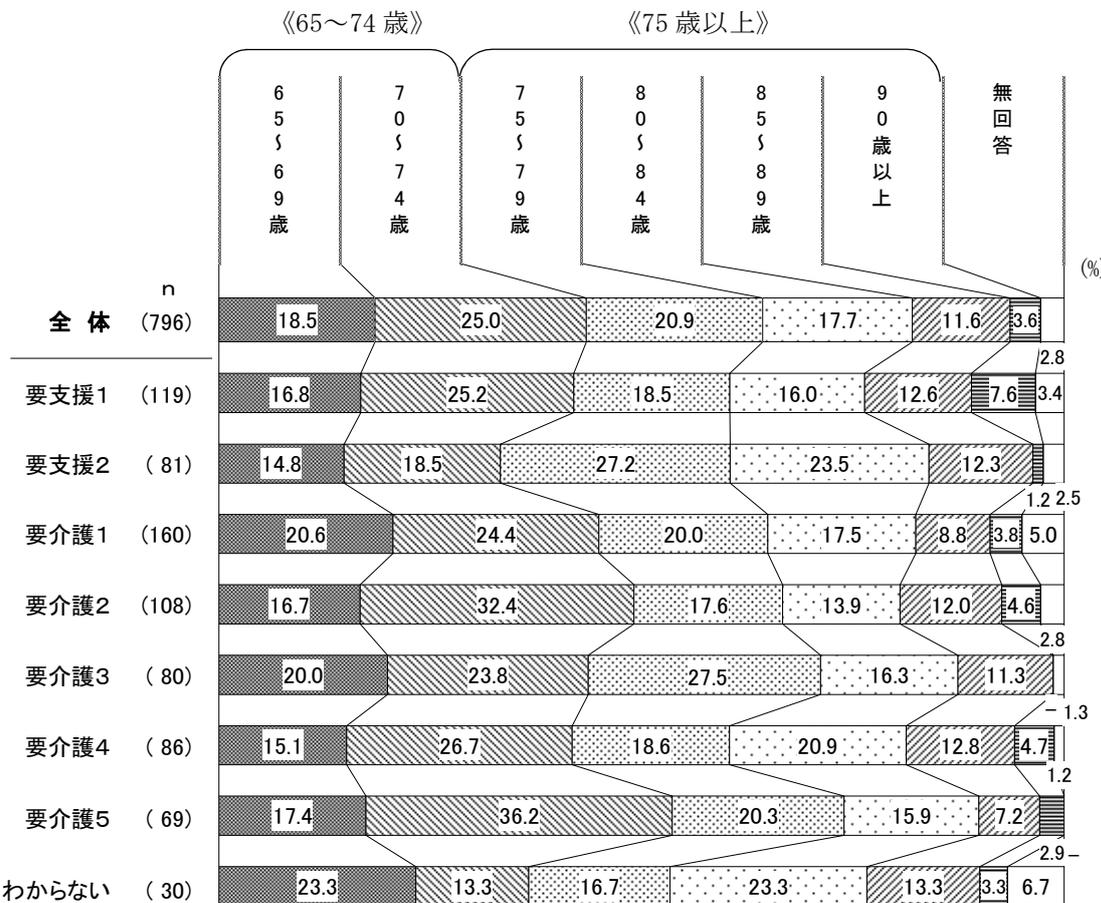
性別でみると、「70～74歳」で男性（31.0%）の方が女性（20.9%）より10.1ポイント高く、《65～74歳》でも男性（51.8%）の方が女性（37.9%）より13.9ポイント高くなっている。一方、《75歳以上》は女性（59.6%）の方が男性（46.4%）より13.2ポイント高くなっている。

図表 1-4 現在の満年齢／性別



要介護度別でみると、《65～74歳》は要介護2と要介護5で《75歳以上》より高くなっている。

図表 1-5 現在の満年齢／要介護度別



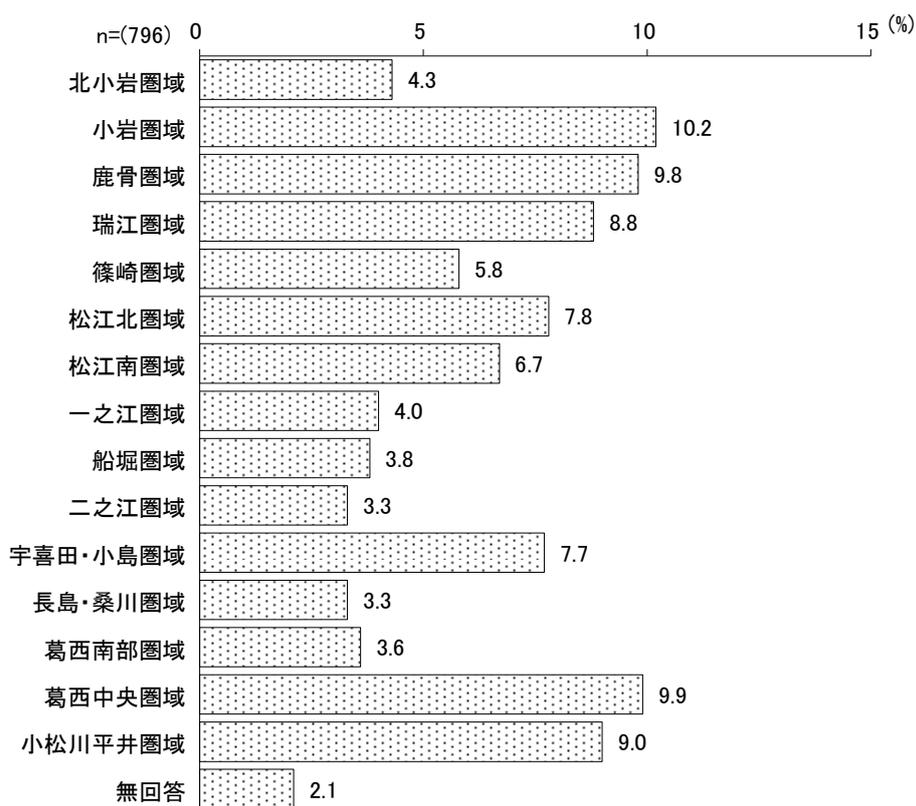
※要介護度の“わからない”は参考として図示し、文中では触れていない

## (2) 居住地（日常生活圏域）

問3 あなた(あて名のご本人)のお住まいはどこですか。記入例を参考に記入してください。  
丁目がない場合は、町名だけ記入してください。

居住地（日常生活圏域）は、「小岩圏域」が10.2%で最も高く、次いで「葛西中央圏域」が9.9%、「鹿骨圏域」が9.8%となっている。

図表 1-6 居住地（日常生活圏域）（単数回答）

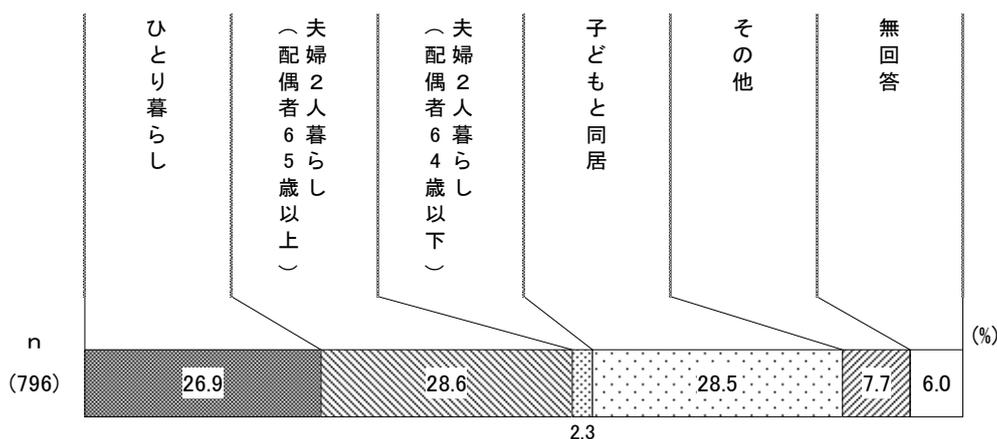


### (3) 世帯構成

問4 あなた(あて名のご本人)の現在の世帯の構成は、次のうちどれですか。(1つに○)

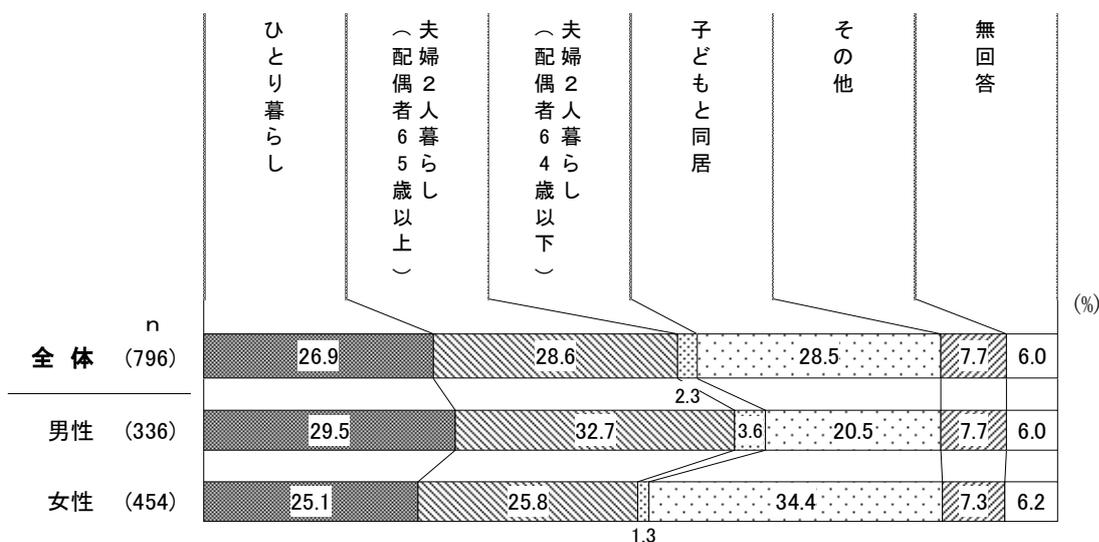
世帯構成は、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」(28.6%)と「子どもと同居」(28.5%)がおおむね並んでおり、「ひとり暮らし」が26.9%で続いている。

図表1-7 世帯構成(単数回答)



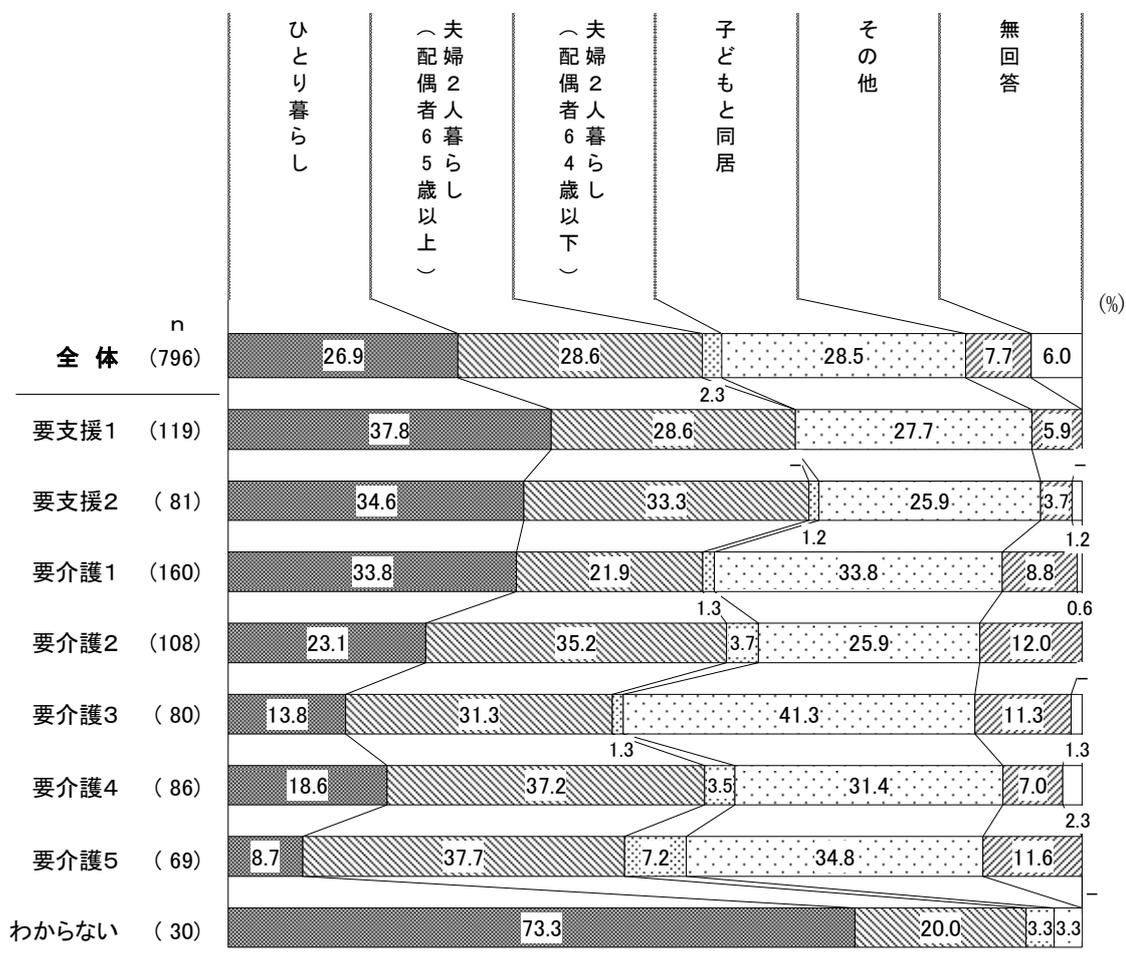
性別でみると、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」は男性の方が女性より6.9ポイント高く、「ひとり暮らし」でも男性が4.4ポイント高くなっている。逆に「子どもと同居」では女性の方が男性より13.9ポイント高くなっている。

図表1-8 世帯構成/性別



要介護度別でみると、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」は要介護4と要介護5で4割弱と高く、「子どもと同居」は要介護3で41.3%と高くなっている。また、「ひとり暮らし」は要支援1で37.8%と最も高く、要介護度が上がるほど割合が低くなり要介護5で8.7%となっている。

図表1-9 世帯構成／要介護度別



※要介護度の“わからない”は参考として図示し、文中では触れていない

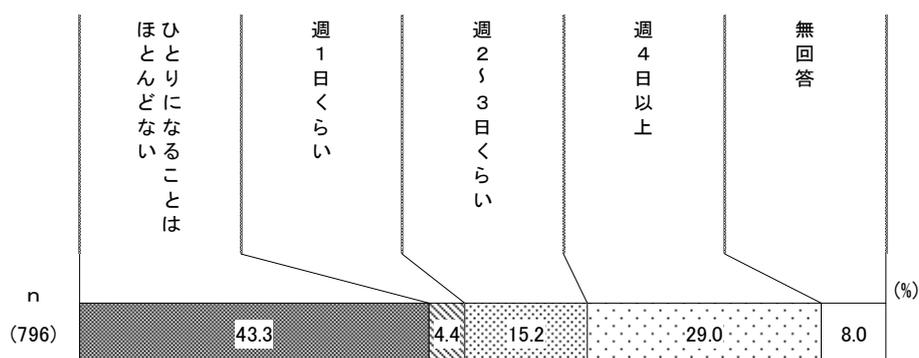
#### (4) 日中独居の状況

問5 あなた(あて名のご本人)は、日中、家にひとりであることがどのくらいありますか。

(1つに○)

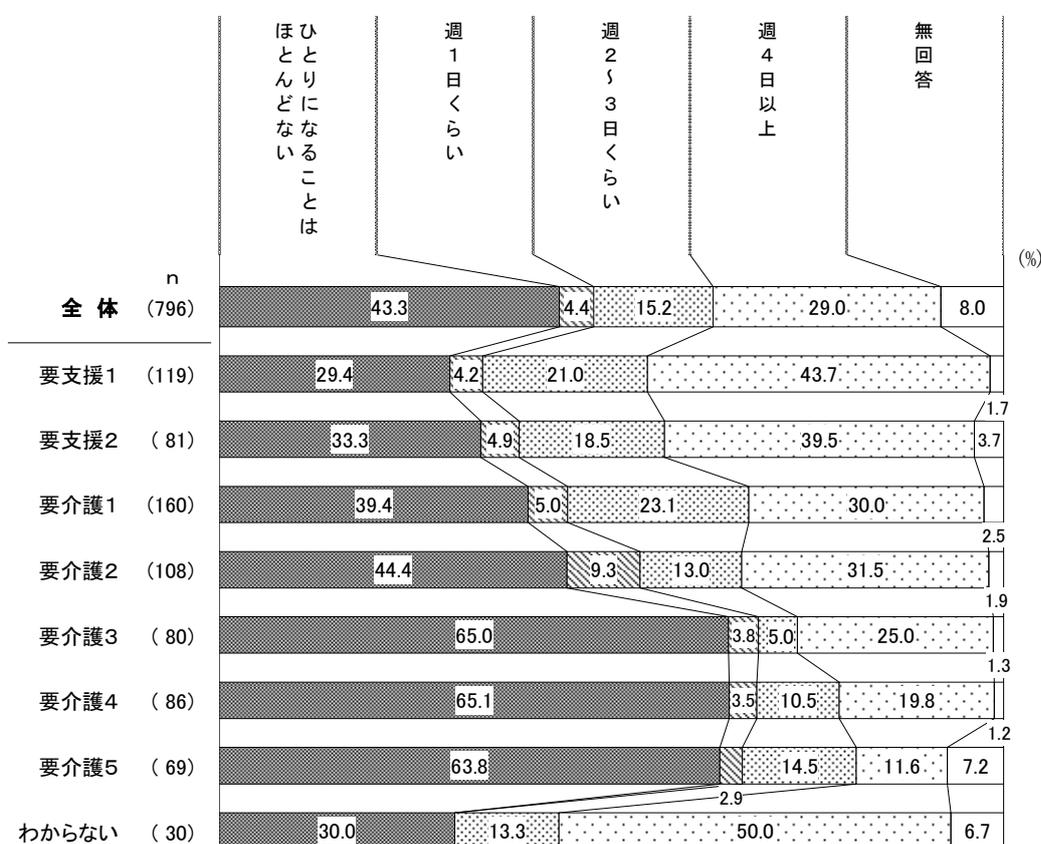
日中独居の状況は、「ひとりになることはほとんどない」が43.3%で最も高い。一方、「週4日以上」が29.0%、「週2～3日くらい」が15.2%となっている。

図表 1-10 日中独居の状況 (単数回答)



要介護度別でみると、「ひとりになることはほとんどない」は要支援1で29.4%と最も低く、要介護度が上がるほど高くなり要介護3～5で6割台半ばとなっている。一方、「週4日以上」は要支援1で43.7%と最も高く、要介護度が上がるほど低くなり、要介護5で11.6%となっている。

図表 1-11 日中独居の状況／要介護度別



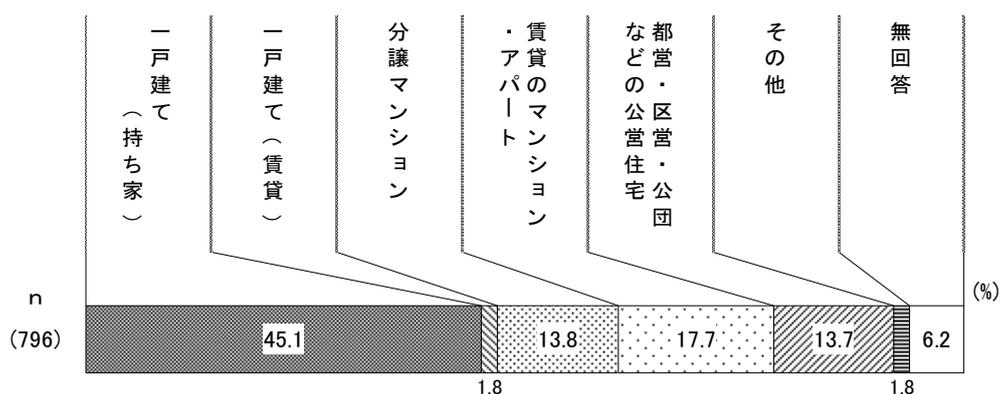
※要介護度の“わからない”は参考として図示し、文中では触れていない

## (5) 住居の形態

問6 あなた(あて名のご本人)の現在のお住まいは、次のうちどれですか。(1つに○)

住居の形態は、「一戸建て(持ち家)」が45.1%で最も高く、次いで「賃貸のマンション・アパート」(17.7%)、「分譲マンション」(13.8%)、「都営・区営・公団などの公営住宅」(13.7%) などとなっている。

図表 1-12 住居の形態(単数回答)

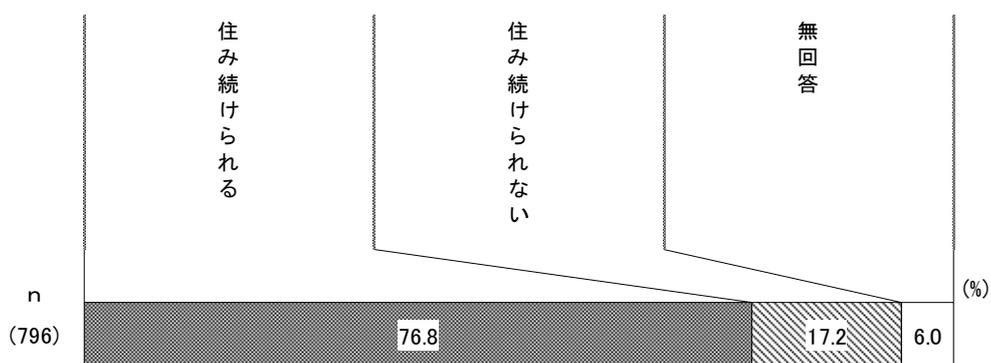


## (6) 今後も住み続けられる住まいか

問7 あなた(あて名のご本人)の現在のお住まいは、今後も住み続けられる住まいだと思いますか。(1つに○)

現在の住まいに今後も住み続けられるかをたずねたところ、「住み続けられる」が76.8%で、「住み続けられない」の17.2%を大きく上回っている。

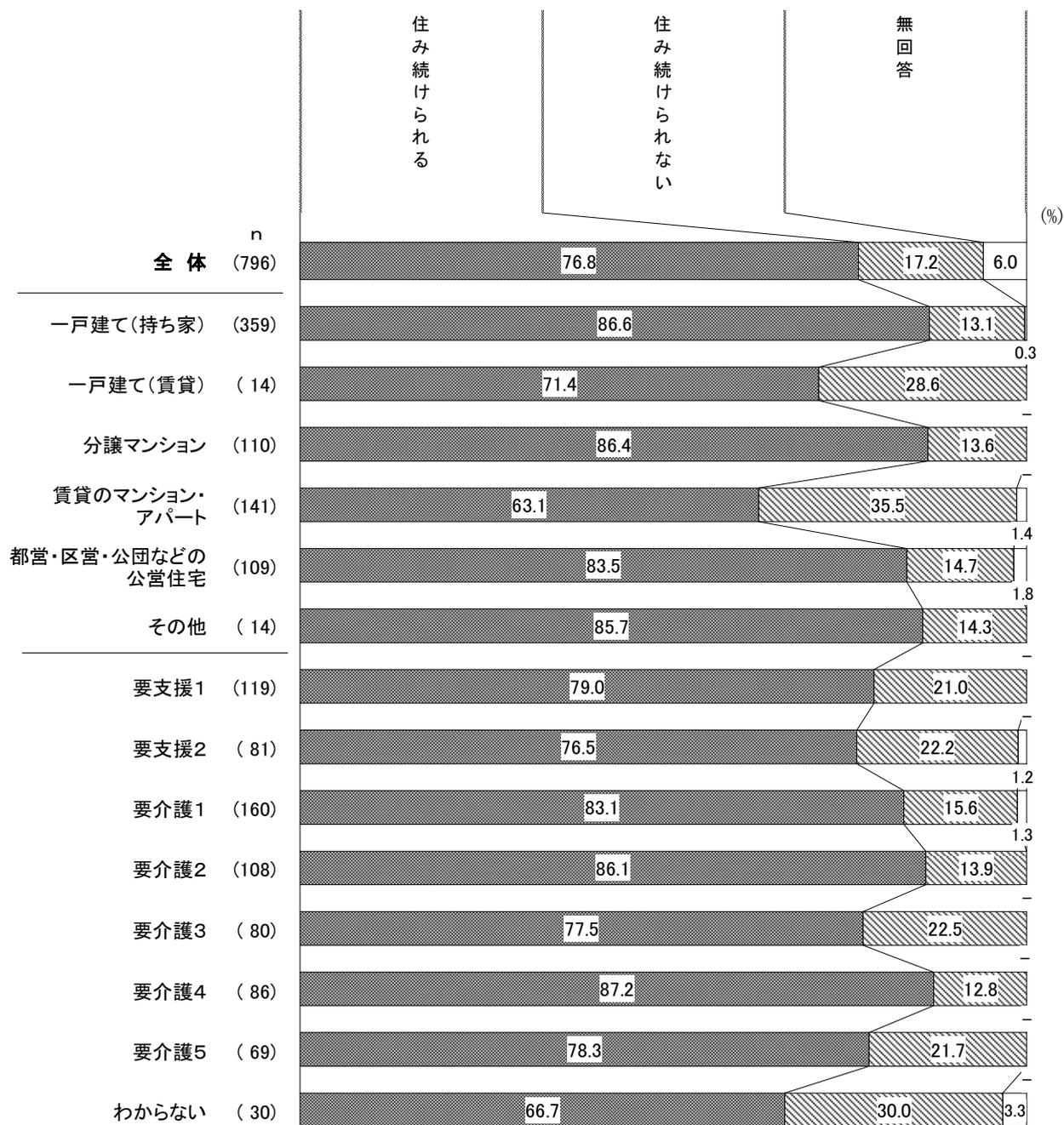
図表 1-13 今後も住み続けられる住まいか(単数回答)



住居形態別でみると、「住み続けられる」は一戸建て（持ち家）と分譲マンションで8割台半ばと高く、賃貸のマンション・アパートで63.1%と最も低くなっている。

要介護度別でみると、「住み続けられる」は要介護2と要介護4で8割台後半と高く、要支援2で76.5%と最も低くなっている。

図表 1-14 今後も住み続けられる住まいか／住居形態別、要介護度別



※要介護度の“わからない”は参考として図示し、文中では触れていない

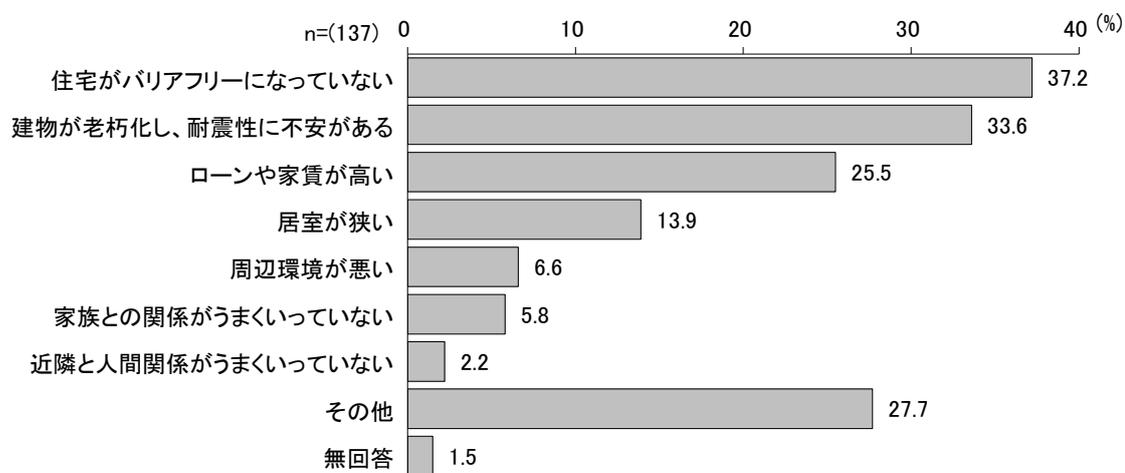
## (7) 現在の住まいに住み続けられない理由

★住み続けられないと回答した方(問7で2に○)にうかがいます。

問7-1 現在のお住まいに住み続けられない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

現在の住まいに住み続けられない理由では、「住宅がバリアフリーになっていない」が37.2%で最も高く、次いで「建物が老朽化し、耐震性に不安がある」が33.6%、「その他」が27.7%、「ローンや家賃が高い」が25.5%などとなっている。

図表 1-15 現在の住まいに住み続けられない理由（複数回答）



住居形態別、及び要介護度別では各項目の回答数（n）が少ないため、参考として掲載するが、分析は行わない。

図表 1-16 現在の住まいに住み続けられない理由／住居形態別、要介護度別

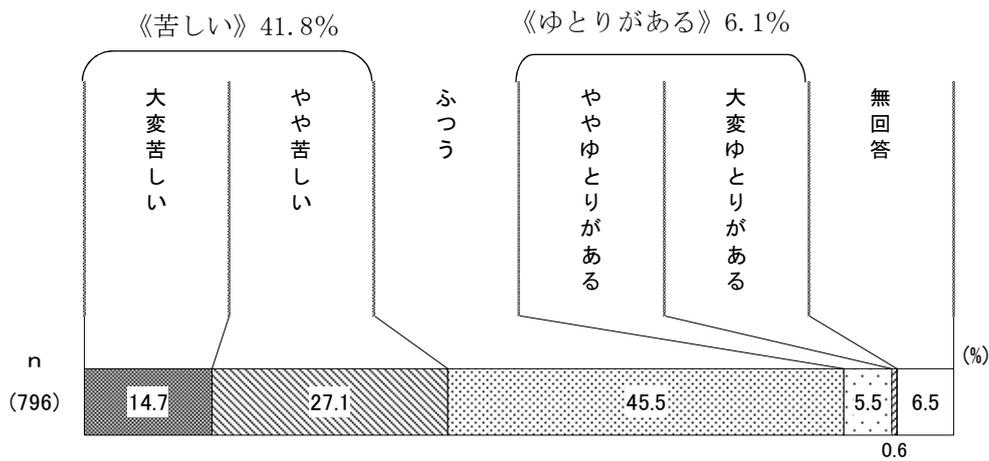
		n(人)	住宅がバリアフリーになっていない	建物が老朽化し、耐震性に不安がある	ローンや家賃が高い	居室が狭い	周辺環境が悪い	家族との関係がうまくいっていない	近隣と人間関係がうまくいっていない	その他	無回答
全 体		137	37.2	33.6	25.5	13.9	6.6	5.8	2.2	27.7	1.5
住居形態別	一戸建て(持ち家)	47	42.6	53.2	4.3	12.8	6.4	6.4	4.3	27.7	2.1
	一戸建て(賃貸)	4	25.0	50.0	25.0	-	-	-	-	25.0	-
	分譲マンション	15	40.0	6.7	6.7	20.0	-	6.7	-	33.3	-
	賃貸のマンション・アパート	50	28.0	20.0	46.0	14.0	6.0	4.0	-	34.0	2.0
	都営・区営・公団などの公営住宅	16	62.5	43.8	43.8	18.8	12.5	6.3	6.3	-	-
	その他	2	-	-	50.0	-	-	-	-	50.0	-
要介護度別	要支援1	25	28.0	36.0	20.0	12.0	-	4.0	-	40.0	-
	要支援2	18	44.4	22.2	27.8	22.2	-	11.1	-	22.2	-
	要介護1	25	44.0	36.0	52.0	16.0	20.0	4.0	4.0	24.0	4.0
	要介護2	15	20.0	26.7	-	13.3	6.7	-	6.7	46.7	6.7
	要介護3	18	27.8	55.6	27.8	5.6	-	5.6	-	16.7	-
	要介護4	11	63.6	18.2	9.1	27.3	9.1	18.2	9.1	18.2	-
	要介護5	15	53.3	20.0	26.7	6.7	-	6.7	-	26.7	-
	わからない	9	22.2	44.4	22.2	11.1	22.2	-	-	22.2	-

## (8) 経済的にみた現在の暮らしの状況

問8 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。(1つに○)

経済的にみた現在の暮らしの状況は、「ふつう」が45.5%と最も高くなっている。次いで「やや苦しい」が27.1%で、これに「大変苦しい」(14.7%)を合わせた《苦しい》は41.8%となっている。一方、「ややゆとりがある」(5.5%)と「大変ゆとりがある」(0.6%)を合わせた《ゆとりがある》は6.1%である。

図表 1-17 経済的にみた現在の暮らしの状況 (単数回答)



## 2 介護度及び介護が必要になった原因について

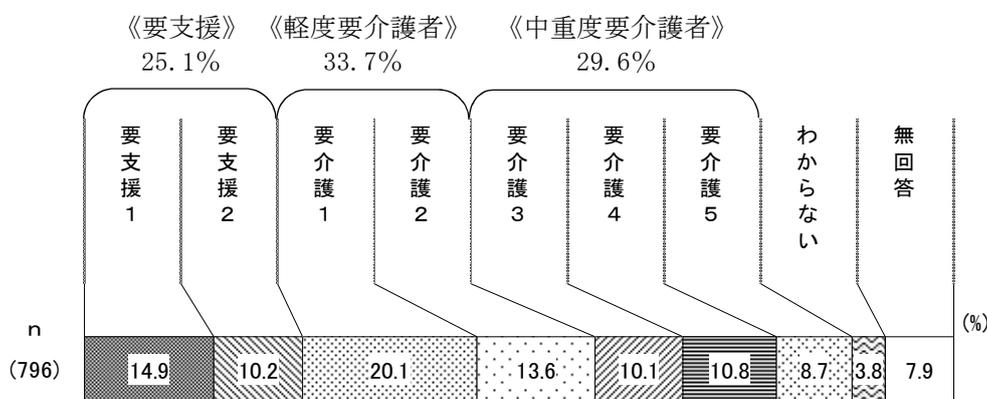
### (1) 要介護度

問9 あなた(あて名のご本人)の現在の介護度は、次のどれですか。(1つに○)

要介護度は、「要介護1」が20.1%で最も高く、次いで、「要支援1」(14.9%)、「要介護2」(13.6%)などとなっている。

「要支援1」と「要支援2」を合わせた《要支援》は25.1%、「要介護1」と「要介護2」を合わせた《軽度要介護者》は33.7%、「要介護3」、「要介護4」及び「要介護5」を合わせた《中重度要介護者》は29.6%である。

図表2-1 要介護度 (単数回答)

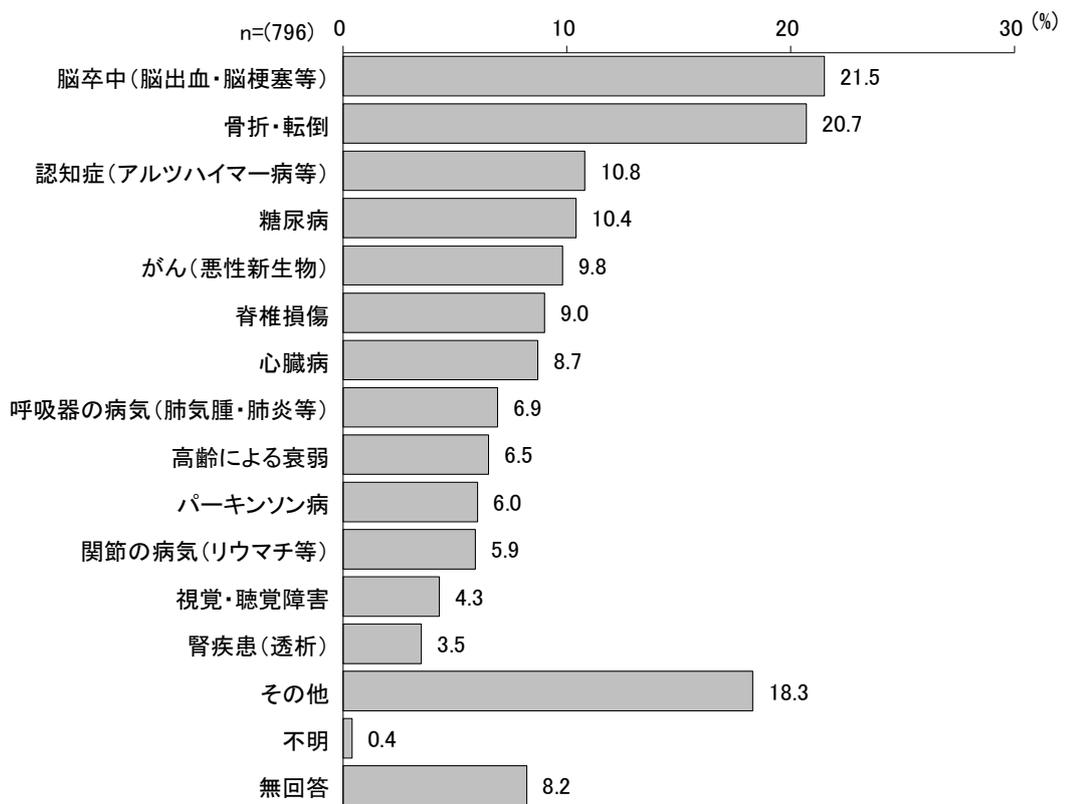


## (2) 支援や介護が必要となった原因

問10 あなた(あて名のご本人)に、支援や介護が必要となったのは、どのようなことが原因でしたか。(あてはまるものすべてに○)

支援や介護が必要となった原因は、「脳卒中(脳出血・脳梗塞等)」が21.5%で最も高く、次いで「骨折・転倒」(20.7%)が僅差で続き、「認知症(アルツハイマー病等)」(10.8%)と「糖尿病」(10.4%)が1割台となっている。

図表2-2 支援や介護が必要となった原因(複数回答)



要介護度別でみると、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」は要介護3～5の《中重度要介護者》で3割台と高く、「骨折・転倒」は要支援2と要介護4で2割台後半と他の介護認定状況に比べて高くなっている。また、「認知症（アルツハイマー病等）」は要介護3で21.3%と他の介護認定状況に比べて高くなっている。

図表2-3 支援や介護が必要となった原因／要介護度別

		n(人)	脳卒中(脳出血・脳梗塞等)	骨折・転倒	認知症(アルツハイマー病等)	糖尿病	がん(悪性新生物)	脊椎損傷	心臓病	呼吸器の病気(肺気腫・肺炎等)	高齢による衰弱	パーキンソン病	関節の病気(リウマチ等)	視覚・聴覚障害	腎疾患(透析)	その他
全 体		796	21.5	20.7	10.8	10.4	9.8	9.0	8.7	6.9	6.5	6.0	5.9	4.3	3.5	18.3
要介護度別	要支援1	119	13.4	16.0	3.4	10.1	5.0	5.9	10.1	8.4	7.6	1.7	10.1	4.2	3.4	26.1
	要支援2	81	13.6	25.9	6.2	13.6	8.6	19.8	8.6	3.7	6.2	2.5	11.1	4.9	2.5	18.5
	要介護1	160	23.8	23.8	11.9	12.5	11.3	8.8	15.0	8.1	6.3	7.5	6.3	6.3	6.3	18.8
	要介護2	108	20.4	23.1	13.0	7.4	14.8	6.5	6.5	10.2	6.5	8.3	5.6	3.7	3.7	17.6
	要介護3	80	36.3	23.8	21.3	11.3	11.3	6.3	6.3	5.0	7.5	6.3	3.8	5.0	1.3	20.0
	要介護4	86	30.2	27.9	11.6	9.3	11.6	17.4	7.0	7.0	5.8	9.3	2.3	1.2	3.5	14.0
	要介護5	69	34.8	11.6	17.4	15.9	15.9	5.8	5.8	7.2	7.2	11.6	1.4	4.3	1.4	21.7
	わからない	30	6.7	16.7	6.7	10.0	-	10.0	10.0	6.7	13.3	6.7	10.0	3.3	6.7	20.0

※設問の「不明」「無回答」は掲載を省略している

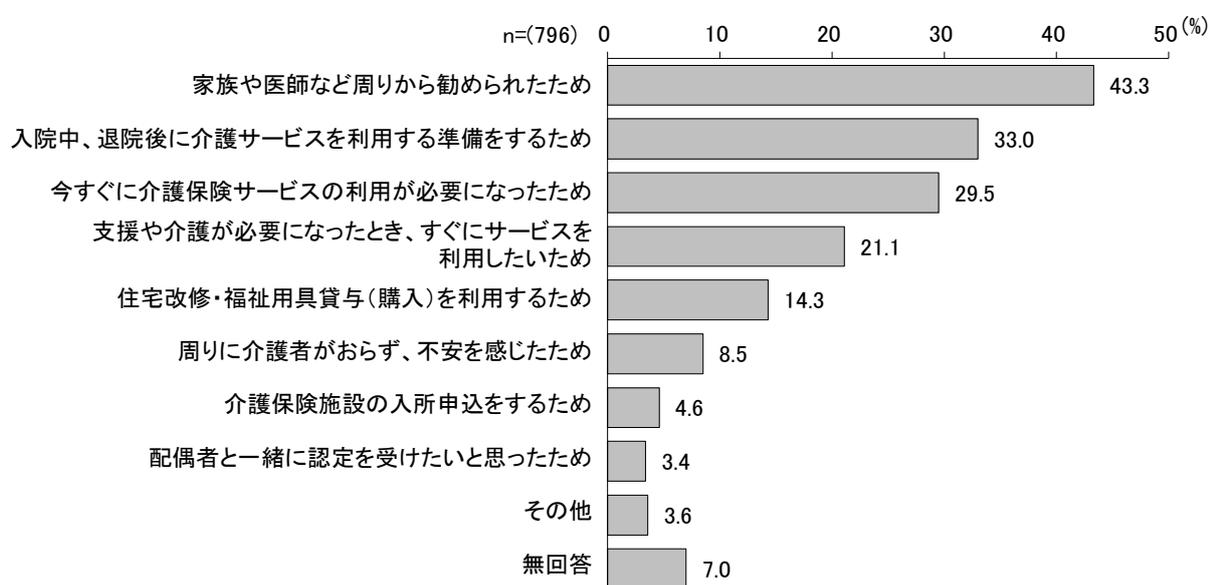
※要介護度の“わからない”は参考として図示し、文中では触れていない

### (3) 要介護認定を受けた理由

問11 あなた(あて名のご本人)が初めて要介護認定を受けた理由は何ですか。  
(あてはまるものすべてに○)

要介護認定を初めて受けた理由は、「家族や医師など周りから勧められたため」が43.3%で最も高く、次いで「入院中、退院後に介護サービスを利用する準備をするため」が33.0%、「今すぐに介護保険サービスの利用が必要になったため」が29.5%、「支援や介護が必要になったとき、すぐにサービスを利用したいため」が21.1%などとなっている。

図表2-4 要介護認定を受けた理由(複数回答)



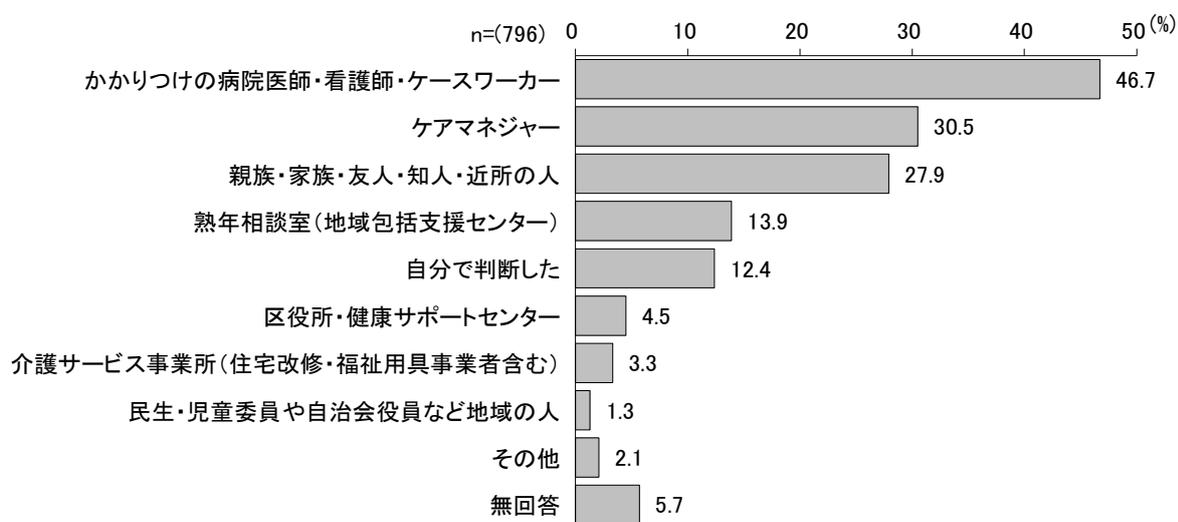
#### (4) 介護認定の申請を勧めた人や機関等

問12 あなた(あて名のご本人)に介護認定の申請を勧めたのはどなたですか。

(あてはまるものすべてに○)

介護認定の申請を勧めたの人や機関等では、「かかりつけの病院医師・看護師・ケースワーカー」が46.7%で最も高く、次いで「ケアマネジャー」が30.5%、「親族・家族・友人・知人・近所の人」が27.9%、「熟年相談室(地域包括支援センター)」が13.9%となっている。

図表2-5 介護認定の申請を勧めた人や機関等(複数回答)



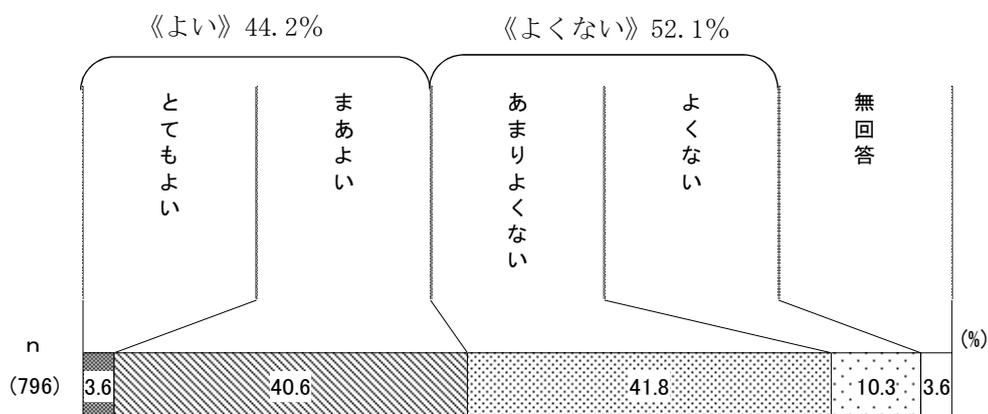
### 3 健康や医療の状況について

#### (1) 健康状態

問13 現在のあなた(あて名のご本人)の健康状態はいかがですか。 (1つに〇)

健康状態は、「あまりよくない」が41.8%で最も高く、これに「よくない」(10.3%)を合わせた《よくない》は52.1%と半数を超えている。一方、「とてもよい」(3.6%)と「まあよい」(40.6%)を合わせた《よい》は44.2%である。

図表3-1 健康状態 (単数回答)



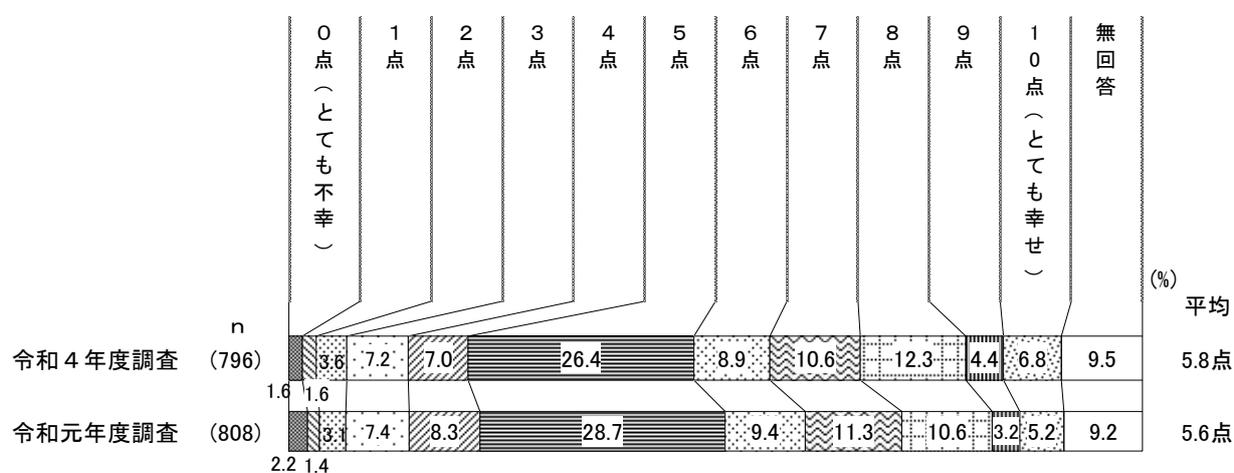
## (2) 現在の幸福度

問14 あなた(あて名のご本人)は、現在どの程度幸せですか。(点数に○)  
 (「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください)

現在の幸福度は、「5点」が26.4%で最も高く、次いで「8点」が12.3%、「7点」が10.6%などとなっている。平均は、5.8点である。

令和元年度調査と比較すると、8点以上と回答した人が4.5ポイント増加している。

図表3-2 現在の幸福度(単数回答)



### (3) こころの健康とうつ傾向

問15 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。  
(1つに○)

問16 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。(1つに○)

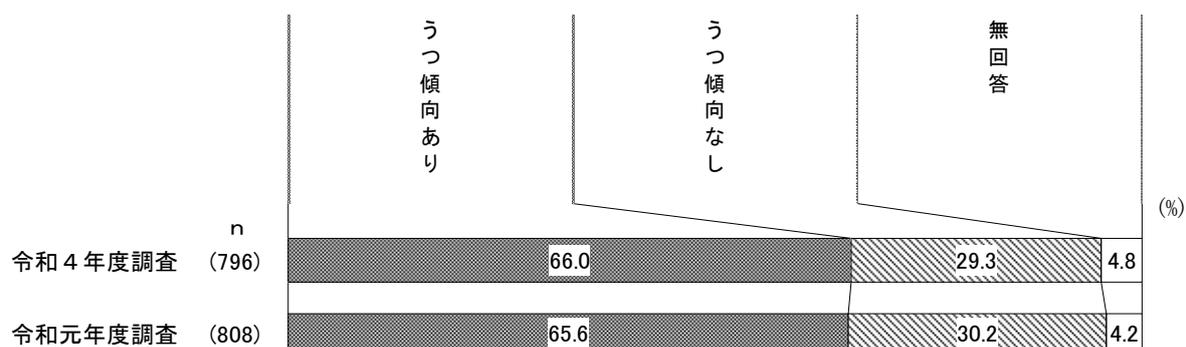
設問内容	選択肢	
この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。	1. はい	59.0%
	2. いいえ	34.5%
	無回答	6.4%
この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。	1. はい	52.3%
	2. いいえ	41.1%
	無回答	6.7%

これらの設問は、『介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き』において、うつ傾向を問うものとされており、いずれか1つでも「はい」を選択した場合は、うつ傾向のある高齢者と考えられている。

その割合を算出したところ、「うつ傾向あり」は66.0%である。

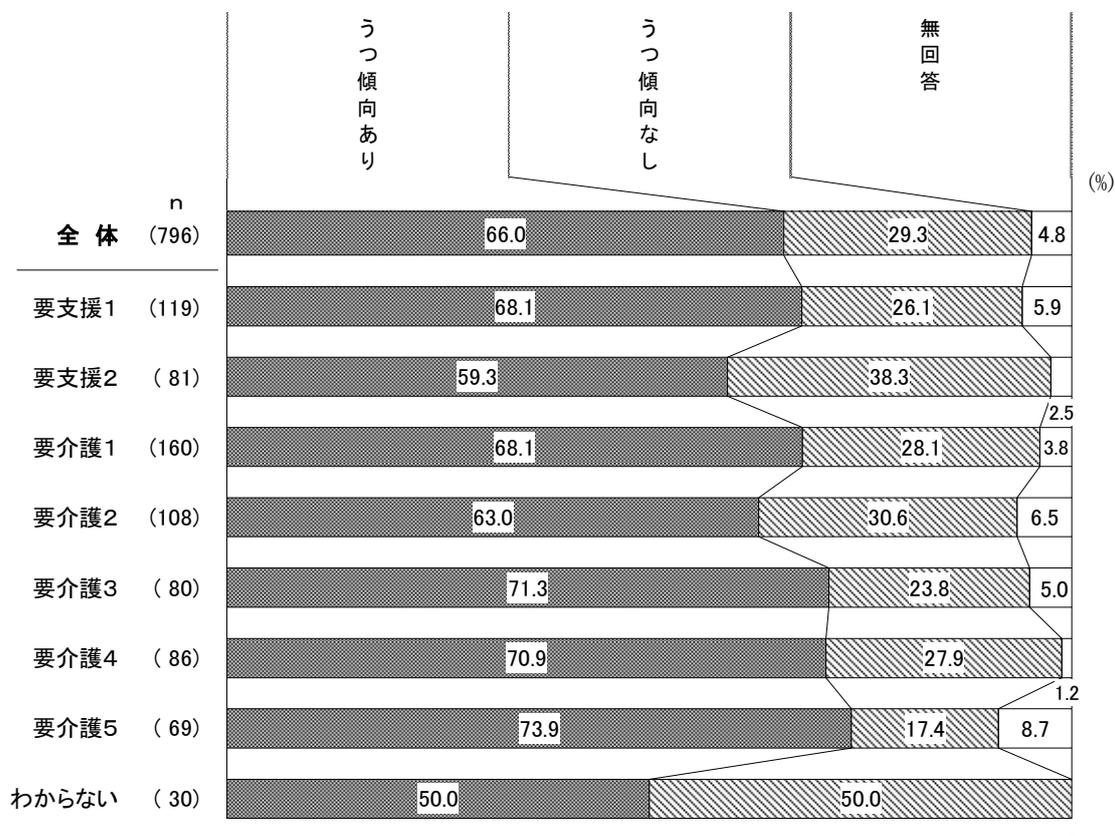
令和元年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

図表3-3 高齢者のうつ傾向（単数回答）



要介護度別でみると、「うつ傾向あり」はすべての要介護度で半数を超えており、要介護5で73.9%と最も高くなっている。

図表3-4 高齢者のうつ傾向／要介護度別



※要介護度の“わからない”は参考として図示し、文中では触れていない

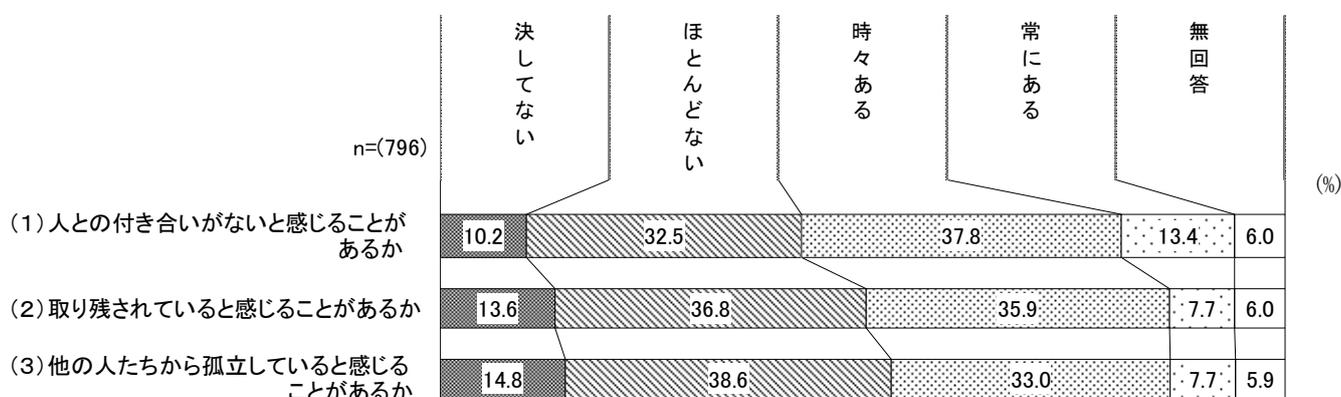
#### (4) UCLA 孤独感尺度

問17 以下の設問にお答えください。(それぞれ1つに○)

- (1) 自分には人との付き合いがないと感じることがありますか。
- (2) 自分は取り残されていると感じることがありますか。
- (3) 自分は他の人たちから孤立していると感じることがありますか。

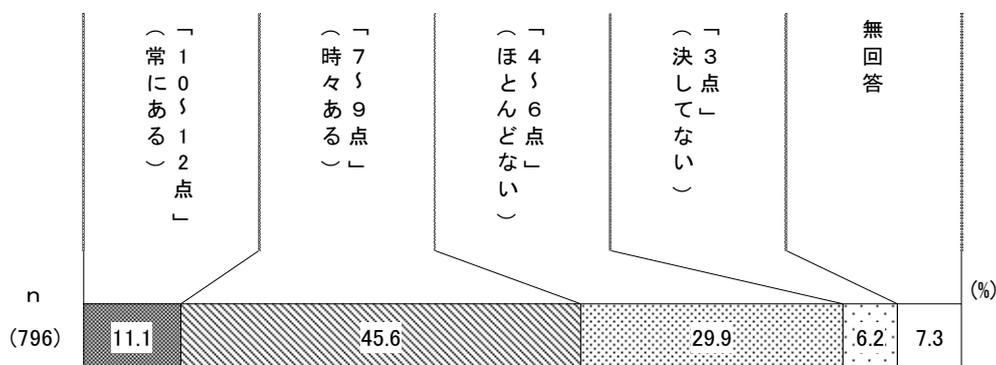
「ほとんどない」は“自分は取り残されていると感じる頻度”と“自分は他の人たちから孤立していると感じる頻度”で3割台後半と最も高く、「時々ある」は“自分には人との付き合いがないと感じる頻度”で37.8%と最も高くなっている。

図表3-5 UCLA 孤独感尺度 (3項目短縮版)



UCLA 孤独感尺度に基づく孤独感スコア\*は、「時々ある (7~9点)」が45.6%で最も高く、次いで「ほとんどない (4~6点)」が29.9%、「常にある (10~12点)」が11.1%となっている。

図表3-6 UCLA 孤独感尺度に基づく孤独感スコア



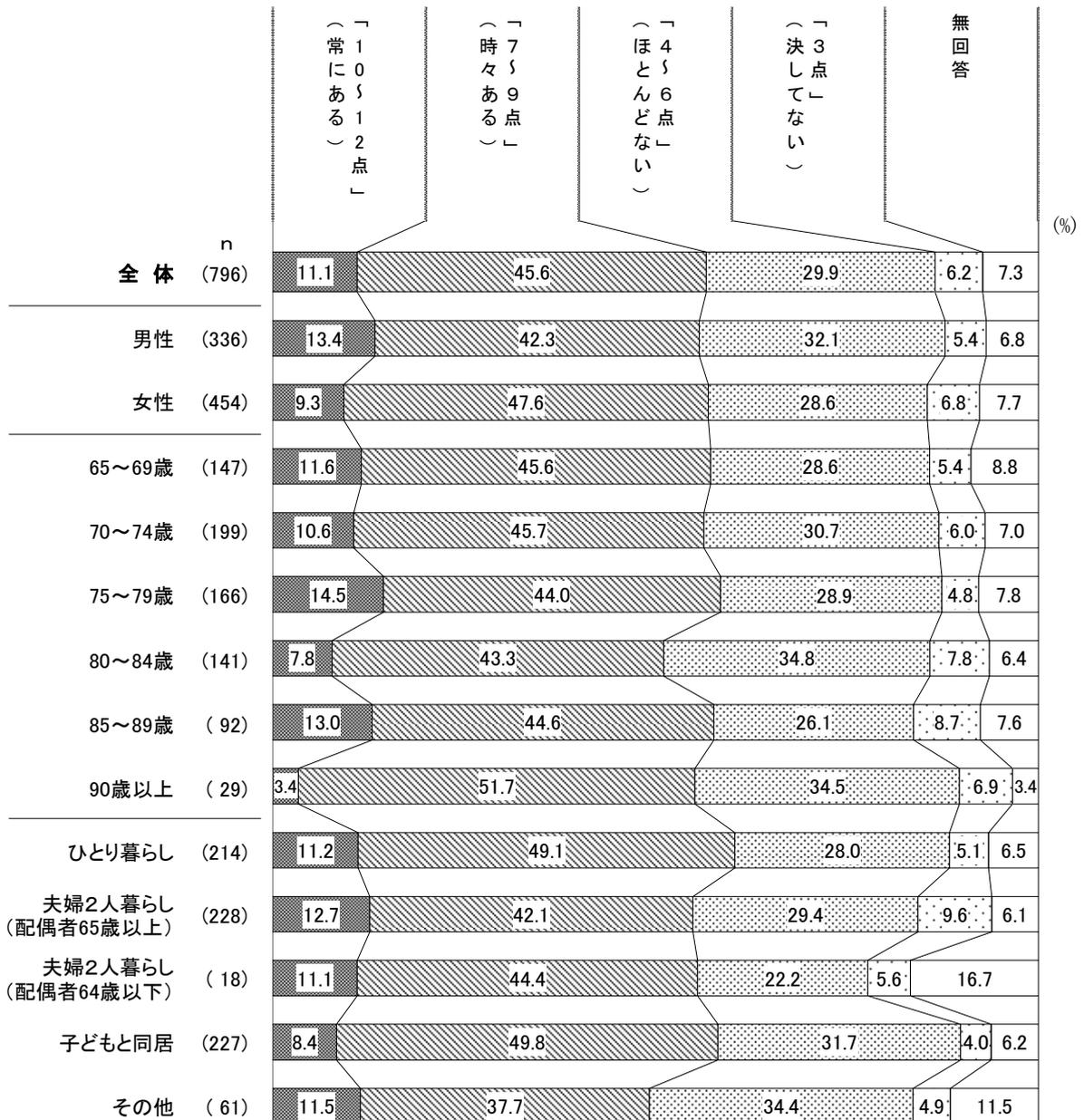
※UCLA 孤独感尺度は 66 ページを参照

性別でみると、「常にある（10～12点）」は男性の方が4.1ポイント高くなっているが、「時々ある（7～9点）」は女性の方が5.3ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「常にある（10～12点）」は75～79歳で14.5%と最も高く、90歳以上で3.4%と最も低くなっている。

世帯構成別でみると、「常にある（10～12点）」は夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）で12.7%と最も高く、子どもと同居で8.4%と最も低くなっている。

図表3-7 UCL A孤独感尺度に基づく孤独感スコア／性別、年齢別、世帯構成別

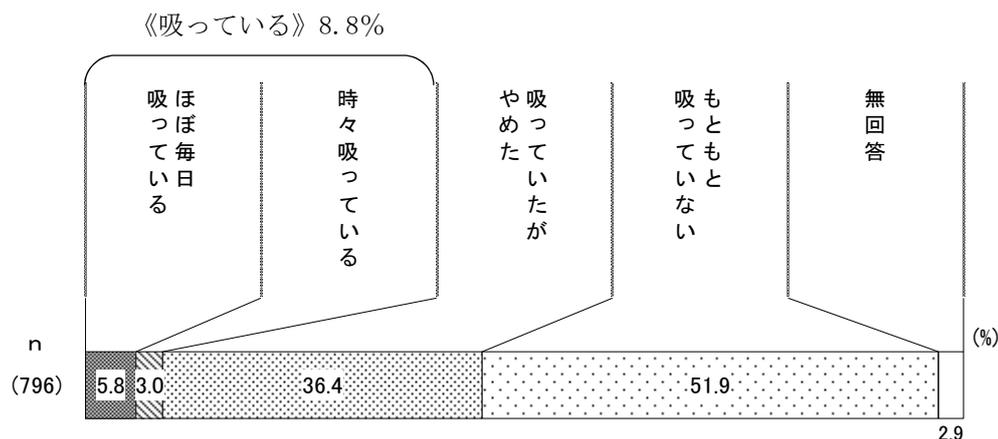


## (5) 喫煙の有無

問18 タバコは吸っていますか。(1つに○)

喫煙については、「ほぼ毎日吸っている」が5.8%、「時々吸っている」が3.0%で、これらを合わせた《吸っている》は8.8%となっている。

図表3-8 喫煙の有無（単数回答）



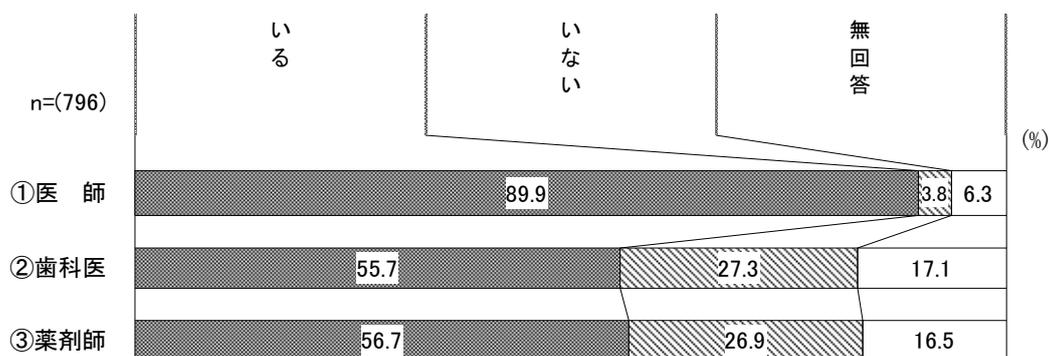
## (6) かかりつけ医師、歯科医、薬剤師の有無

問19 あなた(あて名のご本人)には、かかりつけの医師、歯科医、薬剤師(※)がいますか。  
(それぞれ1つに○)

※日頃から自分または家族の健康状態をよく知っていて、日常的な健康管理をまかせられる医師、歯科医、薬剤師

かかりつけ医師、歯科医、薬剤師の有無は、「いる」は医師が89.9%と最も高く、薬剤師(56.7%)と歯科医(55.7%)が5割台半ばとなっている。

図表3-9 かかりつけ医師、歯科医、薬剤師の有無（単数回答）



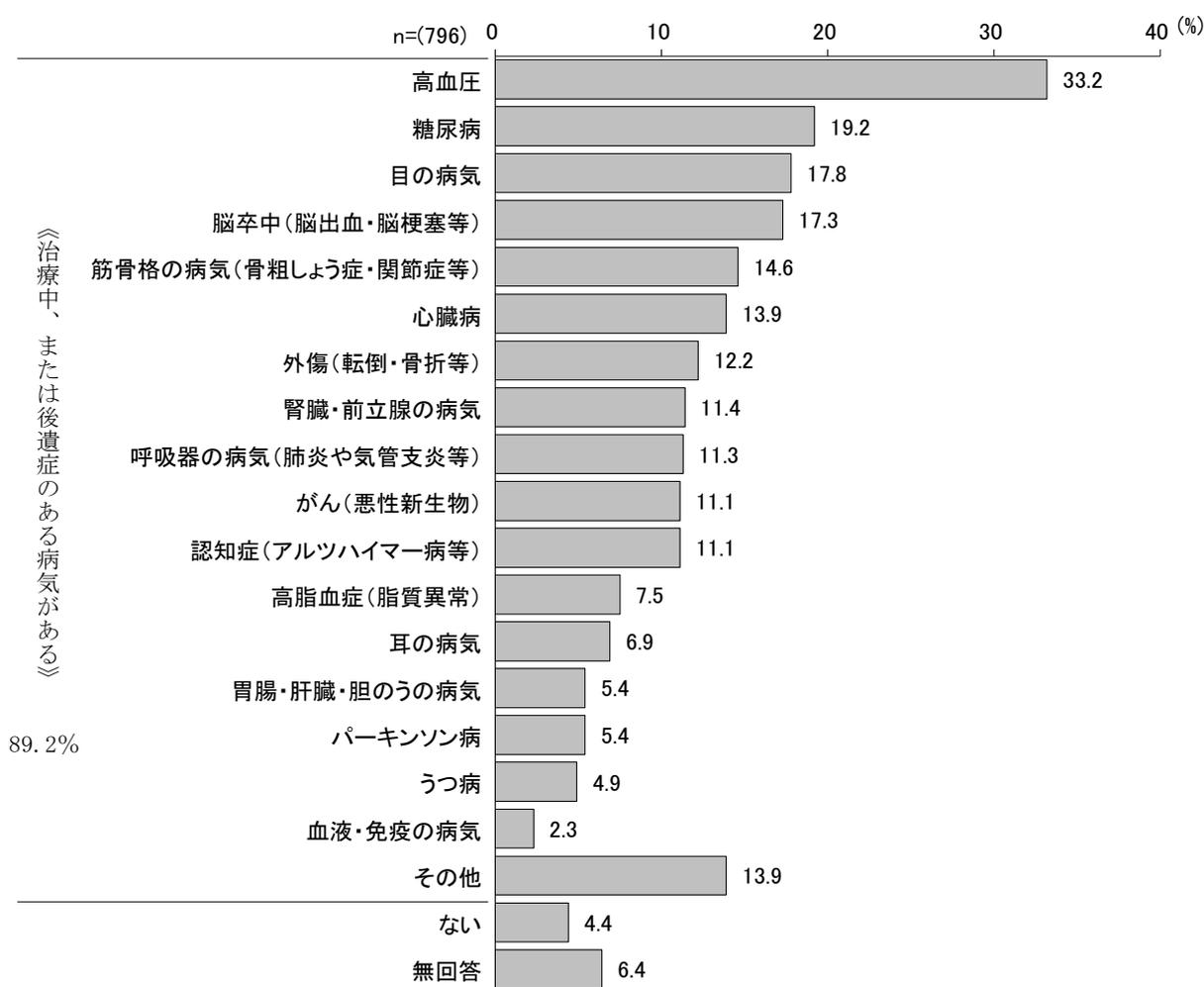
## (7) 治療中、または後遺症のある病気

問20 あなた(あて名のご本人)は、現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。  
(あてはまるものすべてに○)

治療中、または後遺症のある病気の有無では、《治療中、または後遺症のある病気がある》が89.2%、「ない」が4.4%である。

病気の中では、「高血圧」が33.2%で最も高く、次いで「糖尿病」(19.2%)、「目の病気」(17.8%)、「脳卒中(脳出血・脳梗塞等)」(17.3%)などとなっている。

図表3-10 治療中、または後遺症のある病気(複数回答)



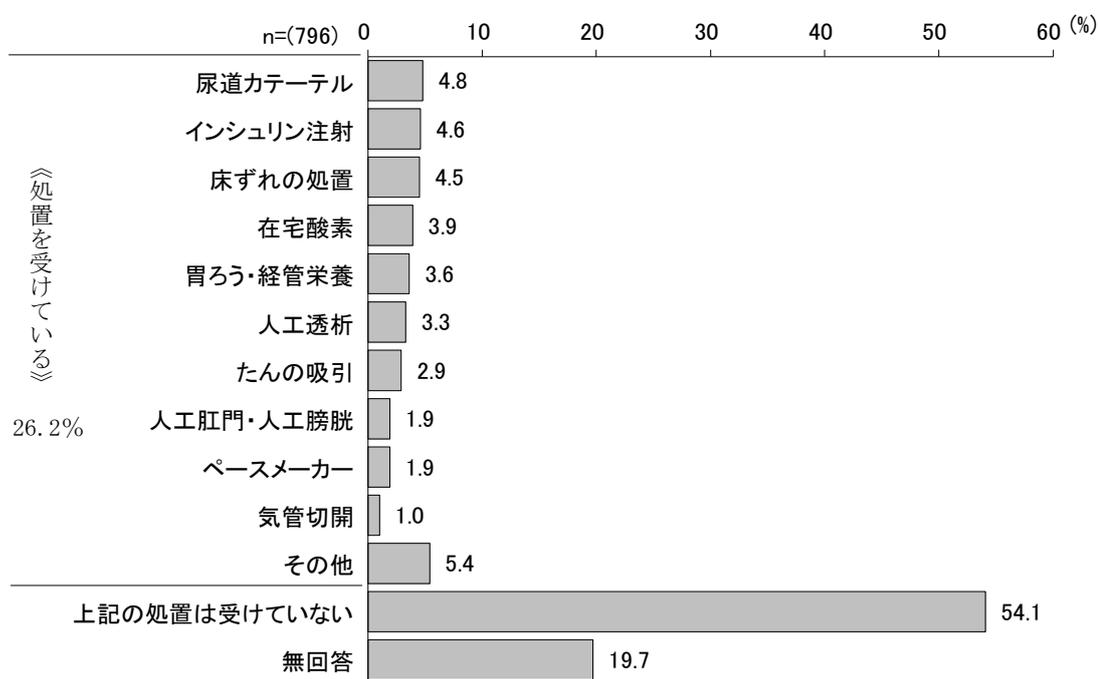
## (8) 医療処置の状況

問21 あなた（あて名のご本人）は、次のような医療器具を利用したり、処置を受けたりしていますか。（あてはまるものすべてに○）

医療処置の状況は、《処置を受けている》が26.2%、「上記の処置は受けていない」が54.1%である。

利用している医療器具・受けている処置としては、「尿道カテーテル」が4.8%、「インシュリン注射」が4.6%、「床ずれの処置」が4.5%などとなっている。

図表3-11 医療処置の状況（複数回答）



※《処置を受けている》=100%－「上記の処置は受けていない」－「無回答」

要介護度別でみると、《処置を受けている》は要介護5が53.6%で最も高く、次いで要介護4(31.4%)で、おおむね要介護度に倣った順となっている。要介護5の方で受けている処置の割合が高いのは、「胃ろう・経管栄養」(30.4%)、「床ずれの処置」と「たんの吸引」(各21.7%)、「尿道カテーテル」(17.4%)などとなっている。

図表3-12 医療処置の状況／要介護度別

	n(人)	尿道カテーテル	インシュリン注射	床ずれの処置	在宅酸素	胃ろう・経管栄養	人工透析	たんの吸引	人工肛門・人工膀胱	ペースメーカー	気管切開	その他	上記の処置は受けていない	《処置を受けている》
全 体	796	4.8	4.6	4.5	3.9	3.6	3.3	2.9	1.9	1.9	1.0	5.4	54.1	26.2
要介護度別	要支援1	119	1.7	5.0	0.8	5.9	-	2.5	-	1.7	1.7	-	5.0	21.9
	要支援2	81	2.5	6.2	2.5	-	1.2	2.5	-	1.2	4.9	-	7.4	23.5
	要介護1	160	1.9	4.4	-	3.1	-	3.8	1.3	1.9	1.9	0.6	6.3	21.2
	要介護2	108	5.6	6.5	2.8	2.8	0.9	2.8	0.9	4.6	1.9	-	4.6	25.0
	要介護3	80	3.8	2.5	6.3	5.0	1.3	1.3	2.5	1.3	-	-	7.5	26.2
	要介護4	86	10.5	3.5	11.6	3.5	4.7	4.7	2.3	1.2	1.2	1.2	4.7	31.4
	要介護5	69	17.4	7.2	21.7	8.7	30.4	2.9	21.7	1.4	1.4	7.2	2.9	29.0
	わからない	30	-	6.7	-	6.7	-	3.3	-	-	3.3	-	6.7	20.0

※設問の「無回答」は掲載を省略している

※《処置を受けている》=100% - 「上記の処置は受けていない」 - 「無回答」

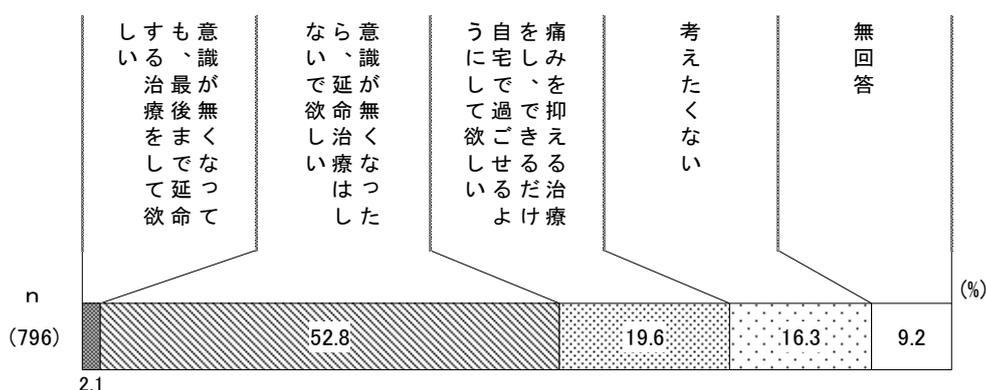
※要介護度の“わからない”は参考として図示し、文中では触れていない

### (9) 人生の最終段階の医療に関する意向

問22 あなた（あて名のご本人）は人生の最終段階の医療をどうして欲しいですか。  
（1つに○）

人生の最終段階の医療に関する意向は、「意識が無くなったら、延命治療はしないで欲しい」が52.8%で最も高くなっている。次いで「痛みを抑える治療をし、できるだけ自宅で過ごせるようにして欲しい」が19.6%となっている。一方、「考えたくない」が16.3%となっている。

図表3-13 人生の最終段階の医療に関する意向（単数回答）

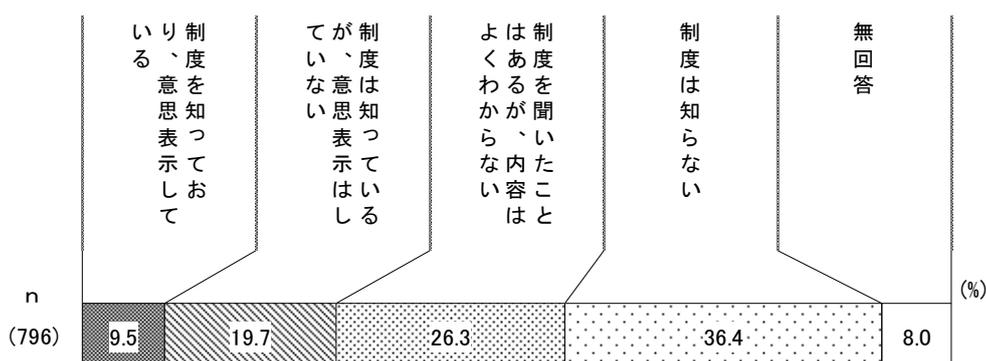


### (10) 人生の最終段階の医療について意思表示する制度の認知度

問23 あなた（あて名のご本人）は人生の最終段階の医療について意思表示する制度があることを知っていますか。（1つに○）

人生の最終段階の医療について意思表示する制度の認知度は、「制度は知らない」が36.4%で最も高く、以下「制度を聞いたことはあるが、内容はよくわからない」が26.3%、「制度は知っているが、意思表示はしていない」が19.7%、「制度を知っており、意思表示している」が9.5%の順となっている。

図表3-14 人生の最終段階の医療について意思表示する制度の認知度（単数回答）

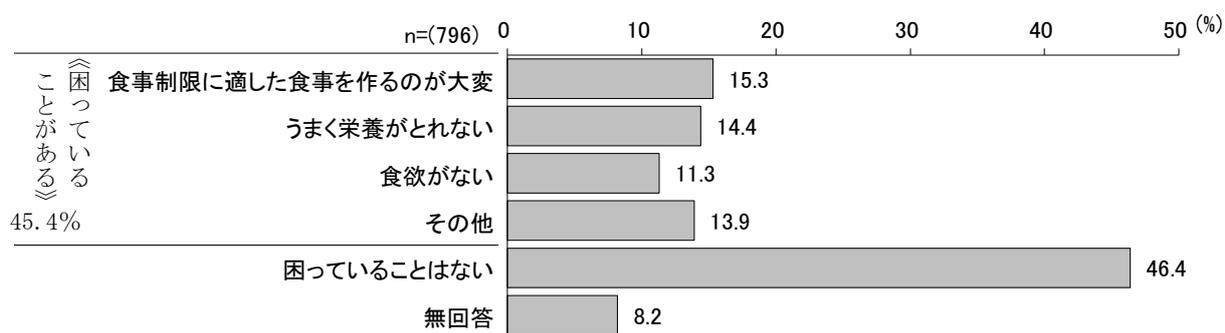


## (11) 食生活で困っていること

問24 あなた（あて名のご本人）が食生活で困っていることは、次のうちどれですか。  
（あてはまるものすべてに○）

食生活の困りごとの有無は、「困っていることがある」が45.4%で、「困っていることはない」が46.4%とほぼ同じ割合となっている。困りごとの内容としては、「食事制限に適した食事を作るのが大変」が15.3%で最も高く、次いで「うまく栄養がとれない」が14.4%となっている。

図表3-15 食生活で困っていること（複数回答）



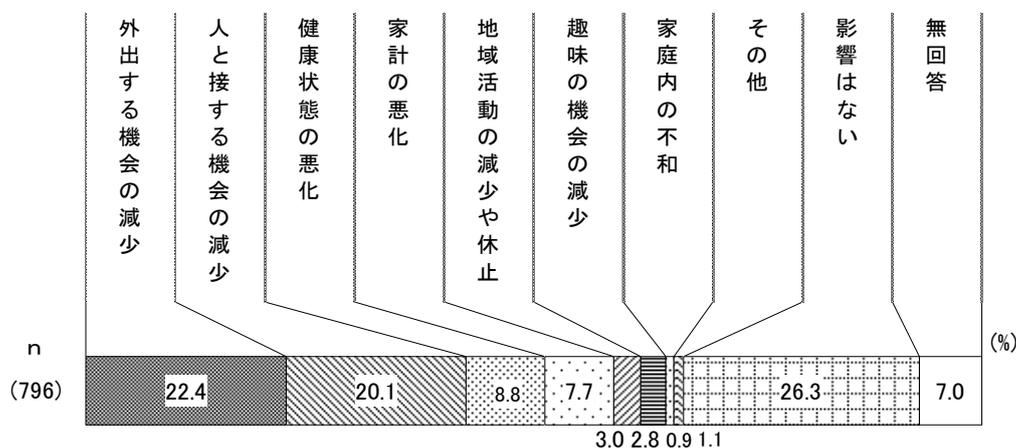
## 4 コロナ禍による日常生活への影響について

### (1) コロナ禍による日常生活への影響

問25 いわゆるコロナ禍によって、現在までに、あなた(あて名のご本人)自身の日常生活にどのような影響がありましたか。(最も影響があったもの1つに○)

コロナ禍による日常生活への影響は、「外出する機会の減少」が22.4%で最も高く、次いで「人と接する機会の減少」が20.1%、「健康状態の悪化」が8.8%、「家計の悪化」が7.7%などとなっている。一方、「影響はない」が26.3%となっている。

図表4-1 コロナ禍による日常生活への影響（単数回答）



## 5 介護保険サービス等の利用について

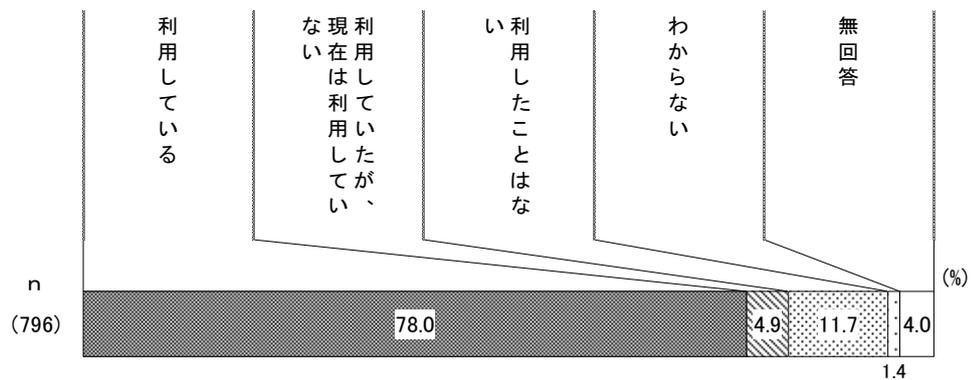
### (1) 介護保険サービスの利用状況

問26 あなた（あて名のご本人）は、現在、介護保険サービスを利用していますか。

(1つに〇)

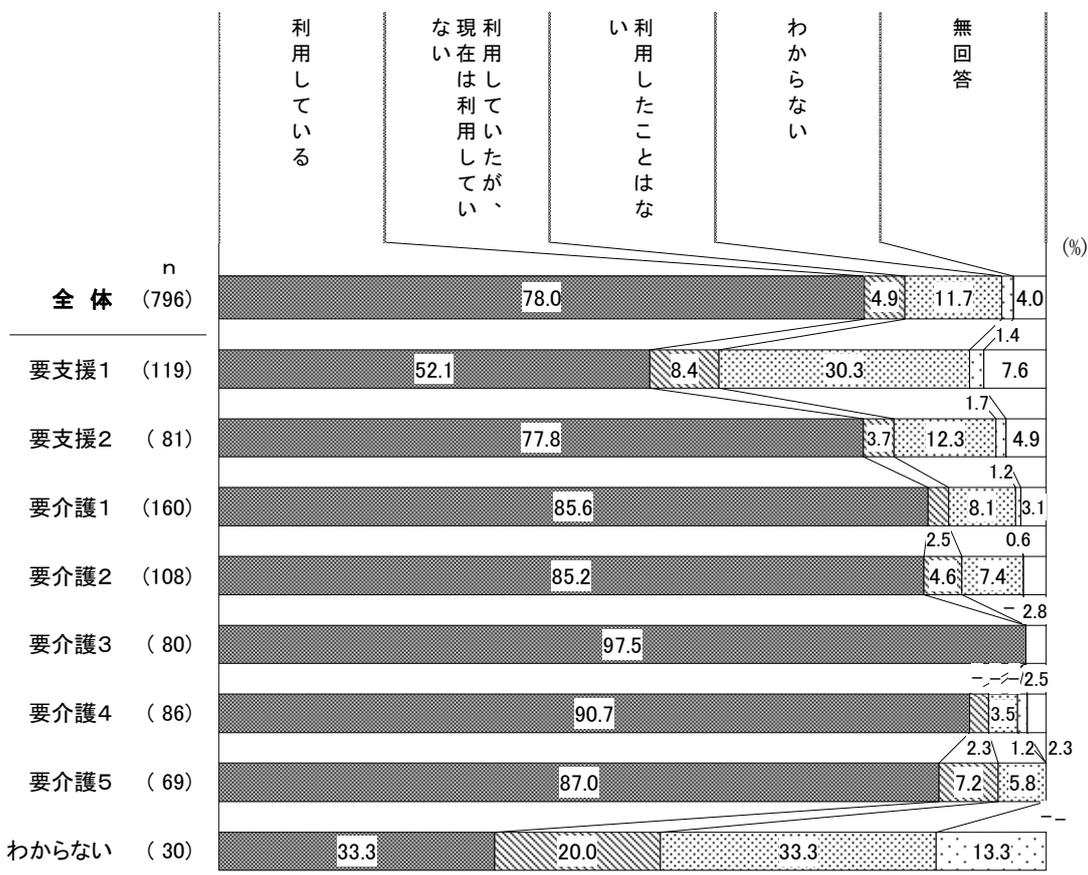
介護保険サービスの利用状況は、「利用している」が78.0%で、「利用したことはない」が11.7%、「利用していたが、現在は利用していない」が4.9%となっている。

図表5-1 介護保険サービスの利用状況（単数回答）



要介護度別でみると、「利用している」は、要介護3と要介護4で9割台となっている。

図表5-2 介護保険サービスの利用状況／要介護度別



※要介護度の“わからない”は参考として図示し、文中では触れていない

## (2) 介護保険サービス利用の満足度

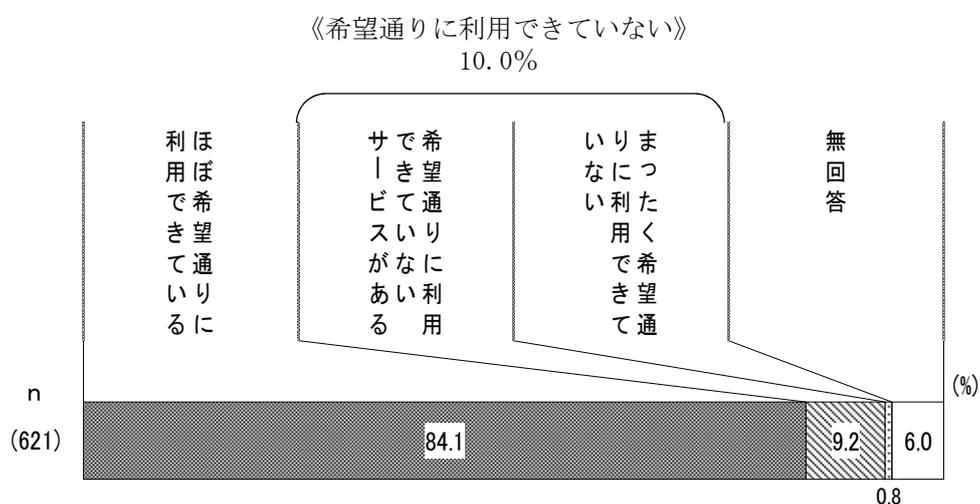
★利用している方(問26で1に○)にうかがいます。

問26-1 あなた(あて名のご本人)は、希望通りに介護保険サービスを利用できていますか。(1つに○)

介護保険サービスを「利用している」と回答した人に、その満足度をたずねた。

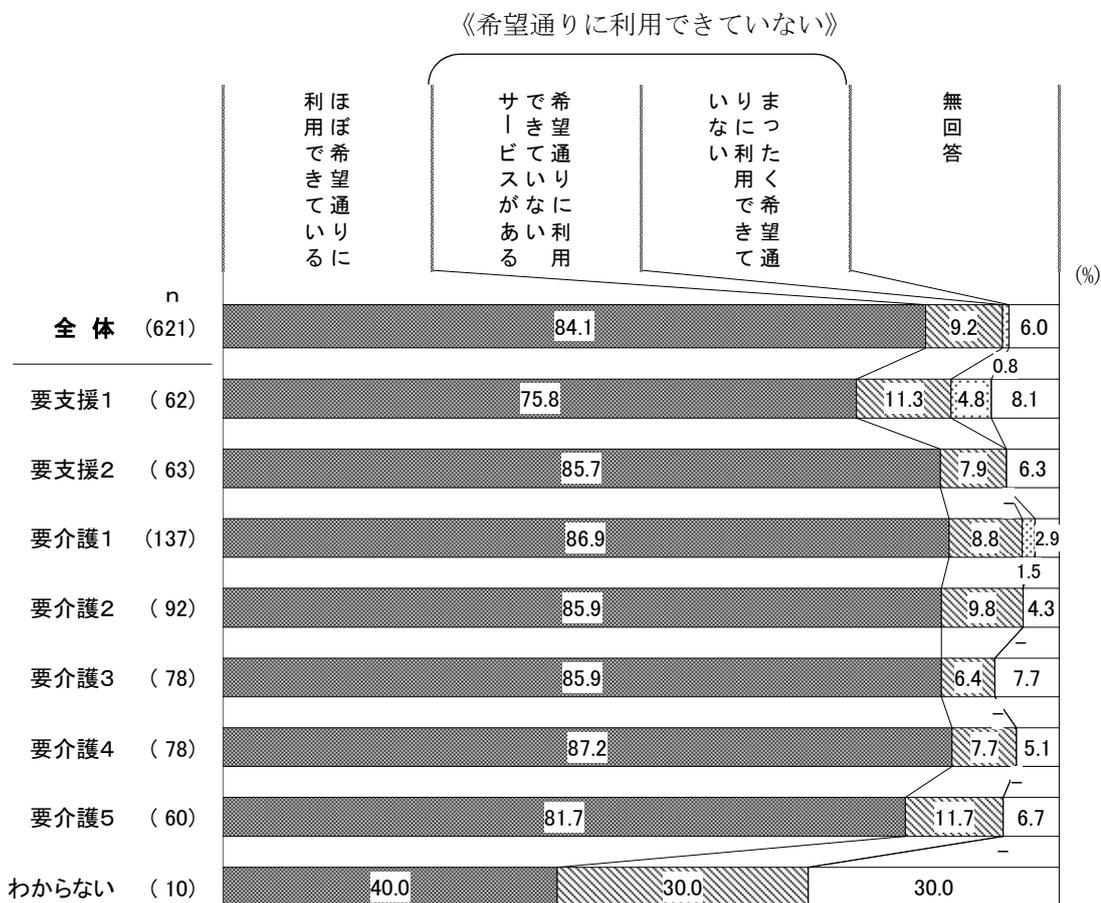
その結果、「ほぼ希望通りに利用できている」が84.1%となっている。一方、「希望通りに利用できていないサービスがある」(9.2%)と「まったく希望通りに利用できていない」(0.8%)を合わせた《希望通りに利用できていない》は10.0%となっている。

図表5-3 介護保険サービス利用の満足度(単数回答)



要介護度別でみると、「ほぼ希望通りに利用できている」は要支援1で75.8%であり、要支援2から要介護5までのすべてで8割台となっている。一方、「希望通りに利用できていない」は要支援1で16.1%と最も高くなっている。

図表5-4 介護保険サービス利用の満足度／要介護度別



※要介護度の“わからない”は参考として図示し、文中では触れていない

### (3) 希望通りに利用できていない理由

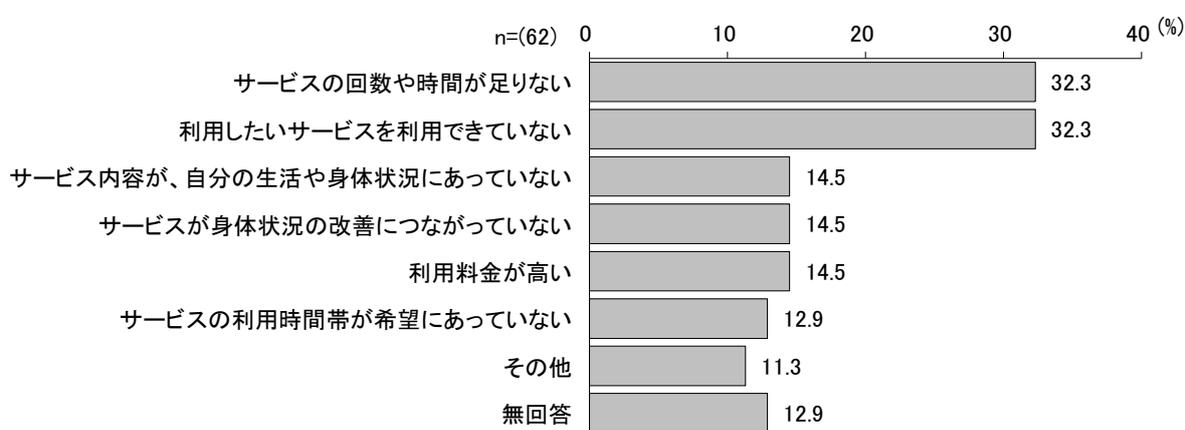
★希望通りに利用できていない方(問26-1で2または3に○)にうかがいます。

問26-1-1 希望通りに利用できていない理由は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

介護保険サービスを《希望通りに利用できていない》と回答した人に、その理由をたずねた。その結果、「サービスの回数や時間が足りない」と「利用したいサービスを利用できていない」がそれぞれ32.3%で最も高く、次いで「サービス内容が、自分の生活や身体状況にあっていない」、「サービスが身体状況の改善につながっていない」「利用料金が高い」がそれぞれ14.5%で並んでいる。

図表5-5 希望通りに利用できていない理由(複数回答)



#### (4) 希望通りに利用できていないサービス

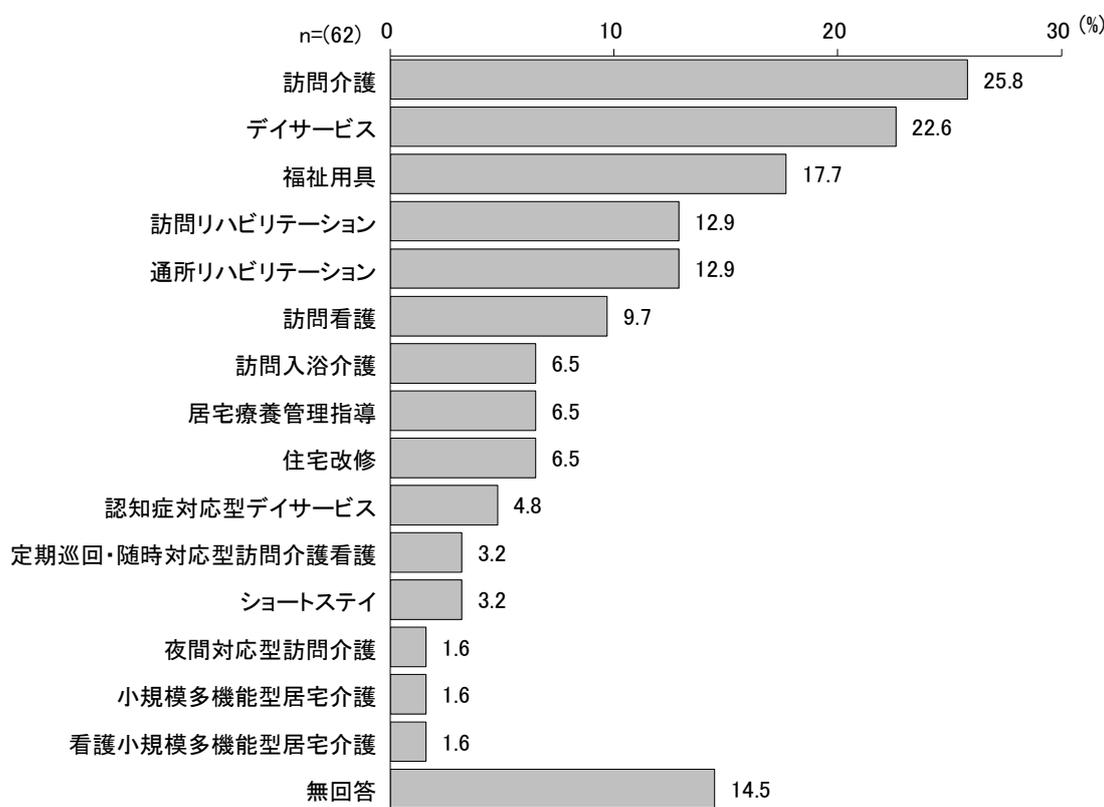
★希望通りに利用できていない方(問26-1で2または3に○)にうかがいます。

問26-1-2 希望通りに利用できていないサービス、不満を感じているサービスは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

介護保険サービスを《希望通りに利用できていない》と回答した人に、希望通りに利用できていないサービスをたずねた。

その結果、「訪問介護」が25.8%で最も高く、次いで「デイサービス」が22.6%、「福祉用具」が17.7%、「訪問リハビリテーション」と「通所リハビリテーション」がともに12.9%などとなっている。

図表5-6 希望通りに利用できていないサービス（複数回答）



## (5) 介護保険サービスを利用していない理由

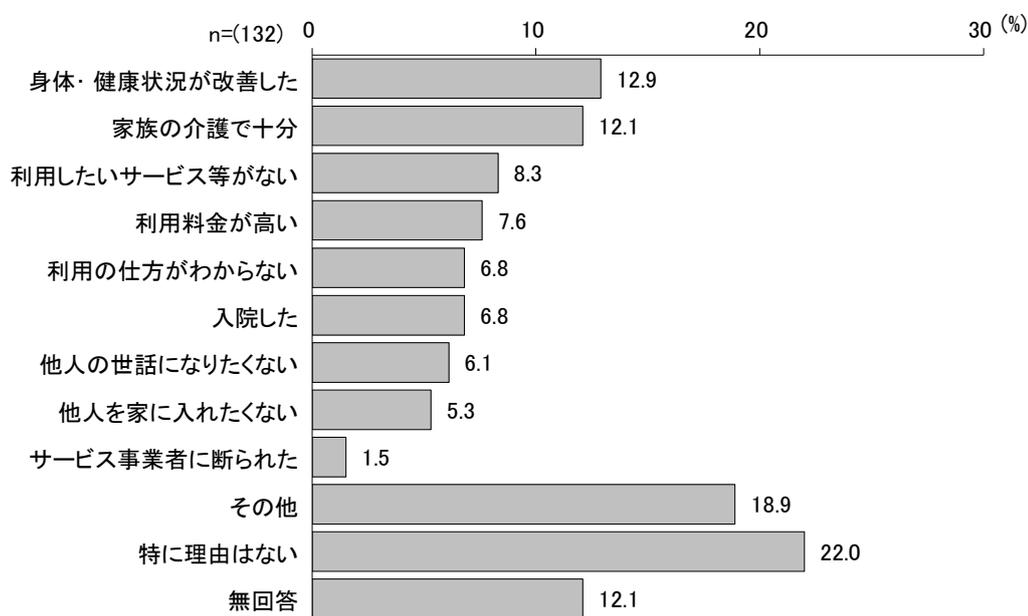
★介護保険サービスを利用していない方(問26で2または3に○)にうかがいます。

問26-2 あなた(あて名のご本人)が、介護保険サービスを利用していないのはなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

介護保険サービスを、「利用していたが、現在は利用していない」か「利用したことはない」と回答した人に、利用していない理由をたずねた。

その結果、「身体・健康状況が改善した」が12.9%で高く、次いで「家族の介護で十分」が12.1%となっている。

図表5-7 介護保険サービスを利用していない理由(複数回答)



要介護度別では、各要介護度別での回答者数（n）が少ないため、参考として数値表のみ掲載している。

図表5-8 介護保険サービスを利用していない理由／要介護度別

	n(人)	身体・健康状況が改善した	家族の介護で十分	利用したいサービス等がない	利用料金が高い	利用の仕方がわからない	入院した	他人の世話になりたくない	他人を家に入れたくない	サービス事業者に断られた	その他	特に理由はない	無回答	
全 体	132	12.9	12.1	8.3	7.6	6.8	6.8	6.1	5.3	1.5	18.9	22.0	12.1	
要介護度別	要支援1	46	17.4	10.9	2.2	6.5	6.5	2.2	2.2	6.5	-	15.2	30.4	17.4
	要支援2	13	-	15.4	38.5	23.1	-	-	7.7	15.4	7.7	15.4	23.1	7.7
	要介護1	17	11.8	17.6	23.5	5.9	5.9	-	-	5.9	5.9	23.5	11.8	5.9
	要介護2	13	7.7	23.1	-	-	7.7	7.7	15.4	7.7	-	23.1	15.4	15.4
	要介護3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	要介護4	5	20.0	20.0	-	20.0	20.0	-	20.0	-	-	-	-	-
	要介護5	9	-	11.1	-	-	11.1	66.7	11.1	-	-	-	11.1	11.1
	わからない	16	12.5	-	-	6.3	12.5	-	6.3	-	-	18.8	37.5	12.5

## (6) 今後利用したい介護保険サービス

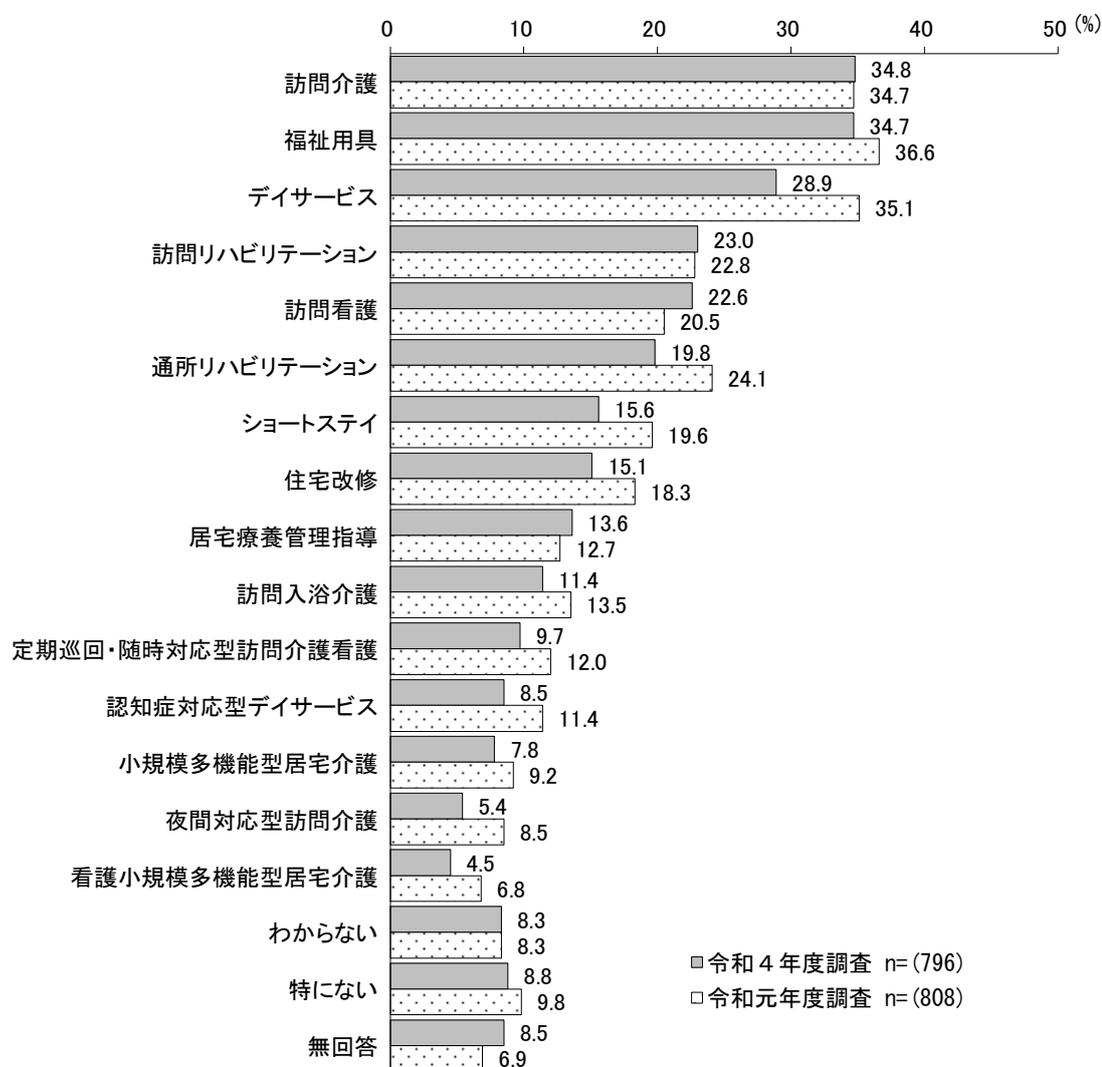
問27 あなた（あて名のご本人）は、今後、ご自宅で生活するうえで、どのような介護保険サービスを利用したい（し続けたい）と思いますか。

（あてはまるものすべてに○）

今後利用したい（し続けたい）介護保険サービスは、「訪問介護」が34.8%で最も高く、僅差で「福祉用具」(34.7%)が続き、以下「デイサービス」(28.9%)、「訪問リハビリテーション」(23.0%)、「訪問看護」(22.6%) などとなっている。

令和元年度調査と比較すると、「デイサービス」が6.2ポイント減少している。

図表5-9 今後利用したい介護保険サービス（複数回答）



世帯構成別でみると、「訪問介護」はひとり暮らしで45.8%と最も高く、「訪問リハビリテーション」と「訪問看護」は夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）で最も高くなっている。

要介護度別でみると、多くの介護保険サービスで要介護5が最も高くなっており、特に「訪問リハビリテーション」（58.0%）、「訪問看護」（55.1%）、「福祉用具」（53.6%）で5割台と高くなっている。また、「デイサービス」は要介護3（40.0%）、「通所リハビリテーション」は要支援2（25.9%）が最も高くなっている。

図表5-10 今後利用したい介護保険サービス／世帯構成別、要介護度別

		n(人)	訪問介護	福祉用具	デイサービス	訪問リハビリテーション	訪問看護	通所リハビリテーション	ショートステイ	住宅改修	居宅療養管理指導	訪問入浴介護	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	認知症対応型デイサービス	小規模多機能型居宅介護	夜間対応型訪問介護	看護小規模多機能型居宅介護
全 体		796	34.8	34.7	28.9	23.0	22.6	19.8	15.6	15.1	13.6	11.4	9.7	8.5	7.8	5.4	4.5
世帯構成別	ひとり暮らし	214	45.8	21.5	27.6	12.6	19.6	15.9	8.9	9.8	11.2	6.1	12.6	5.6	7.5	5.1	2.8
	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	228	34.6	39.5	24.6	28.1	24.1	19.7	15.4	14.5	12.3	12.3	8.8	7.0	6.6	4.4	3.1
	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	18	33.3	27.8	22.2	44.4	50.0	22.2	27.8	5.6	33.3	33.3	16.7	5.6	-	5.6	-
	子どもと同居	227	27.3	36.1	33.5	27.3	22.0	21.6	21.6	18.9	15.4	14.1	8.4	10.6	9.3	5.7	6.6
	その他	61	26.2	59.0	37.7	23.0	24.6	29.5	16.4	23.0	11.5	14.8	4.9	13.1	9.8	8.2	6.6
要介護度別	要支援1	119	28.6	22.7	17.6	10.9	13.4	21.0	5.0	16.8	8.4	6.7	11.8	4.2	7.6	3.4	1.7
	要支援2	81	23.5	38.3	18.5	14.8	13.6	25.9	3.7	18.5	6.2	7.4	8.6	4.9	9.9	1.2	6.2
	要介護1	160	37.5	34.4	35.6	19.4	16.9	22.5	16.9	16.3	11.3	7.5	6.3	8.8	8.1	5.0	2.5
	要介護2	108	37.0	37.0	28.7	20.4	27.8	16.7	14.8	11.1	12.0	10.2	10.2	10.2	8.3	9.3	4.6
	要介護3	80	37.5	36.3	40.0	21.3	21.3	20.0	25.0	16.3	8.8	11.3	11.3	13.8	7.5	3.8	5.0
	要介護4	86	38.4	39.5	31.4	40.7	32.6	24.4	24.4	12.8	20.9	22.1	11.6	9.3	7.0	9.3	4.7
	要介護5	69	49.3	53.6	39.1	58.0	55.1	13.0	33.3	17.4	39.1	33.3	11.6	13.0	8.7	8.7	11.6
	わからない	30	20.0	10.0	13.3	6.7	6.7	3.3	3.3	10.0	6.7	-	6.7	-	-	3.3	-

※設問の「わからない」「特になし」「無回答」は掲載を省略している

※要介護度の“わからない”は参考として図示し、文中では触れていない

## (7) 今後利用したい介護保険以外のサービス

問28 あなた（あて名のご本人）は、今後、ご自宅で生活するうえで、江戸川区が実施する介護保険以外のサービスについて、利用したいサービスはありますか。

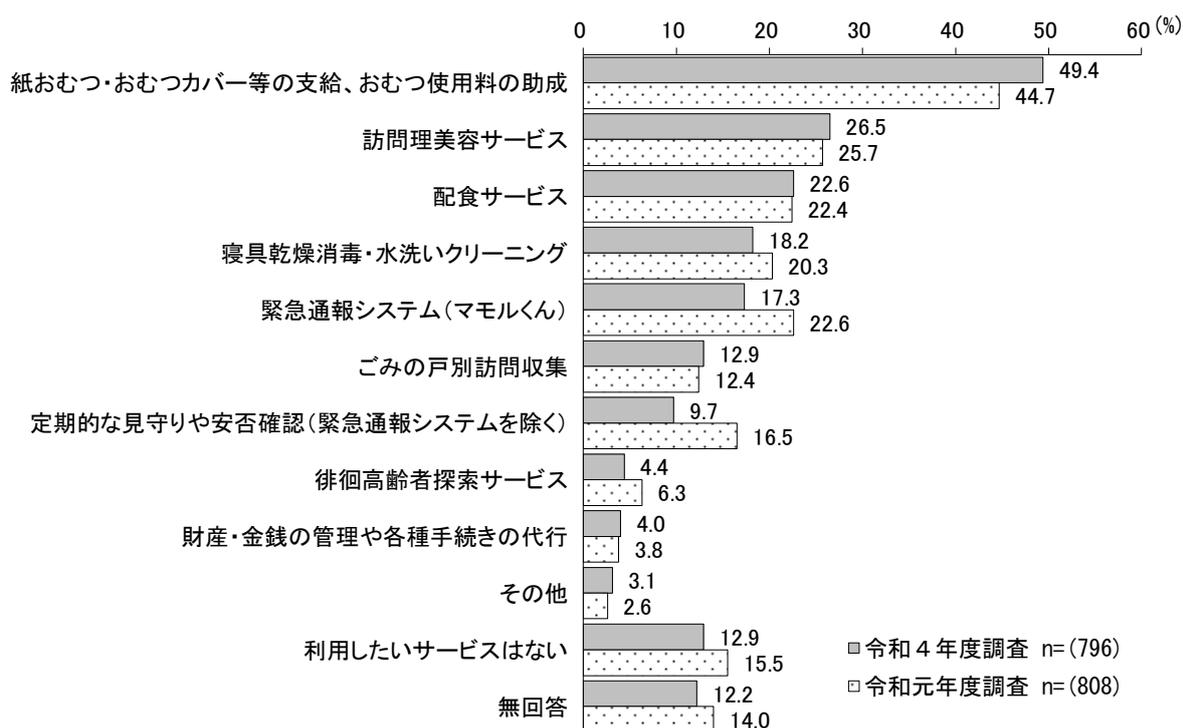
（あてはまるものすべてに○）

※既に利用しており今後も続けたいサービスにも○をつけてください。

今後利用したい介護保険以外のサービスは、「紙おむつ・おむつカバー等の支給、おむつ使用料の助成」が49.4%で最も高く、次いで「訪問理美容サービス」が26.5%、「配食サービス」が22.6%となっている。

令和元年度調査と比較すると、「紙おむつ・おむつカバー等の支給、おむつ使用料の助成」が4.7ポイント増加している。一方、「定期的な見守りや安否確認（緊急通報システムを除く）」で6.8ポイント、「緊急通報システム（マモルくん）」で5.3ポイント減少している。

図表5-11 今後利用したい介護保険以外のサービス（複数回答）



世帯構成別でみると、「紙おむつ・おむつカバー等の支給、おむつ使用料の助成」は夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）で66.7%と最も高く、「訪問理美容サービス」でも夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）が50.0%で最も高くなっている。また、「配食サービス」、「緊急通報システム」、「ごみの戸別訪問収集」ではひとり暮らしが最も高くなっている。

要介護度別でみると、「紙おむつ・おむつカバー等の支給、おむつ使用料の助成」は要介護5で85.5%と最も高く、「訪問理美容サービス」でも要介護5で46.4%と最も高くなっている。また、「配食サービス」は要支援1で28.6%と最も高くなっている。

図表5-12 今後利用したい介護保険以外のサービス／世帯構成別、要介護度別

		n(人)	紙おむつ・おむつカバー等の支給、おむつ使用料の助成	訪問理美容サービス	配食サービス	寝具乾燥消毒・水洗いクリーニング	緊急通報システム(マモルくん)	ごみの戸別訪問収集	定期的な見守りや安否確認(緊急通報システムを除く)	徘徊高齢者探索サービス	代行 財産・金銭の管理や各種手続きの	その他	利用したいサービスはない	無回答
全 体		796	49.4	26.5	22.6	18.2	17.3	12.9	9.7	4.4	4.0	3.1	12.9	12.2
世帯構成別	ひとり暮らし	214	33.2	15.9	25.2	19.2	24.3	21.0	15.4	2.8	7.0	4.2	12.1	15.0
	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	228	50.0	27.2	22.4	15.4	18.4	11.0	10.1	3.1	3.9	2.6	14.9	12.7
	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	18	66.7	50.0	16.7	16.7	5.6	-	-	-	5.6	5.6	22.2	5.6
	子どもと同居	227	58.1	32.2	20.7	18.1	11.5	8.8	5.3	5.3	1.8	2.2	14.5	8.4
	その他	61	63.9	34.4	23.0	23.0	8.2	8.2	8.2	8.2	1.6	4.9	1.6	11.5
要介護度別	要支援1	119	31.9	21.0	28.6	16.0	23.5	8.4	16.0	3.4	5.0	5.0	12.6	13.4
	要支援2	81	37.0	11.1	22.2	13.6	23.5	11.1	9.9	4.9	3.7	3.7	13.6	17.3
	要介護1	160	43.8	24.4	25.0	17.5	21.3	19.4	11.3	3.8	3.8	4.4	17.5	8.1
	要介護2	108	47.2	22.2	13.9	20.4	13.0	11.1	10.2	5.6	4.6	2.8	22.2	9.3
	要介護3	80	63.8	36.3	21.3	25.0	6.3	10.0	8.8	5.0	1.3	1.3	6.3	12.5
	要介護4	86	70.9	43.0	26.7	17.4	16.3	18.6	9.3	4.7	4.7	1.2	10.5	3.5
	要介護5	69	85.5	46.4	21.7	21.7	13.0	8.7	2.9	-	4.3	2.9	1.4	7.2
	わからない	30	20.0	10.0	16.7	13.3	16.7	10.0	6.7	3.3	3.3	-	13.3	30.0

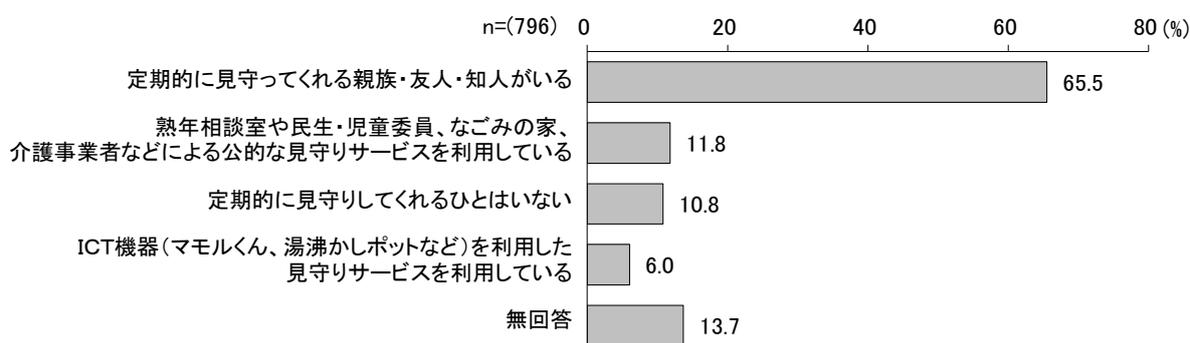
※要介護度の“わからない”は参考として図示し、文中では触れていない

## (8) 受けている見守り（安否確認）の状況

問29 あなた（あて名のご本人）が受けている見守り（安否確認）の状況は、次のうちどれですか。（あてはまるものすべてに○）

受けている見守り（安否確認）の状況は、「定期的に見守ってくれる親族・友人・知人がいる」が65.5%で最も高く、次いで「熟年相談室や民生・児童委員、なごみの家、介護事業者などによる公的な見守りサービスを利用している」（11.8%）と「定期的に見守りしてくれるひとはいない」（10.8%）が1割前後で続いている。

図表5-13 受けている見守り（安否確認）の状況（複数回答）

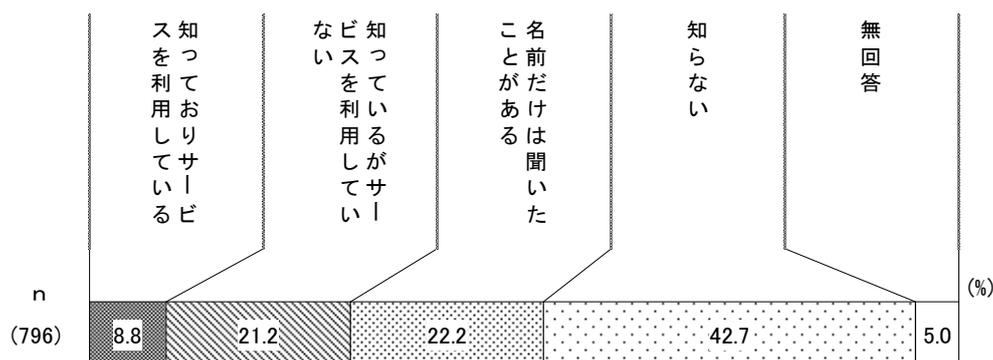


## (9) 民間緊急通報システム「マモルくん」の認知度

問30 江戸川区では、体調不良や火災発生時に警備会社に通報し、警備員がかけつけ必要に応じて救急要請を行う民間緊急通報システム「マモルくん」を実施しています。このサービスを知っていますか。（1つに○）

民間緊急通報システム「マモルくん」の認知度は、「知らない」が42.7%で最も高くなっており、以下、「名前だけは聞いたことがある」が22.2%、「知っているがサービスを利用していない」が21.2%、「知っておりサービスを利用している」が8.8%となっている。

図表5-14 民間緊急通報システム「マモルくん」の認知度（単数回答）

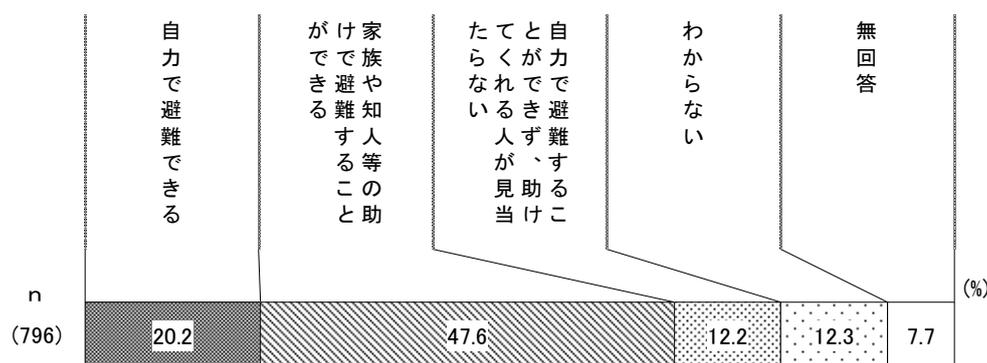


## (10) 災害時の避難

問31 あなたは災害が起きたとき、避難することができますか。(1つに○)

災害時の避難については、「家族や知人等の助けで避難することができる」が47.6%で最も高く、「自力で避難できる」が20.2%となっている。一方、「自力で避難することができず、助けてくれる人が見当たらない」が12.2%、「わからない」が12.3%となっている。

図表5-15 災害時の避難（単数回答）

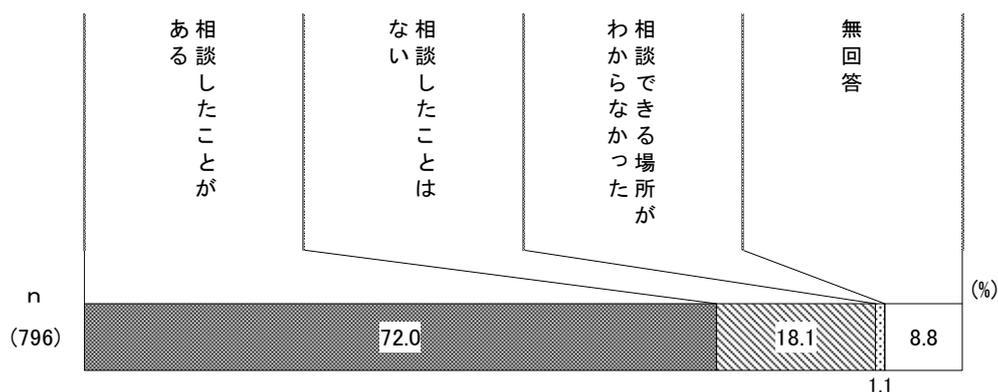


## (11) 要介護認定後の介護保険サービス利用について

問32 あなた(あて名のご本人)は、要介護認定を受けた後に、介護保険のサービス利用について、熟年相談室(地域包括支援センター)や居宅介護支援事業所(ケアマネジャー)に相談したことはありますか。(1つに○)

要介護認定を受けた後での介護保険サービス利用についての相談は、「相談したことがある」が72.0%で最も高く、「相談したことはない」が18.1%、「相談できる場所がわからなかった」が1.1%となっている。

図表5-16 要介護認定後の介護保険サービス利用について（単数回答）



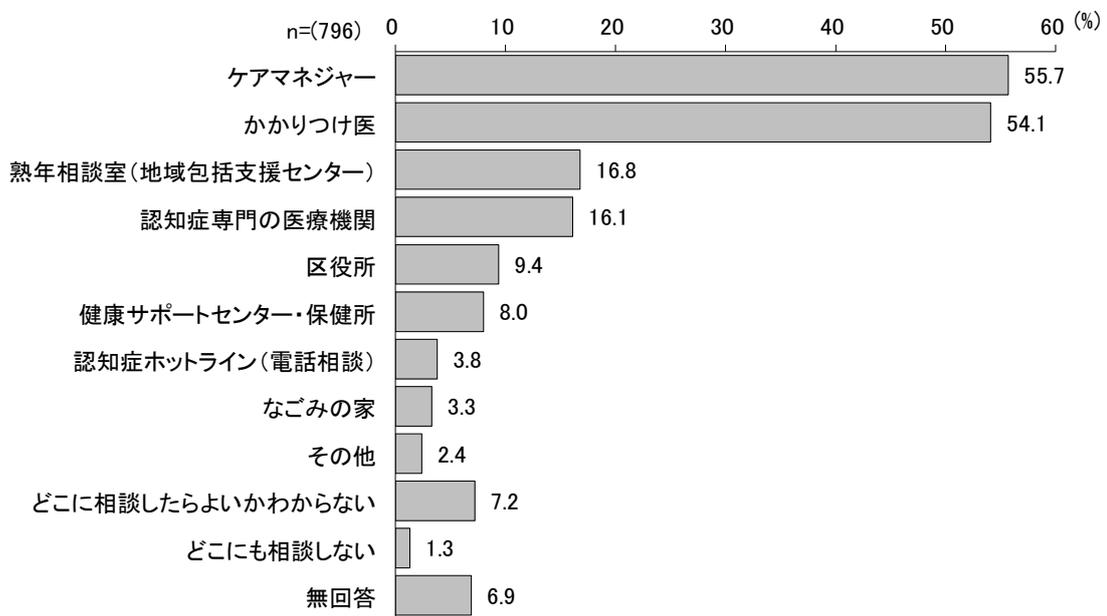
## 6 介護や区の施策について

### (1) 認知症に関する相談先

問33 あなた（あて名のご本人）やご家族に認知症の不安が生じた場合、どこに相談しますか。（あてはまるものすべてに○）

認知症に関する相談先では、「ケアマネジャー」が55.7%で最も高く、僅差で「かかりつけ医」が54.1%となっている。以下、「熟年相談室（地域包括支援センター）」が16.8%、「認知症専門の医療機関」が16.1%と1割台半ばで続いている。

図表6-1 認知症に関する相談先（複数回答）

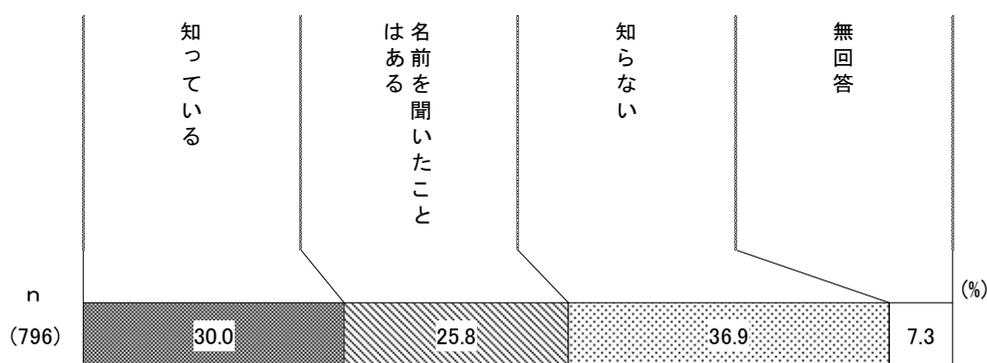


## (2) 成年後見制度の認知度

問34 あなた(あて名のご本人)は、認知症などにより判断能力が十分でない人に、本人の権利を守るための援助者を選び、法律面や生活面を支援する「成年後見制度」を知っていますか。(1つに○)

成年後見制度の認知度は、「知っている」が30.0%、「名前を聞いたことはある」が25.8%となっている。一方、「知らない」が36.9%と最も高くなっている。

図表6-2 成年後見制度の認知度 (単数回答)

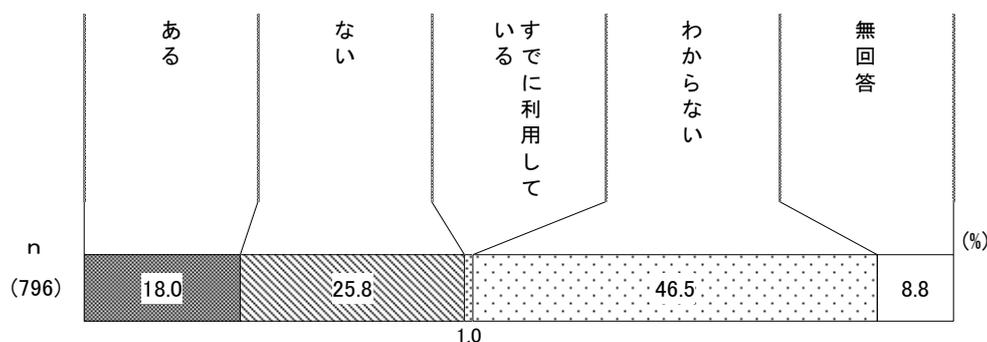


## (3) 成年後見制度の利用意向

問35 ご家族やご親族が、認知症などにより判断能力が十分でなくなってきた場合に、「成年後見制度」を利用するつもりはありますか。(1つに○)

成年後見制度の利用意向は、「ある」が18.0%、「ない」が25.8%となっている。一方、「わからない」が46.5%と最も高くなっている。

図表6-3 成年後見制度の利用意向 (単数回答)



#### (4) 今後希望する暮らし方

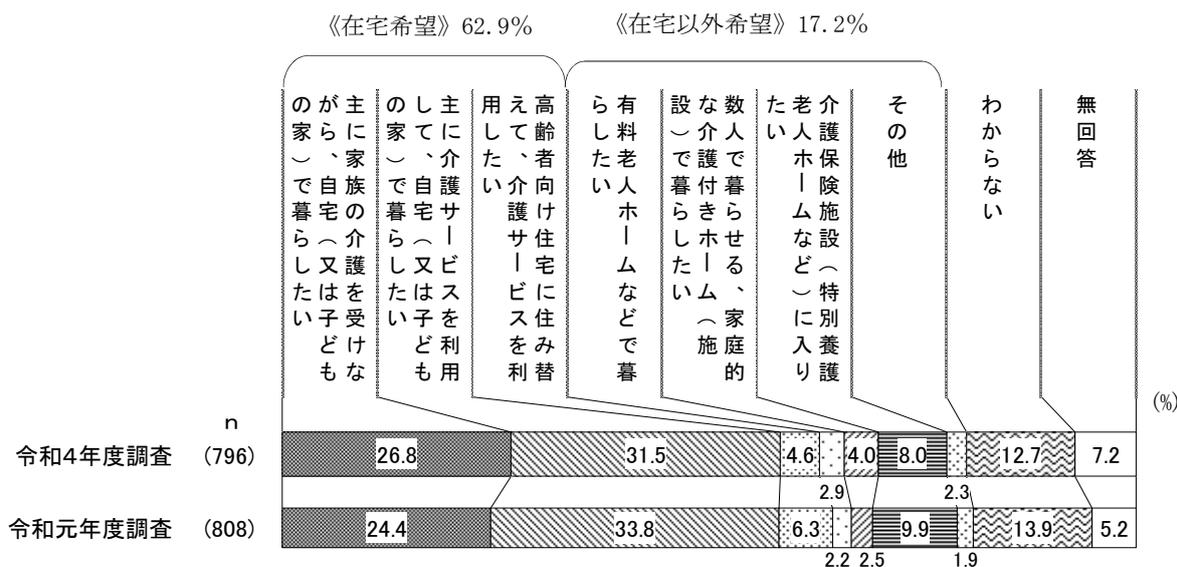
問36 あなた(あて名のご本人)は、今後どのように暮らしたいですか。

(最も近い考え1つに○)

今後希望する暮らし方は、「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」が31.5%で最も高く、次いで「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」が26.8%となっており、これに「高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい」（4.6%）の3つの暮らし方を合わせた《在宅希望》は62.9%である。一方、「有料老人ホームなどで暮らしたい」（2.9%）、「数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム（施設）で暮らしたい」（4.0%）、「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入りたい」（8.0%）、「その他」（2.3%）を合わせた《在宅以外希望》は17.2%となっている。

令和元年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

図表6-4 今後希望する暮らし方（単数回答）



※《在宅希望》＝「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」  
 ＋「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」  
 ＋「高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい」

※《在宅以外希望》＝「有料老人ホームなどで暮らしたい」  
 ＋「数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム（施設）で暮らしたい」  
 ＋「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入りたい」＋「その他」

世帯構成別でみると、《在宅希望》は子どもと同居で78.5%と最も高く、次いで、夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）で72.4%となっている。一方、《在宅以外希望》はひとり暮らしで29.8%と最も高くなっている。

要介護度別でみると、《在宅希望》は要支援1、要支援2で5割台の一方、要介護1以上では6～7割台となっている。

図表6-5 今後希望する暮らし方／世帯構成別、要介護度別

		n(人)	主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい	主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい	高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい	有料老人ホームなどで暮らしたい	数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム（施設）で暮らしたい	介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入りたい	その他	わからない	無回答	《在宅希望》	《在宅以外希望》
全 体		796	26.8	31.5	4.6	2.9	4.0	8.0	2.3	12.7	7.2	62.9	17.2
世帯構成別	ひとり暮らし	214	6.5	28.5	7.5	5.1	9.3	11.2	4.2	18.2	9.3	42.5	29.8
	夫婦2人暮らし （配偶者65歳以上）	228	36.4	30.7	5.3	1.3	2.2	7.0	1.3	10.1	5.7	72.4	11.8
	夫婦2人暮らし （配偶者64歳以下）	18	33.3	22.2	11.1	5.6	-	5.6	5.6	16.7	-	66.6	16.8
	子どもと同居	227	37.9	38.8	1.8	1.3	0.9	5.3	0.4	8.8	4.8	78.5	7.9
	その他	61	29.5	26.2	1.6	6.6	1.6	8.2	4.9	14.8	6.6	57.3	21.3
要介護度別	要支援1	119	20.2	31.1	4.2	5.9	4.2	5.9	2.5	20.2	5.9	55.5	18.5
	要支援2	81	21.0	24.7	8.6	2.5	4.9	9.9	1.2	17.3	9.9	54.3	18.5
	要介護1	160	27.5	43.8	2.5	0.6	3.8	5.0	1.9	11.3	3.8	73.8	11.3
	要介護2	108	28.7	34.3	7.4	3.7	1.9	4.6	1.9	10.2	7.4	70.4	12.1
	要介護3	80	26.3	38.8	3.8	-	2.5	15.0	2.5	8.8	2.5	68.9	20.0
	要介護4	86	37.2	22.1	3.5	5.8	4.7	16.3	2.3	5.8	2.3	62.8	29.1
	要介護5	69	42.0	29.0	2.9	4.3	2.9	4.3	1.4	7.2	5.8	73.9	12.9
	わからない	30	16.7	13.3	10.0	-	3.3	-	10.0	23.3	23.3	40.0	13.3

※《在宅希望》＝「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」  
 ＋「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」  
 ＋「高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい」

※《在宅以外希望》＝「有料老人ホームなどで暮らしたい」  
 ＋「数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム（施設）で暮らしたい」  
 ＋「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入りたい」＋「その他」

※要介護度の“わからない”は参考として図示し、文中では触れていない

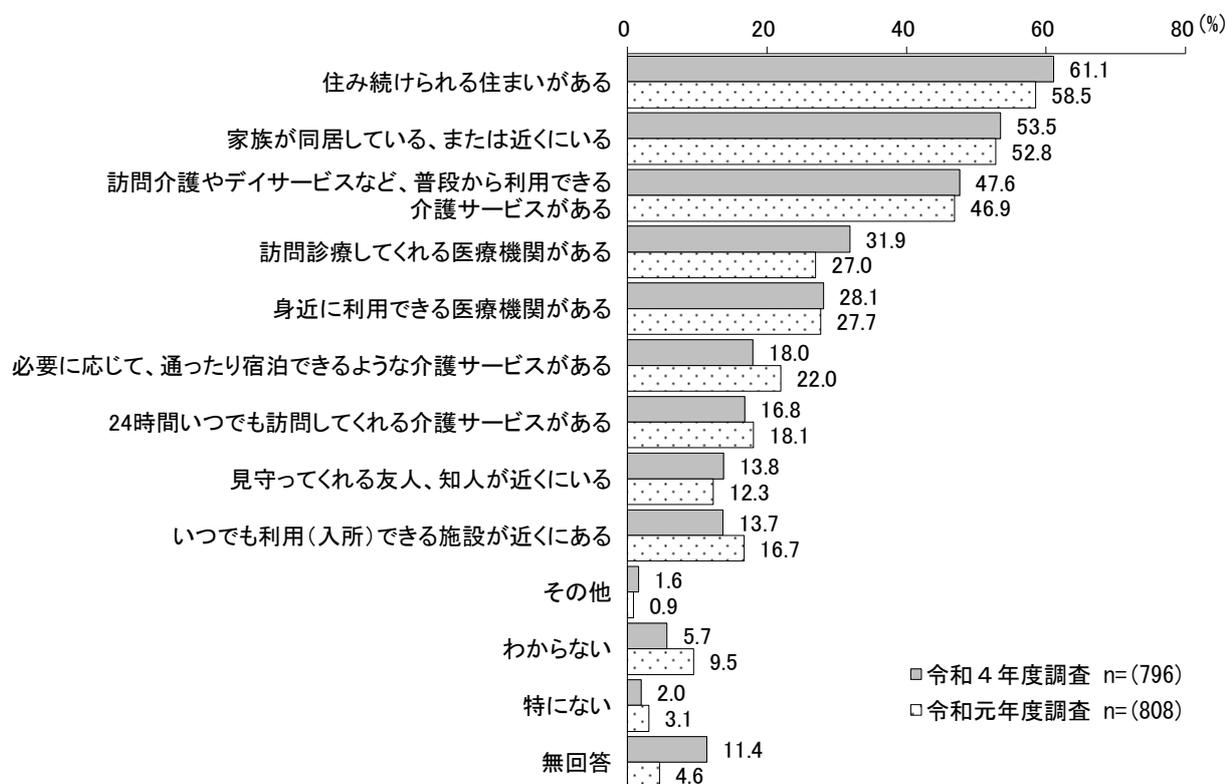
## (5) 在宅で暮らし続けるために必要なこと

問37 あなた(あて名のご本人)は、介護が必要になっても在宅で暮らし続けるために必要なことは、どのようなことだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

在宅で暮らし続けるために必要なことは、「住み続けられる住まいがある」が61.1%で最も高く、次いで「家族が同居している、または近くにいる」が53.5%、「訪問介護やデイサービスなど、普段から利用できる介護サービスがある」が47.6%などとなっている。

令和元年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

図表6-6 在宅で暮らし続けるために必要なこと（複数回答）



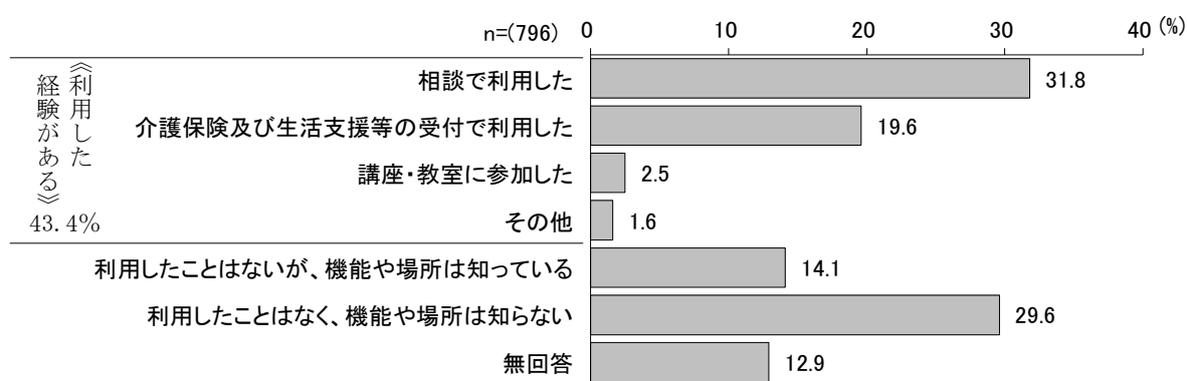
## (6) 熟年相談室（地域包括支援センター）の利用経験

問38 あなた(あて名のご本人)は、熟年相談室(地域包括支援センター)を利用したことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

熟年相談室（地域包括支援センター）の利用経験では、《利用した経験がある》が43.4%で、「利用したことはなく、機能や場所は知らない」が29.6%となっている。

利用した中では、「相談で利用した」が31.8%で最も高く、次いで、「介護保険及び生活支援等の受付で利用した」が19.6%となっている。

図表6-7 熟年相談室（地域包括支援センター）の利用経験（複数回答）



※《利用した経験がある》=100%－「利用したことはないが、機能や場所は知っている」－「利用したことはなく機能や場所は知らない」－「無回答」

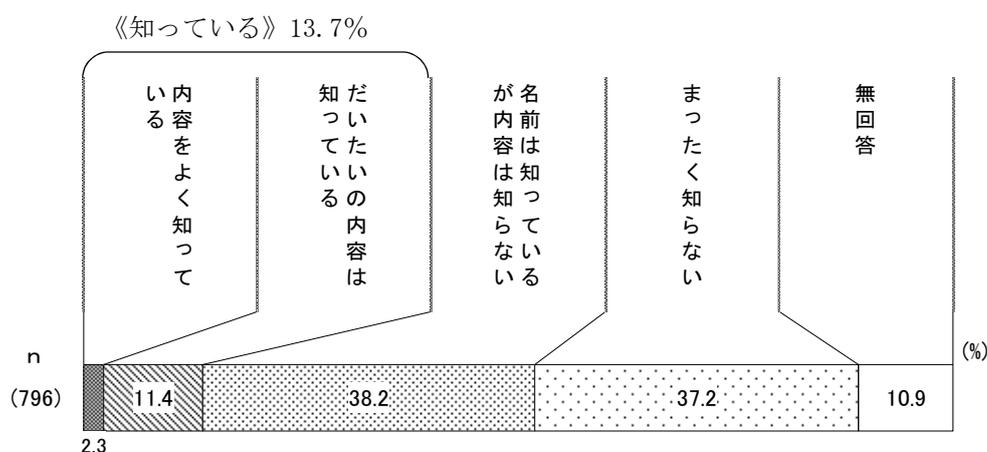
## (7) なごみの家の認知度

問39 あなた(あて名のご本人)は、「なごみの家」についてどのくらい知っていますか。

(1つに〇)

なごみの家の認知度は、「内容をよく知っている」が2.3%で、「だいたいの内容は知っている」(11.4%)を合わせた《知っている》は13.7%となっている。また、「名前は知っているが内容は知らない」が38.2%となっている。一方、「まったく知らない」が37.2%である。

図表6-8 なごみの家の認知度(単数回答)

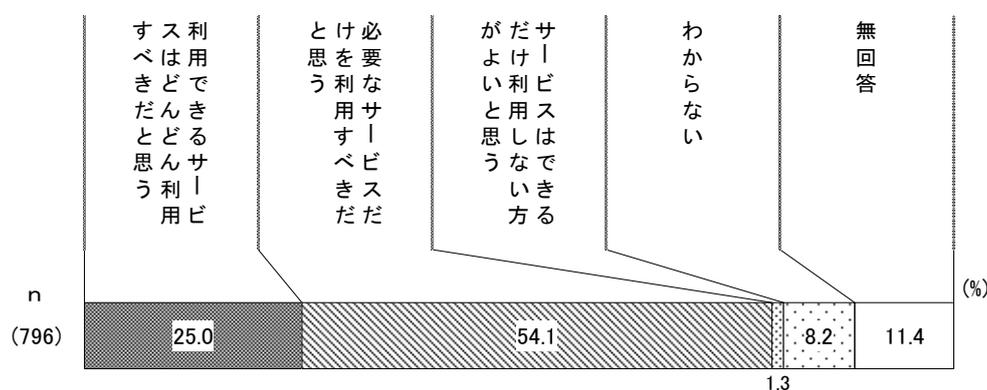


## (8) 介護保険サービスの利用のあり方についての考え

問40 あなた(あて名のご本人)は、介護保険サービスの利用のあり方について、どのような考えをお持ちですか。(1つに○)

介護保険サービスの利用のあり方についての考えは、「必要なサービスだけを利用すべきだと思う」が54.1%で最も高く、次いで「利用できるサービスはどんどん利用すべきだと思う」が25.0%となっている。

図表6-9 介護保険サービスの利用のあり方についての考え(単数回答)

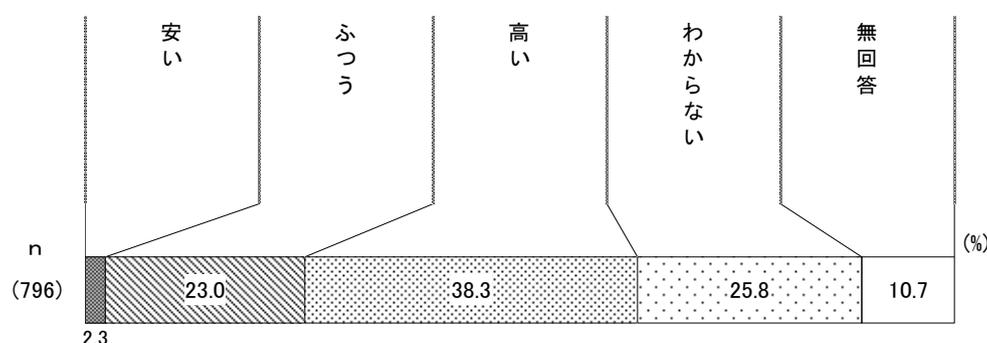


## (9) 介護保険料についての考え

問41 介護保険の保険料について、どのように思いますか。(1つに○)

介護保険料については、「高い」が38.3%と最も高く、以下、「わからない」(25.8%)、「ふつう」(23.0%)、「安い」(2.3%)の順となっている。

図表6-10 介護保険料についての考え(単数回答)



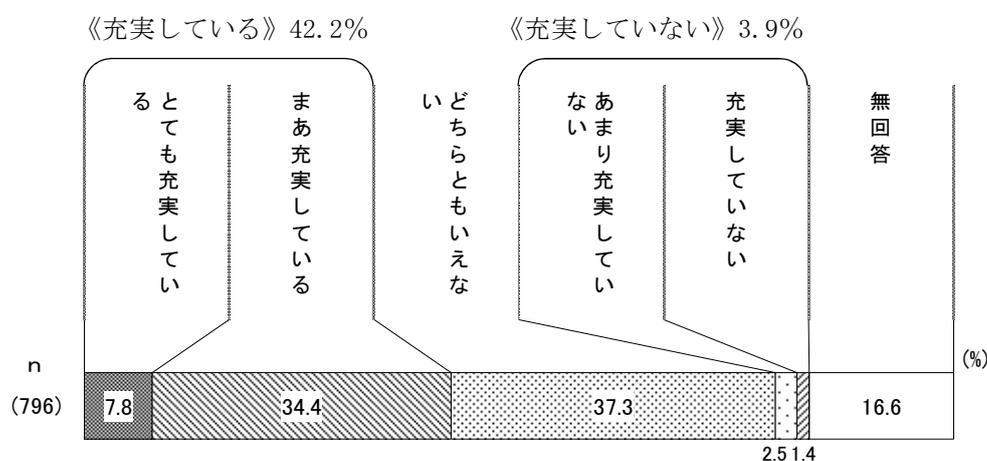
## (10) 区の熟年者施策の充実度

問42 江戸川区の熟年者施策について、あなた(あて名のご本人)はどのように感じますか。

(1つに〇)

区の熟年者施策の充実度は、「とても充実している」が7.8%、「まあ充実している」が34.4%で、これらを合わせた《充実している》は42.2%となっている。「どちらともいえない」が37.3%と最も高くなっており、「あまり充実していない」(2.5%)と「充実していない」(1.4%)を合わせた《充実していない》は3.9%となっている。

図表6-11 区の熟年者施策の充実度(単数回答)



## (11) 今後充実すべき熟年者施策

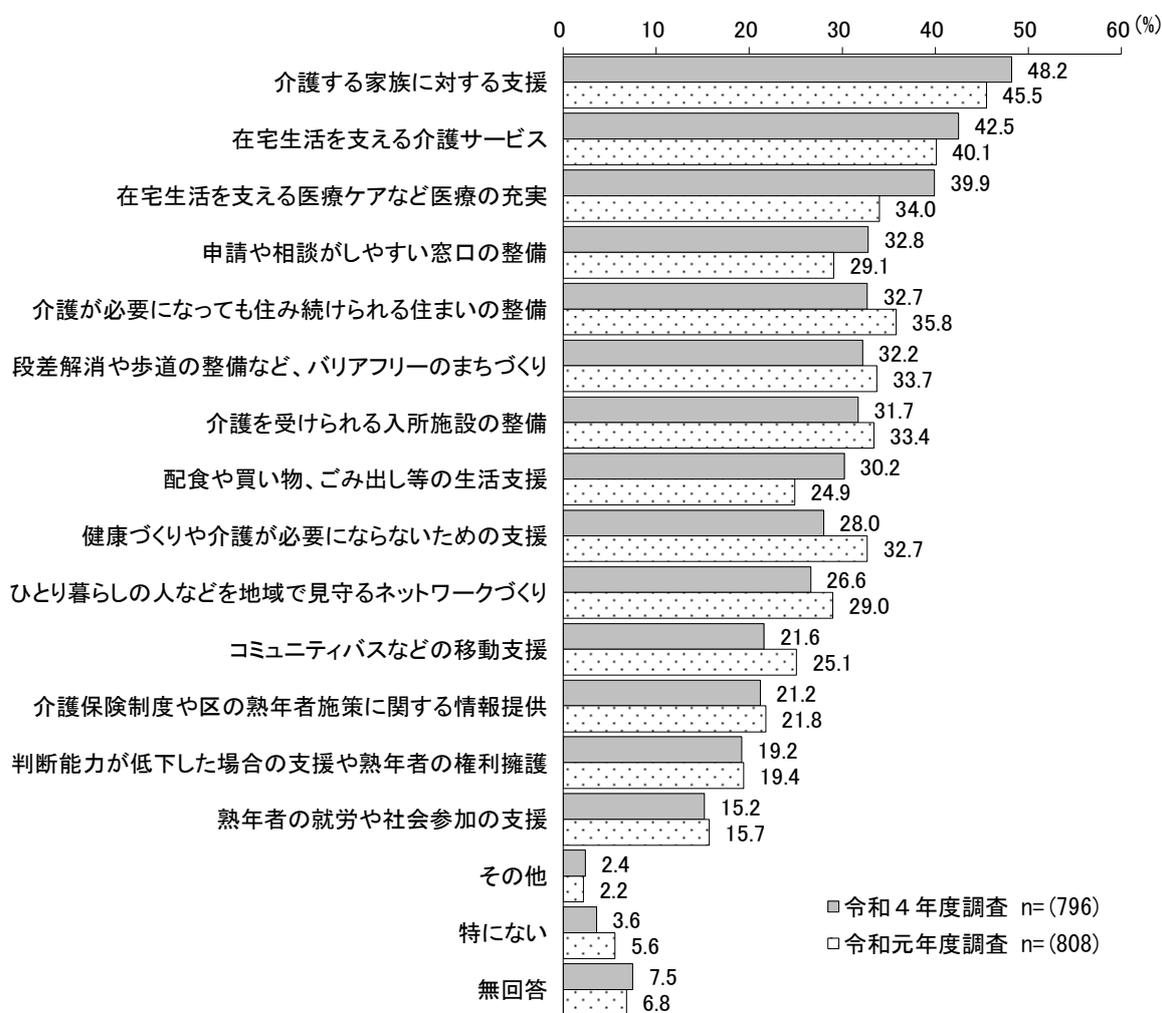
問43 江戸川区が今後充実すべきと思う熟年者施策は、次のうちどれですか。

(あてはまるものすべてに○)

今後充実すべき熟年者施策は、「介護する家族に対する支援」が48.2%で最も高く、次いで「在宅生活を支える介護サービス」(42.5%)、「在宅生活を支える医療ケアなど医療の充実」(39.9%)、「申請や相談がしやすい窓口の整備」(32.8%)、「介護が必要になっても住み続けられる住まいの整備」(32.7%) などとなっている。

令和元年度調査と比較すると、「在宅生活を支える医療ケアなど医療の充実」が5.9ポイント増加し、「配食や買い物、ごみ出し等の生活支援」が5.3ポイント増加している。一方、「健康づくりや介護が必要にならないための支援」が4.7ポイント減少している。

図表 6-12 今後充実すべき熟年者施策（複数回答）



## (12) 区への意見・要望

江戸川区へのご意見・ご要望がありましたら、ご記入ください。

区政への意見、要望をいただいたので、その一部を抜粋して掲載する。

### 【1】 介護サービスの内容や質、サービス提供事業者について（27件より抜粋）

- ・必要な時に借りることができる車椅子のステーションがあれば良いと思います。コロナワクチンを接種するため、自宅から数分の施設まで行くのに、車を出さなければいけません。コミュニティ会館には車椅子がありますが、その施設内の利用にしか使えません。町会・自治会等に貸し出しエリアがあると助かります。区役所まで借りに行くのも大変です。
- ・訪問介護の利用時間が短いため一部のサービスで終わってしまいます。ヘルパーも人員不足なのか、現場で働くヘルパーの大変さを感じています。江戸川区として、ヘルパーの人員を確保してほしいです。また、要介護認定の基準が曖昧に感じます。
- ・担当のケアマネジャーは手続きとして書類やカタログを送ってくるだけなので、紹介する施設や業者の状況を確認した上で、適切なところを紹介するよう指導願いたいと思います。

### 【2】 生活支援、外出支援等について（16件より抜粋）

- ・ひとり暮らしで一番困っているのが買い物と移動です。また、急に体調不良となった際、介護サービスの変更が出来ないことも困っています。
- ・私の住んでいるところはバス路線しかないのですが、平井駅まで行く巡回バスがあるととても助かります。
- ・脳梗塞で右半身がうまく使えず、遠方の病院などに行くときはタクシーを利用しています。通院にお金がかかるのでタクシー割引券を出してほしいです。

### 【3】 サービス利用料・介護保険料その他経済的負担について（13件より抜粋）

- ・本人は在宅介護を希望しています。デイサービスやショートステイを利用してなるべく長く在宅でみてあげたいと思いますが、入所することになったら費用が心配です。特別養護老人ホームが入りやすくなると良いのですが。
- ・透析の人が入る老人ホームが少なく、受け入れてくれる有料老人ホームは利用料が高いです。医療費も2割になり、年金だけでは、とてもまかないきれません。特別養護老人ホームにも透析の人が入れるようにしてほしいです。

### 【4】 在宅介護の継続支援・介護者の支援について（10件より抜粋）

- ・家族がデイサービスを利用していますが、今の介護保険は同居する家族の介護を前提にしているように思います。私が病気になったり死んでしまった場合は、残された要介護者は今の介護保険サービスのみでは生活できません。1人になっても在宅で生活出来る介護保険であってほしいと思います。
- ・老人が老人の介護をしているので大変です。子どもは子どもで生活があるので夫婦二人で頑張っています。

**【5】 申請・相談がしやすい窓口の整備（9件より抜粋）**

- ・自治体への各種届出書の作成や提出支援、自治体・金融機関・集会場所への交通支援がほしいです。また、金銭管理支援者がほしいです。
- ・コロナ感染の影響もあり窓口に行けない事が増えています。ウェブを使った相談や支援を、より簡単に出来る仕組みがほしいです。

**【6】 区の高齢者施策・介護保険事業について（6件より抜粋）**

- ・重度障害の要介護者を介護する家族への支援をもっと手厚くしてほしいです。レスパイトではなかなか病院に受け入れてもらえません。入院できたとしても、期間が短い等、介護する側の負担が大きいです。

**【7】 介護施設について（5件より抜粋）**

- ・入所施設の整備を希望します。交通事故で高次脳機能障害を負い、自宅での介護を受けていますが、入所施設に申し込んで二年たっても入所できていません。
- ・有料老人ホームの利用料は高いので特別養護老人ホームを申し込んでいますがなかなか入所できません。家族は同居していますが、日中仕事をしているので支給限度内で訪問看護等を利用している状態です。自宅での介護サービスを利用した生活は大変なので、特別養護老人ホームの増設を希望しています。必要な人が入所出来るようにしてほしいです。

**【8】 バリアフリーのまちづくり介護施設について（4件より抜粋）**

- ・車椅子でも安心して利用できる横断歩道を設置してほしいです。段差の解消不足を強く感じます。

**【9】 その他の区に対する意見や要望（38件より抜粋）**

- ・街路灯の増設や自転車の通行マナー、ヘルプマークを使用している者への気配りを区民に周知してください。区役所に伺うことが多いのですが、職員さんの親切が大変うれしく思います。
- ・無料Wi-Fiが区の公共施設に増えると便利です。
- ・熟年相談室の相談員について、助言（アドバイス）をしていただける人がいる一方で、事務手続きの説明だけで相談できる感じではない人もいて差が大きいです。家族の悩みに寄り添ってくれる相談員を増やしてください。また、相談員間の情報共有を密にすれば、よりよい相談対応につながっていくと思います。

**【10】 本アンケートについて（8件より抜粋）**

- ・このアンケートが参考となって、ひとり暮らしの人でもますます生活しやすい区になってほしいです。
- ・アンケートを取りまとめた後、高齢者の望みとそれに対する区の実施を区の広報に掲載していただけるとありがたいです。

# 第3章

## 介護保険制度に関する意識調査

### < 調査概要 >

調査方法	郵送配布－郵送回収
調査対象者	50歳以上65歳未満の区民 (令和4年11月1日現在)
抽出方法	住民基本台帳より無作為抽出
調査期間	令和4年11月9日～12月9日
対象者数 及び 回収率	対象者数： 800 有効回収数： 354 有効回収率： 44.3%



# 1 基本属性

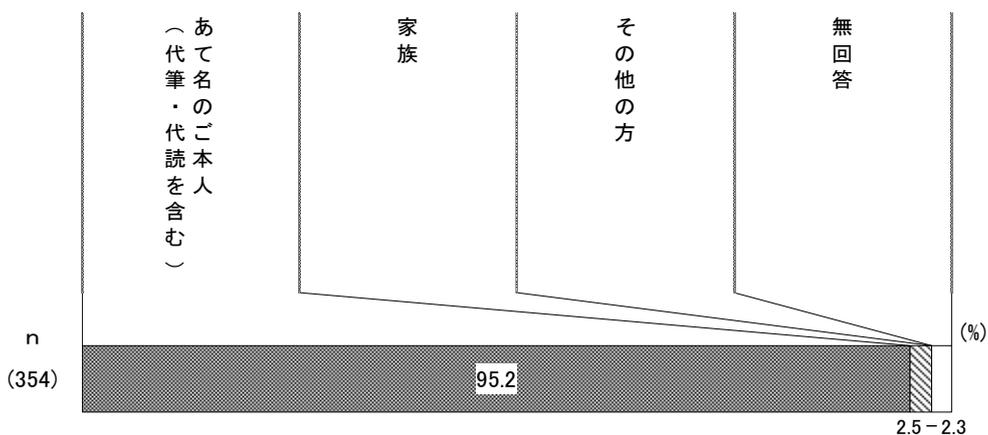
## (1) 調査回答者、性別、現在の満年齢

問1 はじめに、この調査票に回答される方はどなたですか。(1つに○)

問2 あなた(あて名のご本人)の性別、令和4年11月1日現在の満年齢をお答えください。

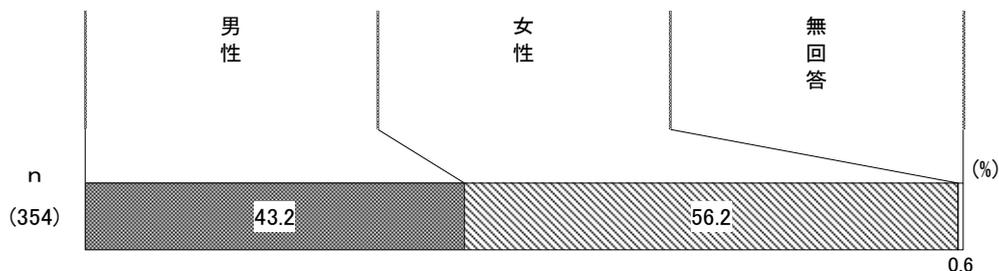
調査回答者は、「あて名のご本人(代筆・代読を含む)」が95.2%となっている。

図表 1-1 調査回答者(単数回答)



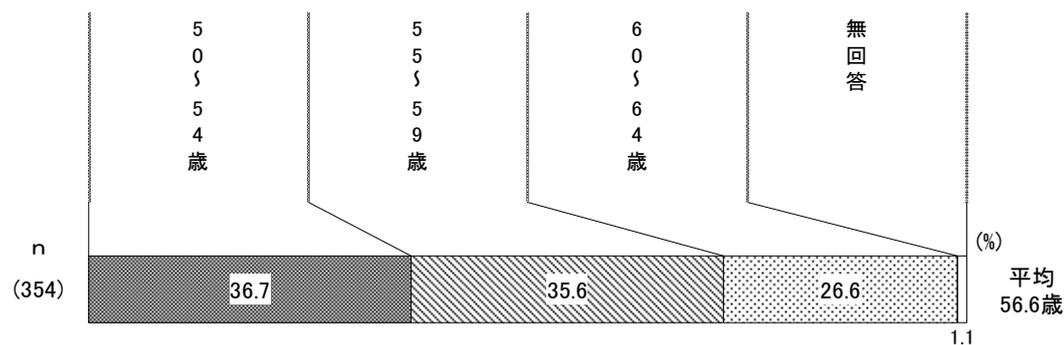
性別は、「女性」が56.2%で「男性」の43.2%より13.0ポイント高い。

図表 1-2 性別(単数回答)



年齢は、「50~54歳」が36.7%、「55~59歳」が35.6%、「60~64歳」が26.6%となっている。平均は56.6歳である。

図表 1-3 現在の満年齢(単数回答)

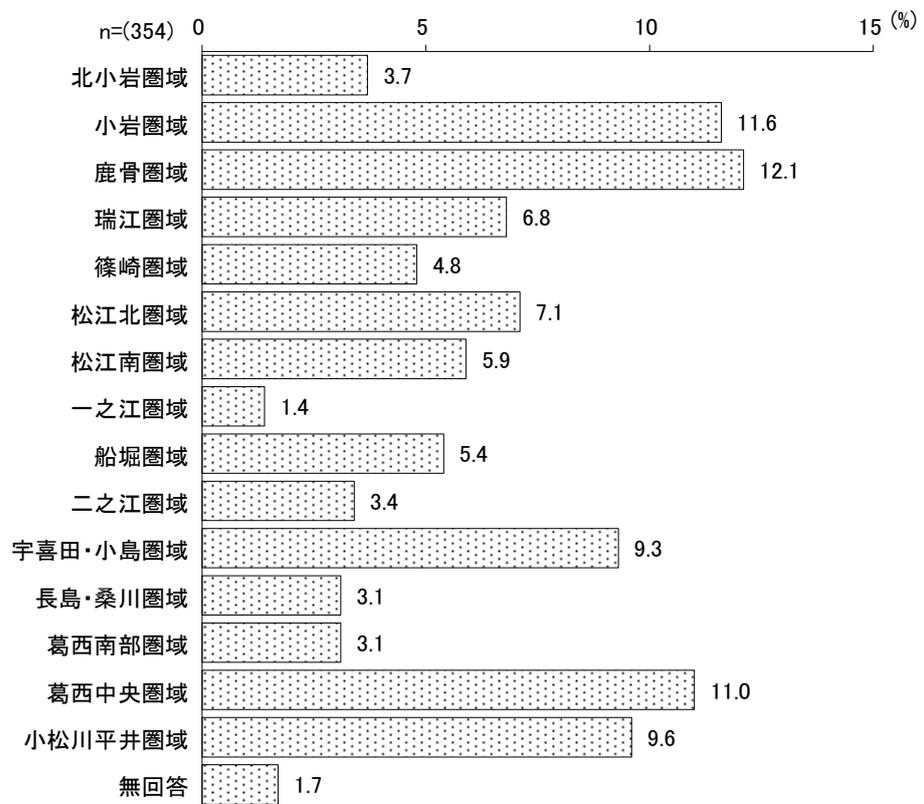


## (2) 居住地（日常生活圏域）

問3 あなた(あて名のご本人)のお住まいはどこですか。記入例を参考に記入してください。  
丁目がない場合は、町名だけ記入してください。

居住地（日常生活圏域）は、「鹿骨圏域」が12.1%で最も高く、次いで「小岩圏域」が11.6%、「葛西中央圏域」が11.0%、「小松川平井圏域」が9.6%、「宇喜田・小島圏域」が9.3%などとなっている。

図表 1 - 4 居住地（日常生活圏域）（単数回答）

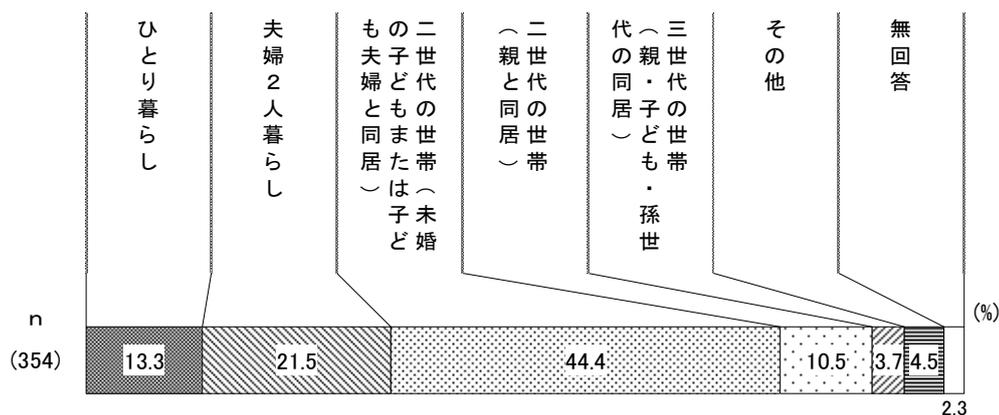


### (3) 世帯構成

問4 あなた(あて名のご本人)の現在の世帯の構成は、次のうちどれですか。(1つに○)

世帯構成は、「二世代の世帯(未婚の子どもまたは子ども夫婦と同居)」が44.4%で最も高く、次いで「夫婦2人暮らし」が21.5%、「ひとり暮らし」が13.3%、「二世代の世帯(親と同居)」が10.5%などとなっている。

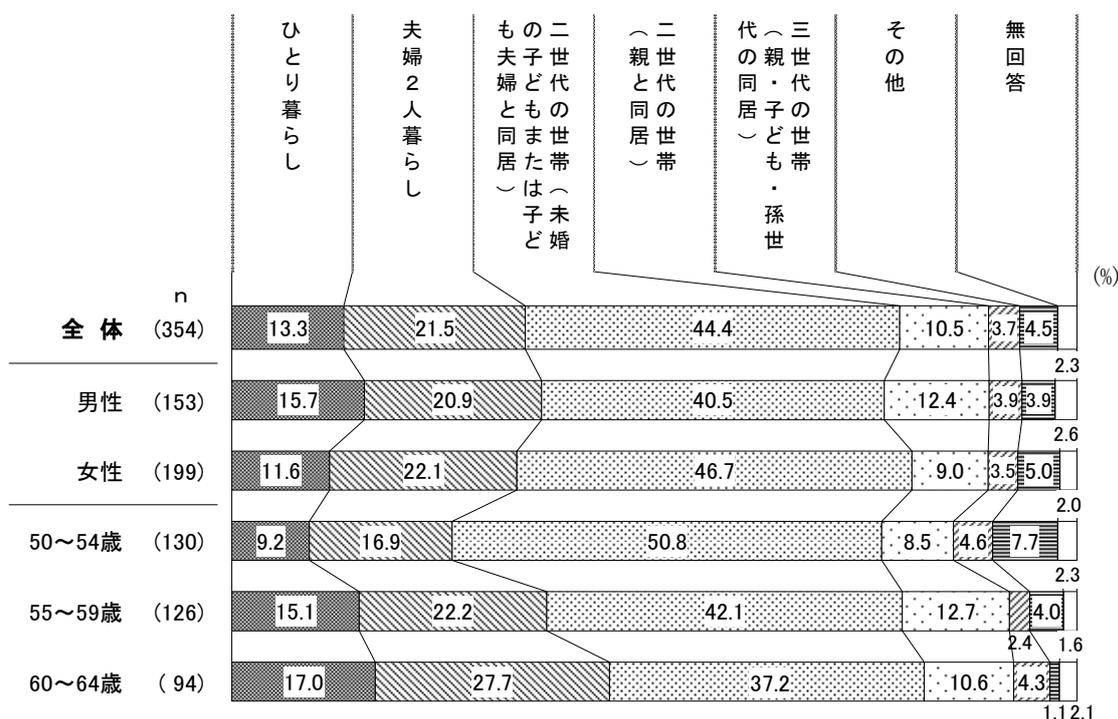
図表1-5 世帯構成(単数回答)



性別でみると、「二世代の世帯(未婚の子どもまたは子ども夫婦と同居)」は女性の方が男性より6.2ポイント高く、「ひとり暮らし」は男性の方が女性より4.1ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「ひとり暮らし」と「夫婦2人暮らし」は年齢が上がるほど割合が高くなり、「二世代の世帯(未婚の子どもまたは子ども夫婦と同居)」は年齢が上がるほど割合が低くなっている。

図表1-6 世帯構成/性別、年齢別

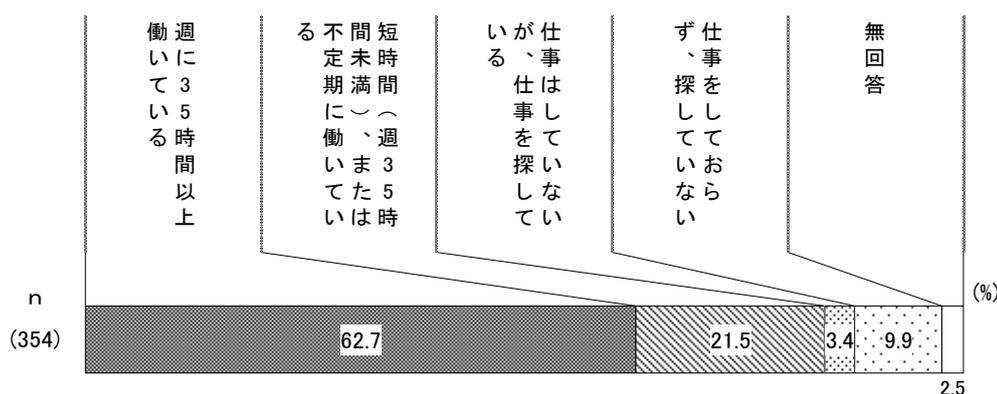


#### (4) 就労状況

問5 あなた(あて名のご本人)は、現在、収入のともなう仕事(パート・アルバイト、家業の手伝いを含む)をしていますか。(1つに○)

就労状況は、「週に35時間以上働いている」が62.7%で最も高く、以下「短時間(週35時間未満)、または不定期に働いている」(21.5%)、「仕事をしておらず、探していない」(9.9%)、「仕事はしていないが、仕事を探している」(3.4%)の順となっている。

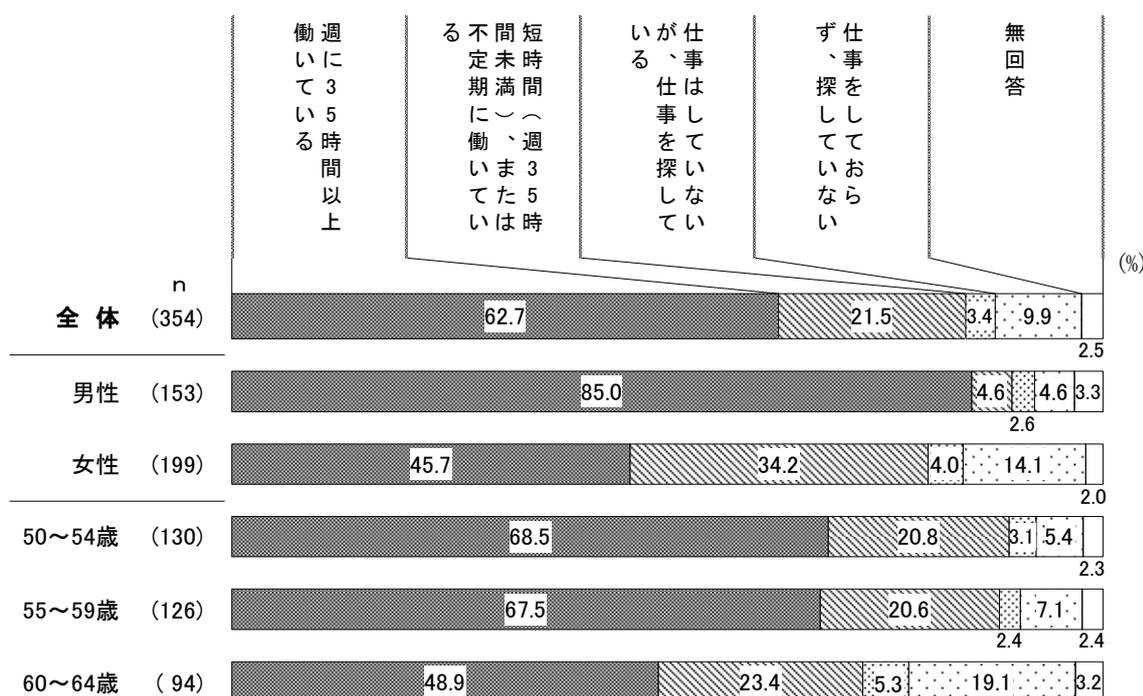
図表1-7 就労状況(単数回答)



性別でみると、男性では「週に35時間以上働いている」が85.0%を占める一方で、女性では「週に35時間以上働いている」が45.7%、「短時間(週35時間未満)、または不定期に働いている」が34.2%となっている。

年齢別でみると、「週に35時間以上働いている」は50~59歳では7割弱であったのが、60~64歳では5割弱となっている。

図表1-8 就労状況/性別、年齢別

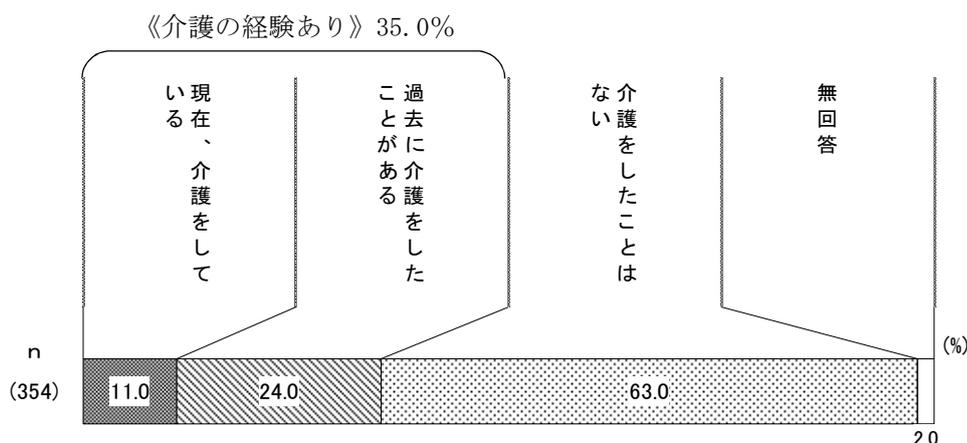


## (5) 介護の経験

問6 あなた(あて名のご本人)は、ご家族または親族などの介護をしたことがありますか。  
 (1つに○)  
 ※ホームヘルパー等やボランティア活動として介護する場合は除きます。

介護の経験では、「現在、介護をしている」が11.0%、「過去に介護をしたことがある」が24.0%でこれらを合わせた《介護の経験あり》は35.0%である。一方、「介護をしたことはない」は63.0%となっている。

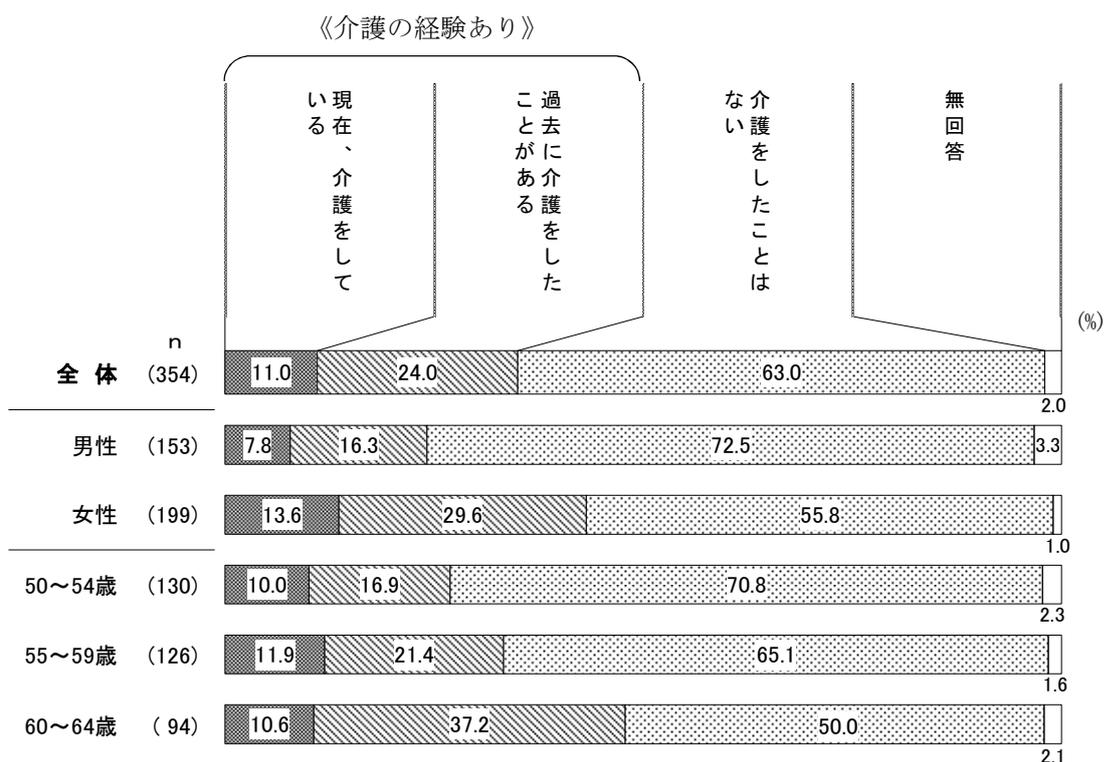
図表 1-9 介護の経験 (単数回答)



性別でみると、「現在、介護をしている」は女性の方が男性より5.8ポイント高く、「過去に介護をしたことがある」でも女性の方が男性より13.3ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「現在、介護をしている」は年齢別での違いはないが、「過去に介護をしたことがある」は年齢が上がるほど割合が高くなり60~64歳で37.2%となっている。

図表 1-10 介護の経験/性別、年齢別



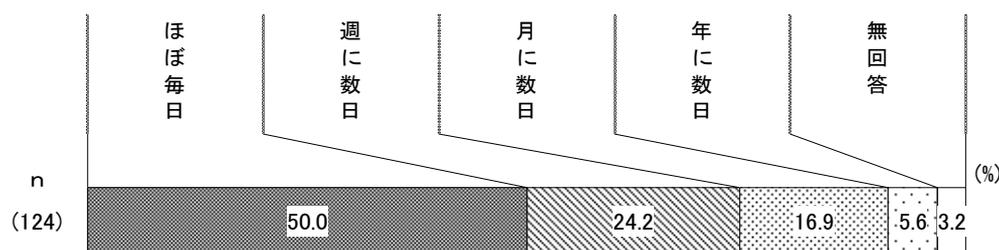
## (6) 介護の頻度

★介護の経験がある方(問6で1または2に○)にうかがいます。(それぞれ1つに○)

問6-1 介護の頻度はどのくらいですか(でしたか)。

介護の頻度では、「ほぼ毎日」が50.0%で最も高く、以下「週に数日」(24.2%)、「月に数日」(16.9%)、「年に数日」(5.6%)の順となっている。

図表 1-11 介護の頻度 (単数回答)



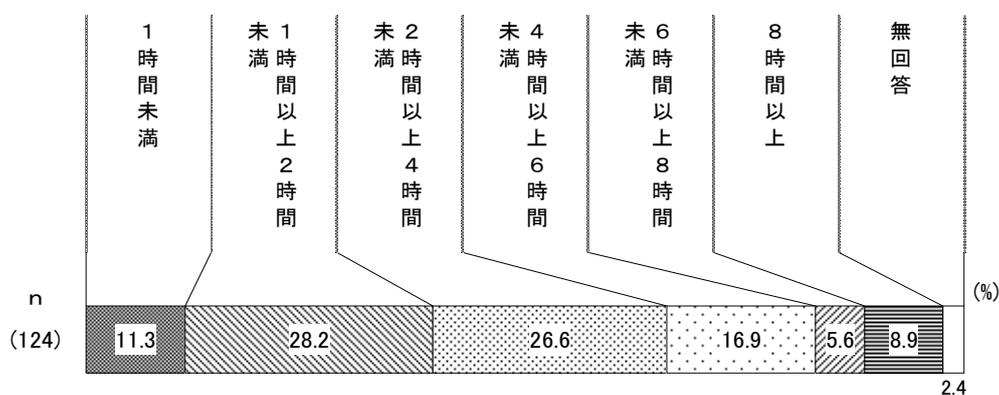
## (7) 1日の介護にかける時間

★介護の経験がある方(問6で1または2に○)にうかがいます。(それぞれ1つに○)

問6-2 1日の介護にかける時間はどのくらいですか(でしたか)。

1日の介護にかける時間では、「1時間以上2時間未満」が28.2%で最も高く、次いで「2時間以上4時間未満」(26.6%)、「4時間以上6時間未満」(16.9%)、「1時間未満」(11.3%)などとなっている。

図表 1-12 1日の介護にかける時間 (単数回答)



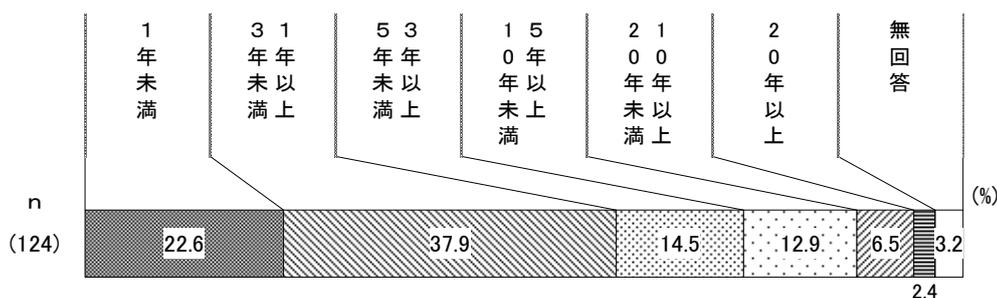
## (8) 介護の期間

★介護の経験がある方(問6で1または2に○)にうかがいます。(それぞれ1つに○)

問6-3 介護の期間はどのくらいですか(でしたか)。

介護の期間は、「1年以上3年未満」が37.9%で最も高く、次いで「1年未満」(22.6%)、「3年以上5年未満」(14.5%)、「5年以上10年未満」(12.9%)などとなっている。

図表 1-13 介護の期間 (単数回答)



## (9) 介護をするうえで困っていること

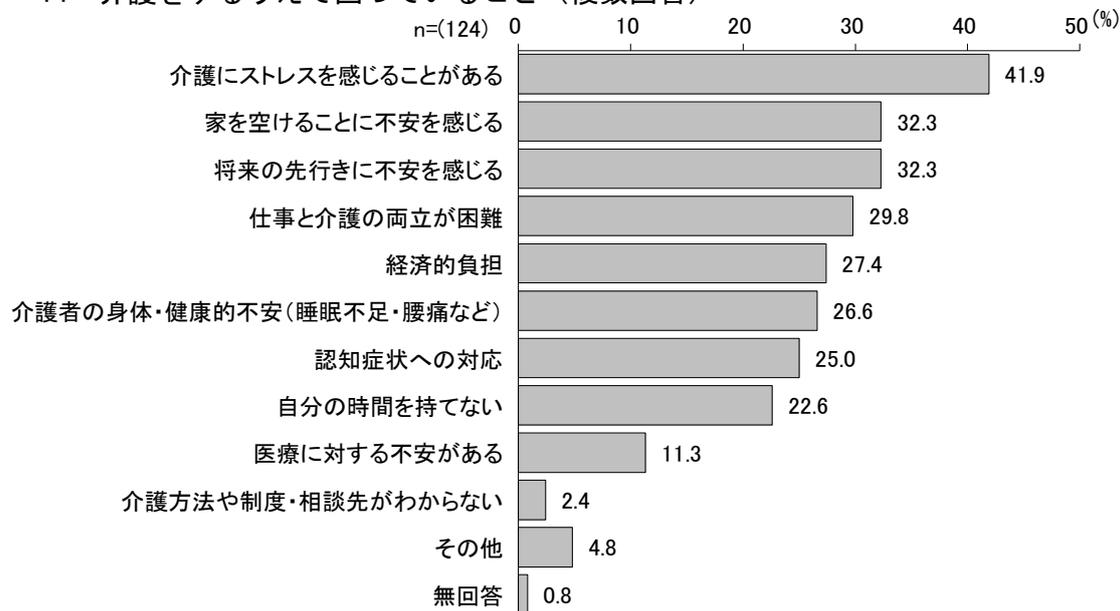
★介護の経験がある方(問6で1または2に○)にうかがいます。(それぞれ1つに○)

問6-4 介護をするうえで困っていることは何ですか(でしたか)。

介護をするうえで困っていることは、「介護にストレスを感じることもある」が41.9%で最も高く、次いで「家を空けることに不安を感じる」と「将来の先行きに不安を感じる」がそれぞれ32.3%、「仕事と介護の両立が困難」が29.8%となっている。

なお、本質問は単数回答でうかがったが、結果的に半数以上の方が複数での回答をされたため、参考として複数回答分を含めて図表を掲載した。

図表 1-14 介護をするうえで困っていること (複数回答)



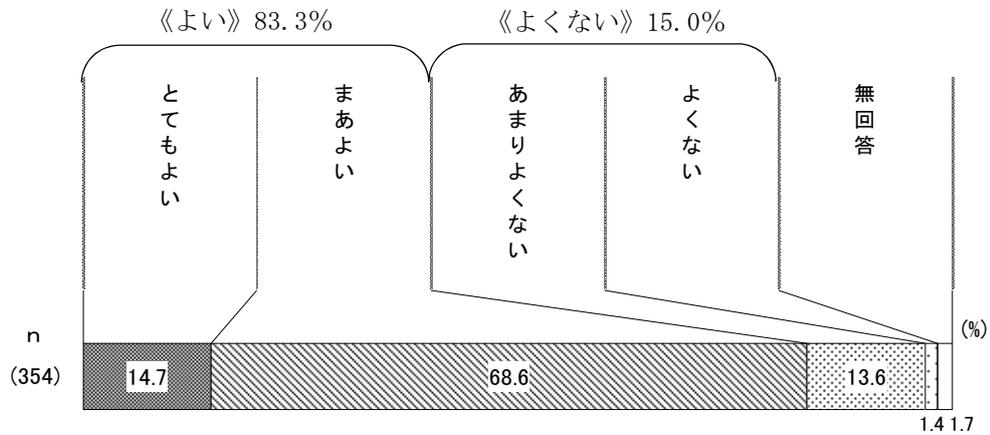
## 2 健康について

### (1) 健康状態

問7 現在のあなた(あて名のご本人)の健康状態はいかがですか。(1つに○)

健康状態は、「まあよい」が68.6%で最も高く、これに「とてもよい」(14.7%)を合わせた《よい》は83.3%を占めている。一方、「あまりよくない」(13.6%)と「よくない」(1.4%)を合わせた《よくない》は15.0%となっている。

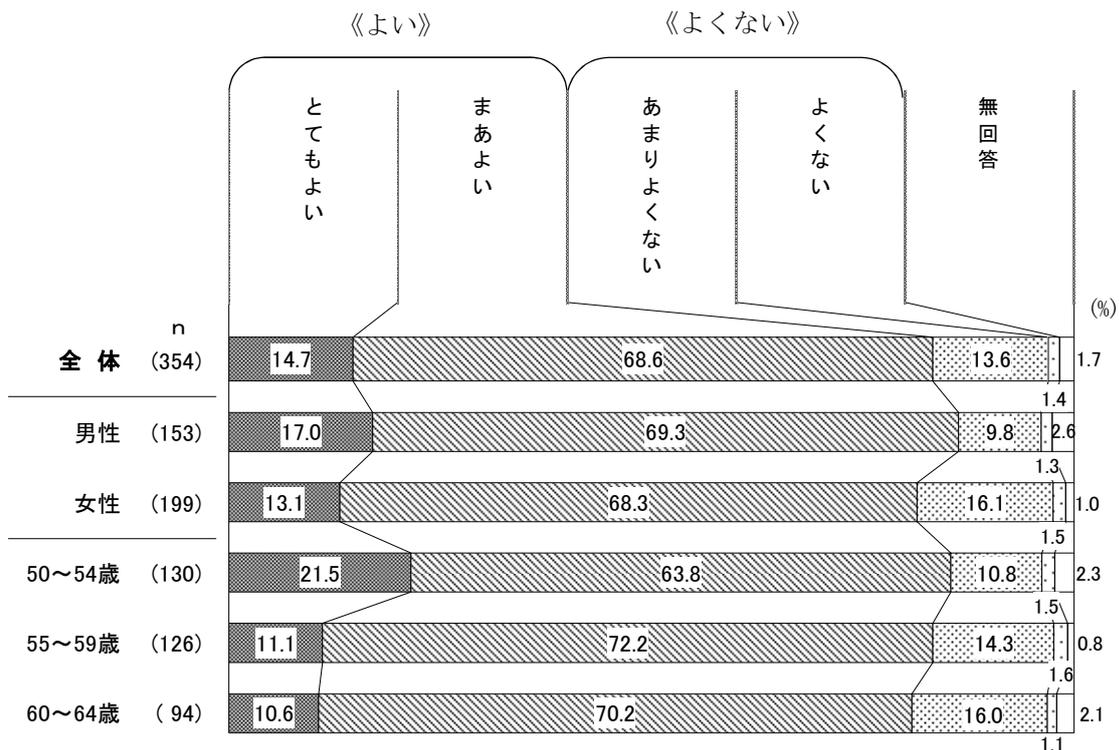
図表2-1 健康状態(単数回答)



性別でみると、《よい》は男性の方が女性より4.9ポイント高くなっている。

年齢別でみると、《よい》は年齢が上がるほどゆるやかに割合が低くなっているが、「とてもよい」は50～54歳から55～59歳にかけて10.4ポイント低くなっている。

図表2-2 健康状態/性別、年齢別



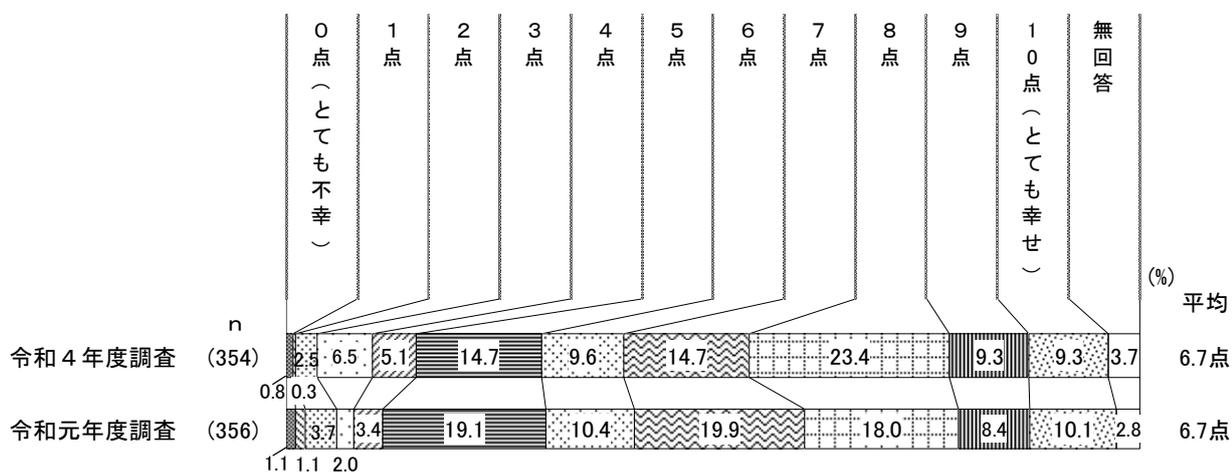
## (2) 現在の幸福度

問8 あなた(あて名のご本人)は、現在どの程度幸せですか。(点数に○)  
 (「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください)

現在の幸福度は、「8点」が23.4%で最も高くなっている。次いで「5点」と「7点」がそれぞれ14.7%、「6点」が9.6%、「9点」と「10点(とても幸せ)」がそれぞれ9.3%で並んでいる。平均は6.7点となっている。

令和元年度調査と比較すると、「8点」が5.4ポイント、「3点」が4.5ポイントそれぞれ増加しており、「7点」が5.2ポイント、「5点」が4.4ポイントそれぞれ減少している。平均は6.7点で変わらない。

図表2-3 現在の幸福度(単数回答)



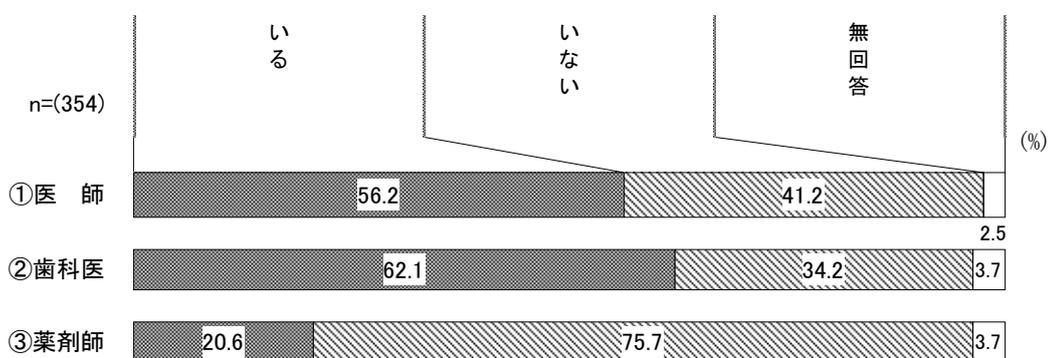
### (3) かかりつけ医師、歯科医、薬剤師の有無

問9 あなた(あて名のご本人)には、かかりつけの医師、歯科医、薬剤師(※)がいますか。  
(それぞれ1つに○)

※日頃から自分または家族の健康状態をよく知っていて、日常的な健康管理をまかせられる医師、歯科医、薬剤師

かかりつけ医師、歯科医、薬剤師の有無は、「いる」は歯科医が62.1%で最も高く、医師が56.2%、薬剤師が20.6%となっている。

図表 2-4 かかりつけ医師、歯科医、薬剤師の有無 (単数回答)



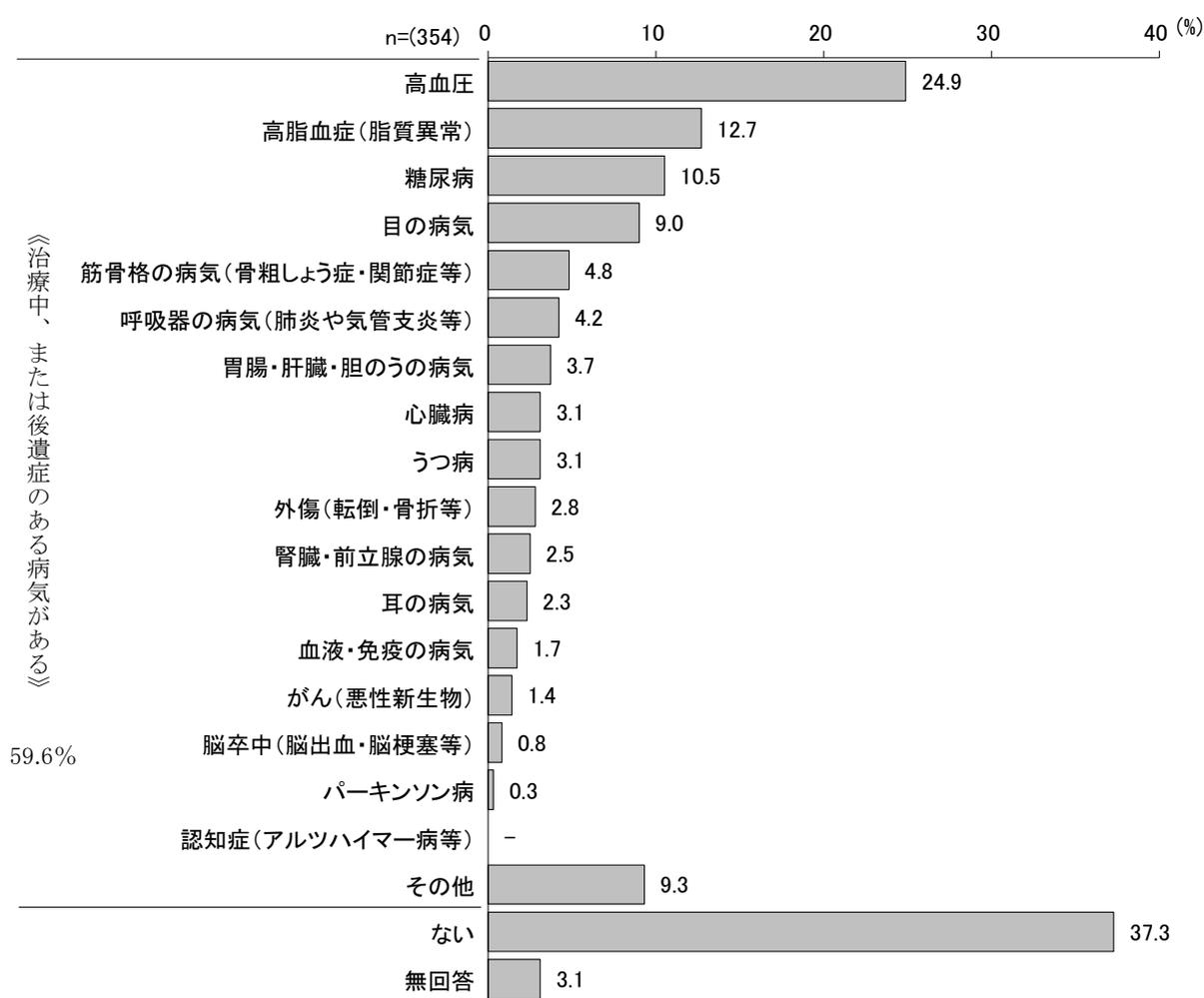
#### (4) 治療中、または後遺症のある病気

問10 あなた(あて名のご本人)は、現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。  
(あてはまるものすべてに○)

治療中、または後遺症のある病気は、《治療中、または後遺症のある病気がある》が59.6%で、「ない」が37.3%となっている。

病気の中では、「高血圧」が24.9%で最も高く、次いで「高脂血症(脂質異常)」が12.7%、「糖尿病」が10.5%、「目の病気」が9.0%などとなっている。

図表 2-5 治療中、または後遺症のある病気(複数回答)

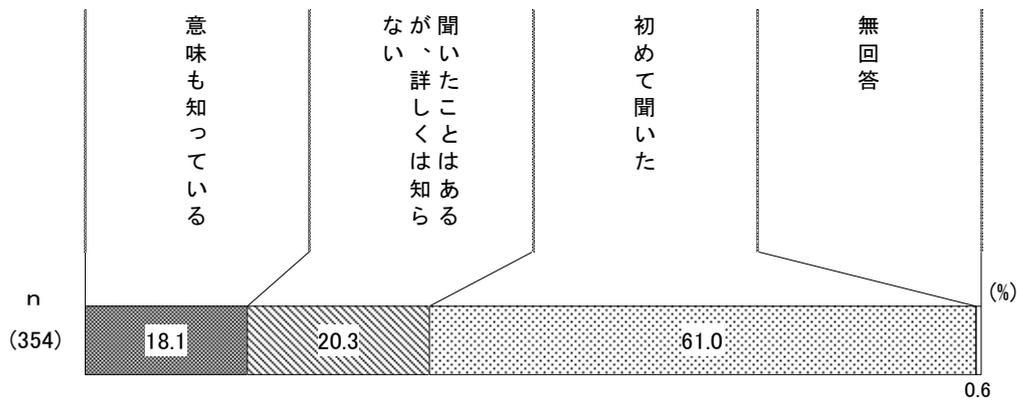


## (5) 「フレイル」という言葉の認知度

問11 健康維持のためには、フレイルの予防が大切です。あなた(あて名のご本人)は、フレイルという言葉を知っていますか。(1つに○)

フレイルという言葉の認知度は、「初めて聞いた」が61.0%で最も高く、次いで「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」が20.3%、「意味も知っている」が18.1%となっている。

図表2-6 「フレイル」という言葉の認知度(単数回答)



※「フレイル(虚弱)」とは、年をとって心身の活力(筋力、認知機能、社会とのつながりなど)が低下した状態をいいます。

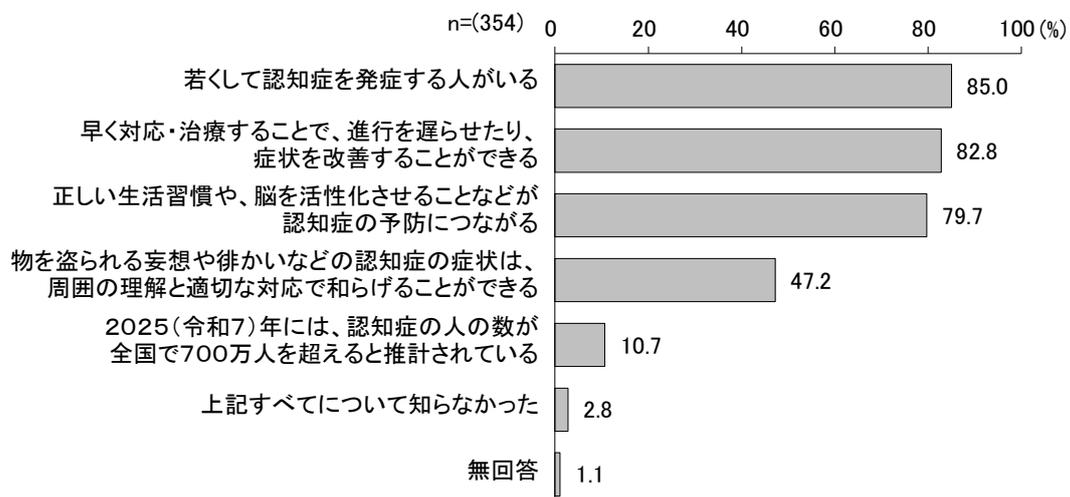
### 3 高齢者介護に関する意識について

#### (1) 認知症に関する知識

問12 認知症に関する次の知識のうち、あなた(あて名のご本人)が知っていることはどれですか。(あてはまるものすべてに○)

認知症に関する知識では、「若くして認知症を発症する人がいる」が85.0%で最も高く、次いで「早く対応・治療することで、進行を遅らせたり、症状を改善することができる」(82.8%)、「正しい生活習慣や、脳を活性化させることなどが認知症の予防につながる」(79.7%)などとなっている。

図表3-1 認知症に関する知識(複数回答)

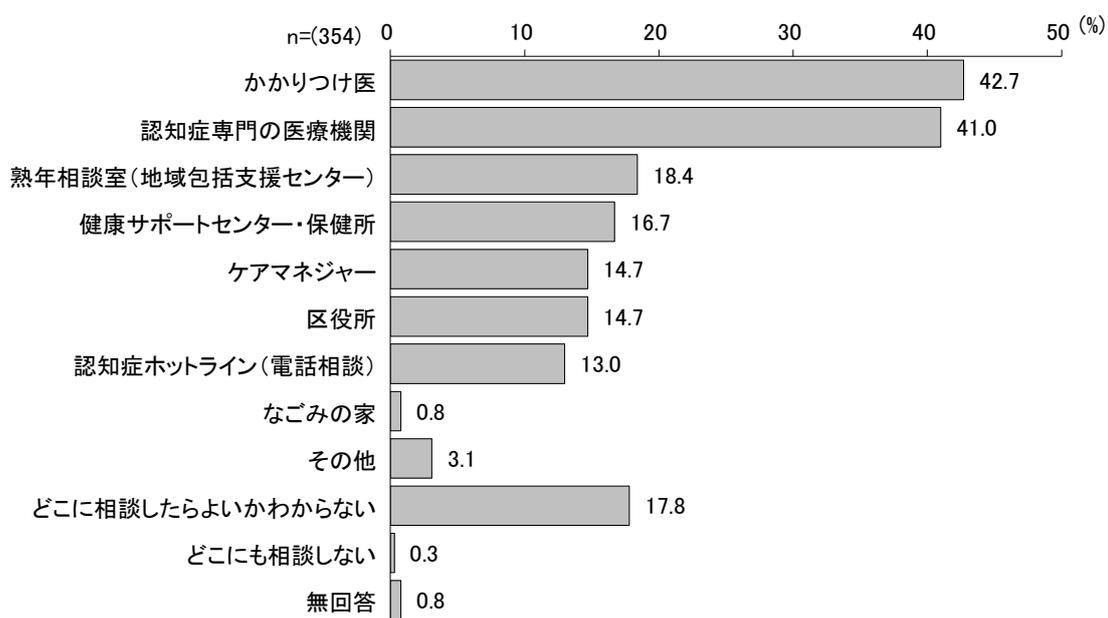


## (2) 認知症に関する相談先

問13 あなた(あて名のご本人)やご家族に認知症の不安が生じた場合、どこに相談しますか。  
(あてはまるものすべてに○)

認知症に関する相談先は、「かかりつけ医」が42.7%で最も高く、次いで「認知症専門の医療機関」が41.0%、「熟年相談室(地域包括支援センター)」が18.4%、「健康サポートセンター・保健所」が16.7%などとなっている。一方、「どこに相談したらよいかわからない」は17.8%となっている。

図表3-2 認知症に関する相談先(複数回答)

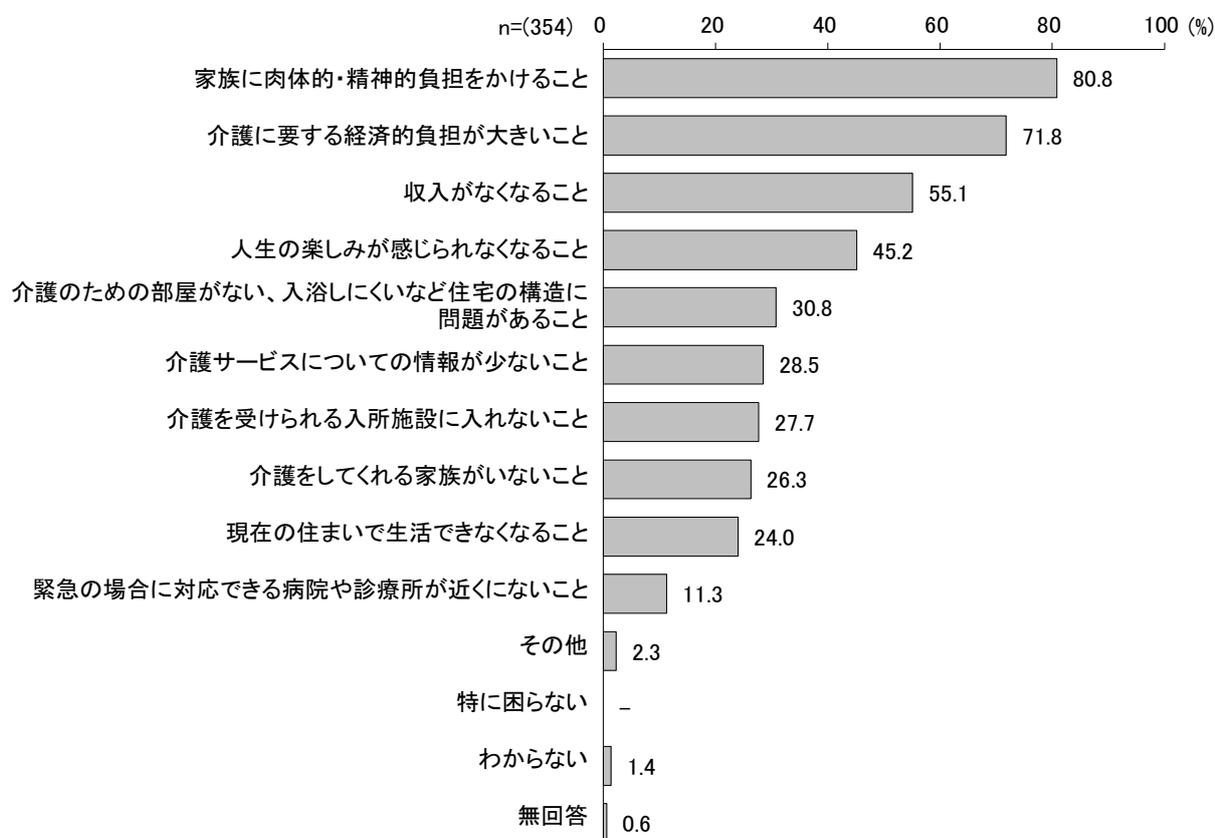


### (3) 老後に寝たきりや認知症になり介護が必要となった場合に困ること

問14 あなた(あて名のご本人)ご自身が、寝たきりや認知症になり、介護が必要となった場合、どのようなことに困ると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

老後に寝たきりや認知症になり介護が必要となった場合に困ることは、「家族に肉体的・精神的負担をかけること」が80.8%で最も高く、次いで「介護に要する経済的負担が大きいこと」が71.8%、「収入がなくなること」が55.1%、「人生の楽しみが感じられなくなること」が45.2%などとなっている。

図表3-3 老後に寝たきりや認知症になり介護が必要となった場合に困ること（複数回答）

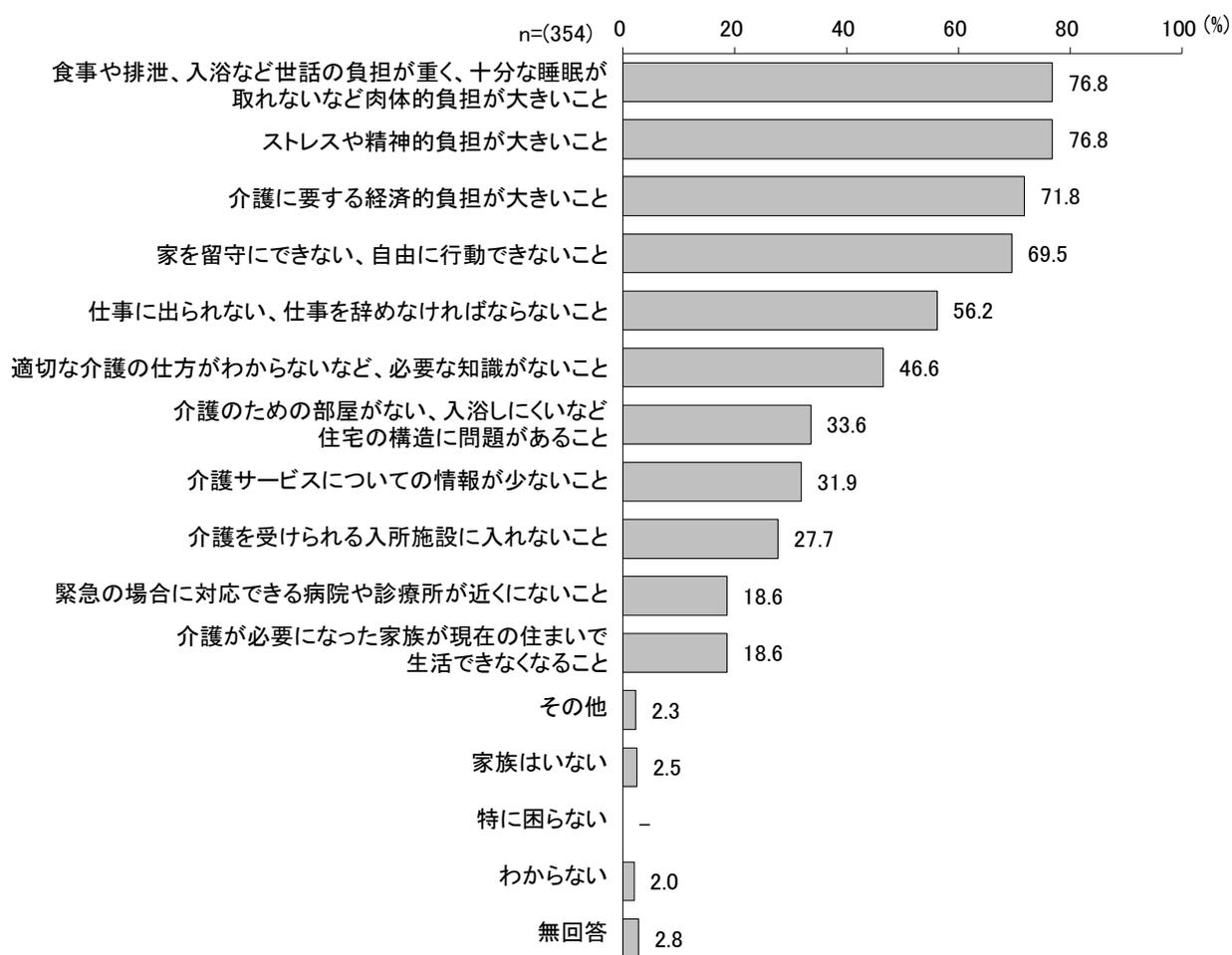


#### (4) 家族が老後に寝たきりや認知症になり介護が必要となった場合に困ること

問15 仮に、あなた(あて名のご本人)のご家族が、寝たきりや認知症になり、介護が必要になった場合に、あなたは、どのようなことに困ると思いますか。また、現在、寝たきりや認知症のご家族がいる方はどんなことにお困りですか。(あてはまるものすべてに○)

家族が老後に寝たきりや認知症になり介護が必要となった場合に困ることでは、「食事や排泄、入浴など世話の負担が重く、十分な睡眠が取れないなど肉体的負担が大きいこと」と「ストレスや精神的負担が大きいこと」がそれぞれ76.8%で最も高く、次いで「介護に要する経済的負担が大きいこと」(71.8%)、「家を留守にできない、自由に行動できないこと」(69.5%)が7割前後で続いている。

図表3-4 家族が老後に寝たきりや認知症になり介護が必要となった場合に困ること(複数回答)



## 4 社会参加、生きがいつくりについて

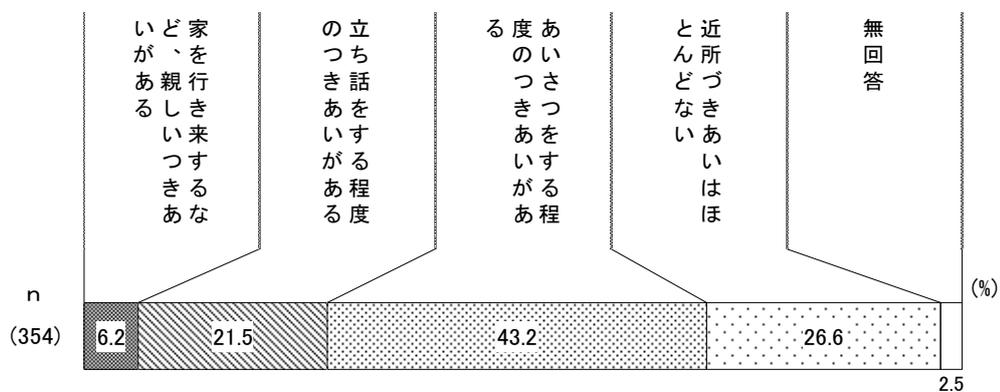
### (1) 近所の人とのつきあいの程度

問16 あなた(あて名のご本人)は、ご近所の方との程度のつきあいをしていますか。

(1つに〇)

近所の人とのつきあいの程度では、「あいさつをする程度のつきあいがある」が43.2%で最も高く、以下、「近所づきあいはほとんどない」(26.6%)、「立ち話をする程度のつきあいがある」(21.5%)、「家を行き来するなど、親しいつきあいがある」(6.2%)の順となっている。

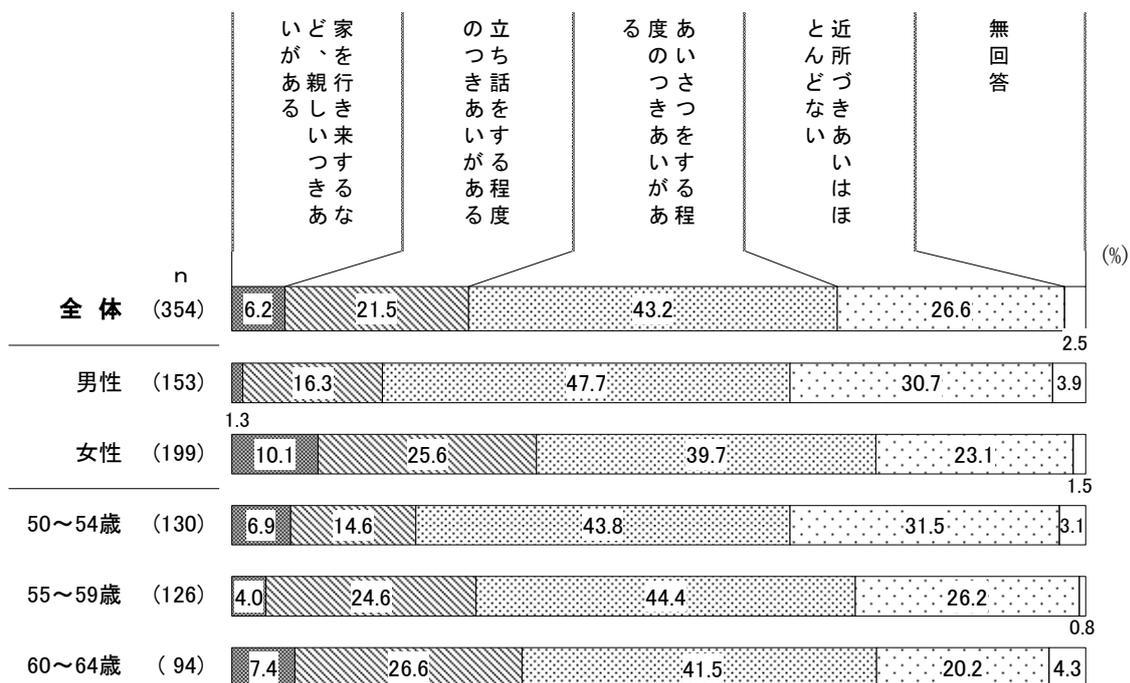
図表4-1 近所の人とのつきあいの程度(単数回答)



性別でみると、「家を行き来するなど、親しいつきあいがある」と「立ち話をする程度のつきあいがある」でともに女性の方が男性より10ポイント近く高くなっている。

年齢別でみると、「家を行き来するなど、親しいつきあいがある」は年齢別で大きな違いはみられないが、「立ち話をする程度のつきあいがある」は年齢が上がるほど割合が高くなっている。

図表4-2 近所の人とのつきあいの程度/性別、年齢別



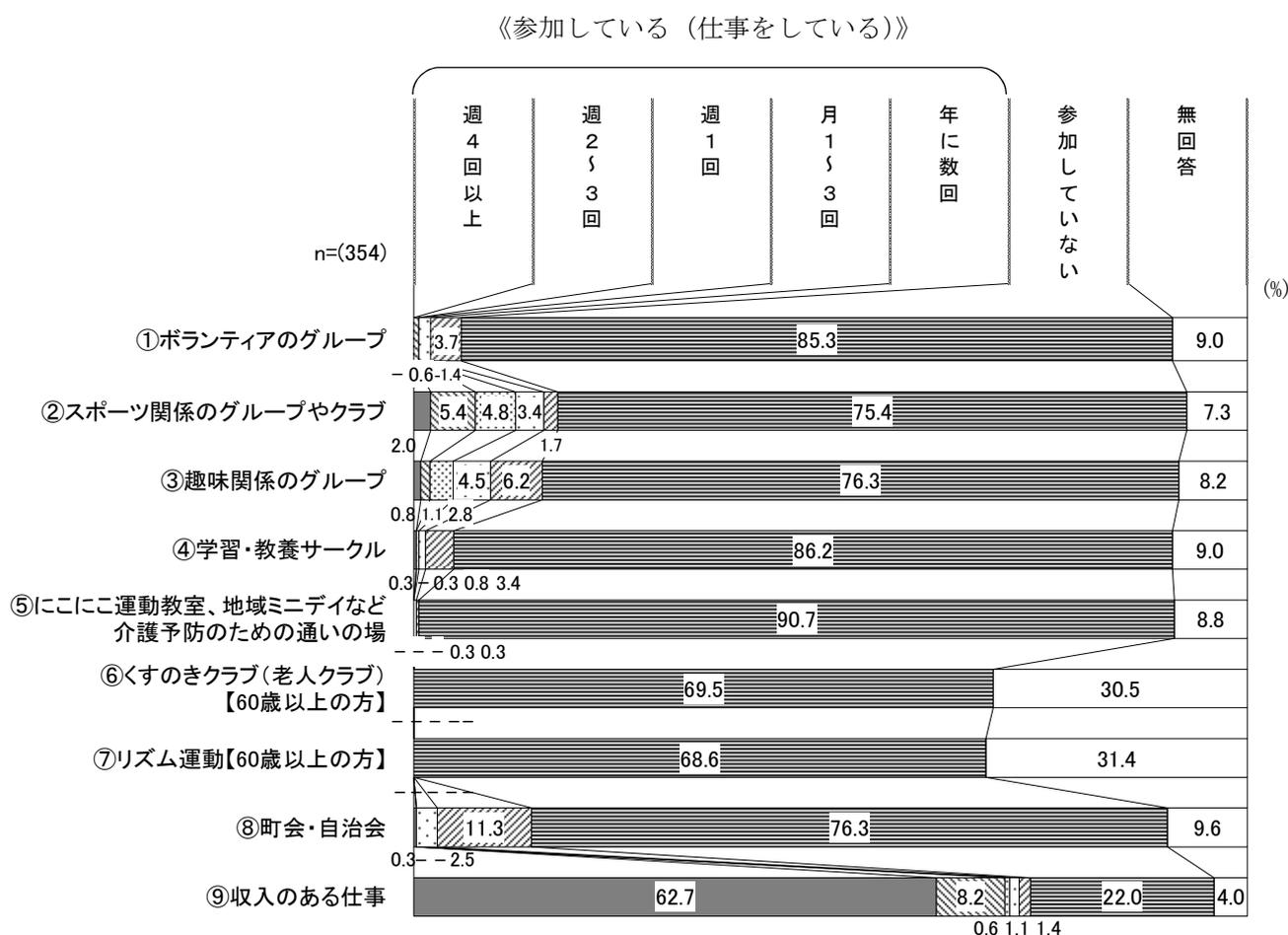
## (2) 会やグループ等への参加頻度

問17 あなた(あて名のご本人)は、以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。(それぞれ1つに○)  
 ※①～⑨それぞれに回答してください。

会やグループ等への参加頻度は、“⑨収入のある仕事”を除いて、「参加していない」がいずれも高く、6割以上となっている。

「週4回以上」から「年に数回」までを合わせた《参加している(仕事をしている)》は、“⑨収入のある仕事”が74.0%で最も高く、次いで、“②スポーツ関係のグループやクラブ”が17.3%、“③趣味関係のグループ”が15.4%、“⑧町会・自治会”が14.1%となっている。

図表4-3 会やグループ等への参加頻度(単数回答)

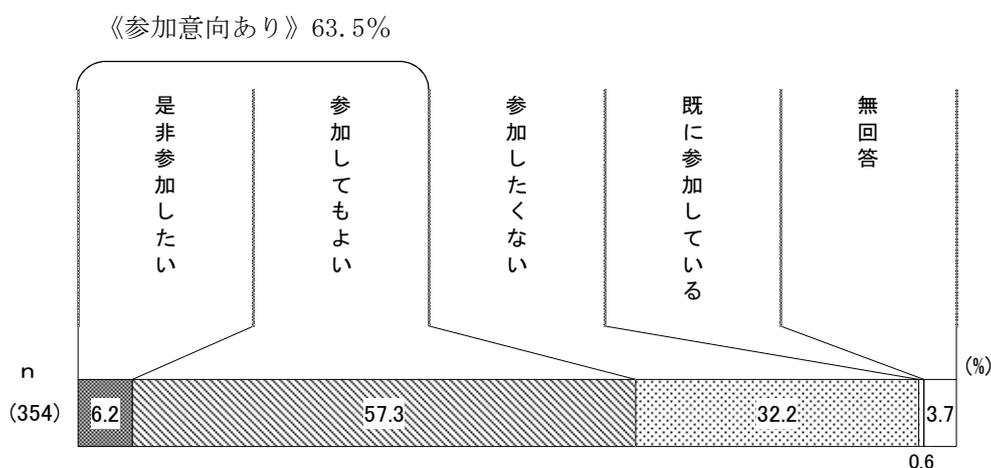


### (3) 地域づくりを進める活動への参加者としての参加意向

問18 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなた(あて名のご本人)はその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。(1つに○)

地域づくりを進める活動への参加者としての参加意向は、「参加してもよい」が57.3%で最も高く、これに「是非参加したい」(6.2%)を合わせた《参加意向あり》は63.5%となっている。一方、「参加したくない」が32.2%となっている。

図表4-4 地域づくりを進める活動への参加者としての参加意向(単数回答)

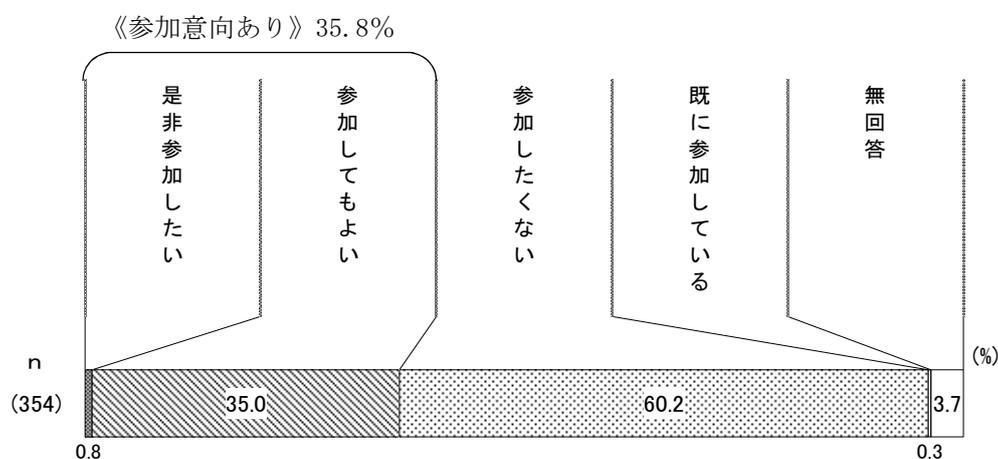


#### (4) 地域づくりを進める活動への企画・運営者としての参加意向

問19 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなた(あて名のご本人)はその活動に企画・運営(お世話役)として参加してみたいと思いますか。(1つに○)

地域づくりを進める活動への企画・運営者としての参加意向は、「是非参加したい」が0.8%、「参加してもよい」が35.0%で、これらを合わせた《参加意向あり》は35.8%となっている。一方、「参加したくない」が60.2%と最も高くなっている。

図表4-5 地域づくりを進める活動への企画・運営者としての参加意向(単数回答)



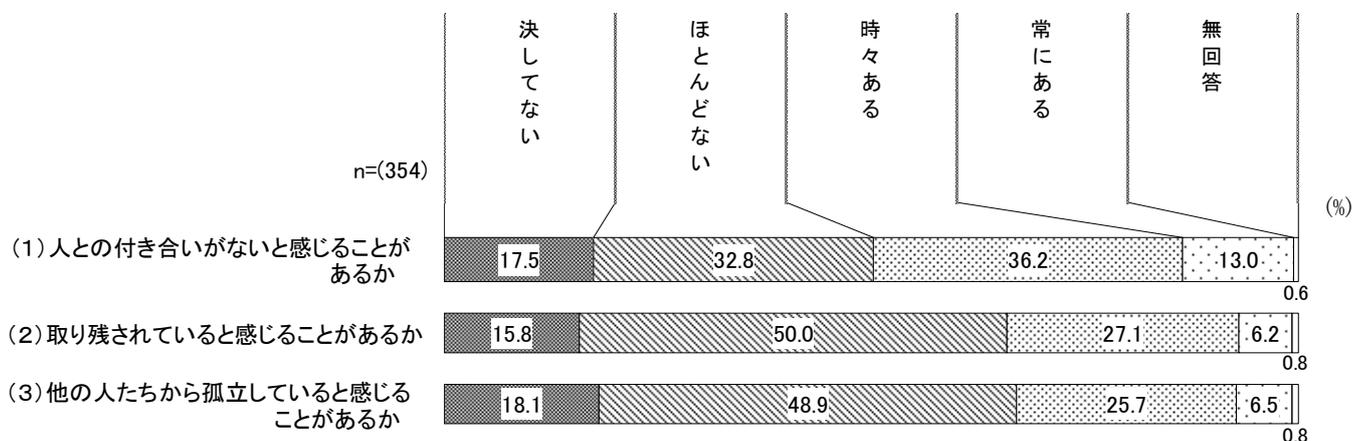
## (5) UCLA 孤独感尺度

問20 以下の設問にお答えください。(それぞれ1つに○)

- (1) 自分には人との付き合いがないと感じることがありますか。
- (2) 自分は取り残されていると感じることがありますか。
- (3) 自分は他の人たちから孤立していると感じることがありますか。

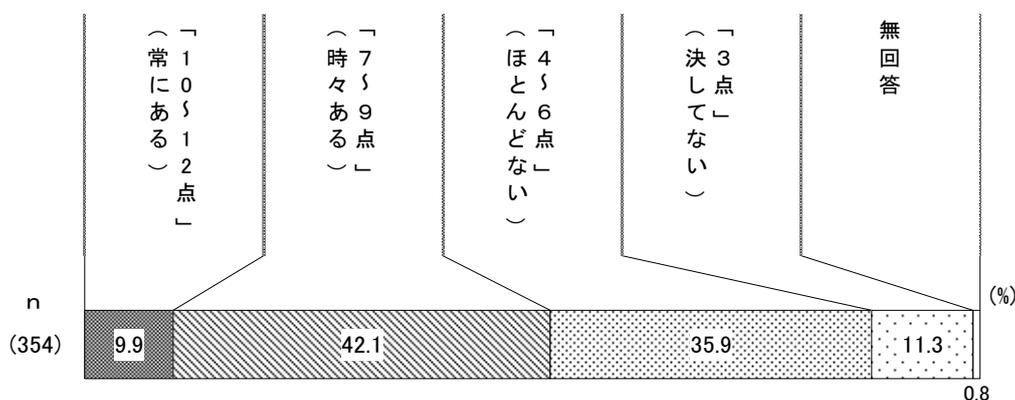
「ほとんどない」は“自分は取り残されていると感じる頻度”と“自分は他の人たちから孤立していると感じる頻度”で約5割と最も高く、「時々ある」は“自分には人とのつきあいがなく感じる頻度”で36.2%と最も高くなっている。

図表4-6 UCLA 孤独感尺度 (3項目短縮版)



UCLA 孤独感尺度に基づく孤独感スコア\*は、「時々ある (7~9点)」が42.1%で最も高く、次いで「ほとんどない (4~6点)」が35.9%、「決してない (3点)」が11.3%、「常にある (10~12点)」が9.9%となっている。

図表4-7 UCLA 孤独感尺度に基づく孤独感スコア



※UCLA 孤独感尺度については 66 ページを参照

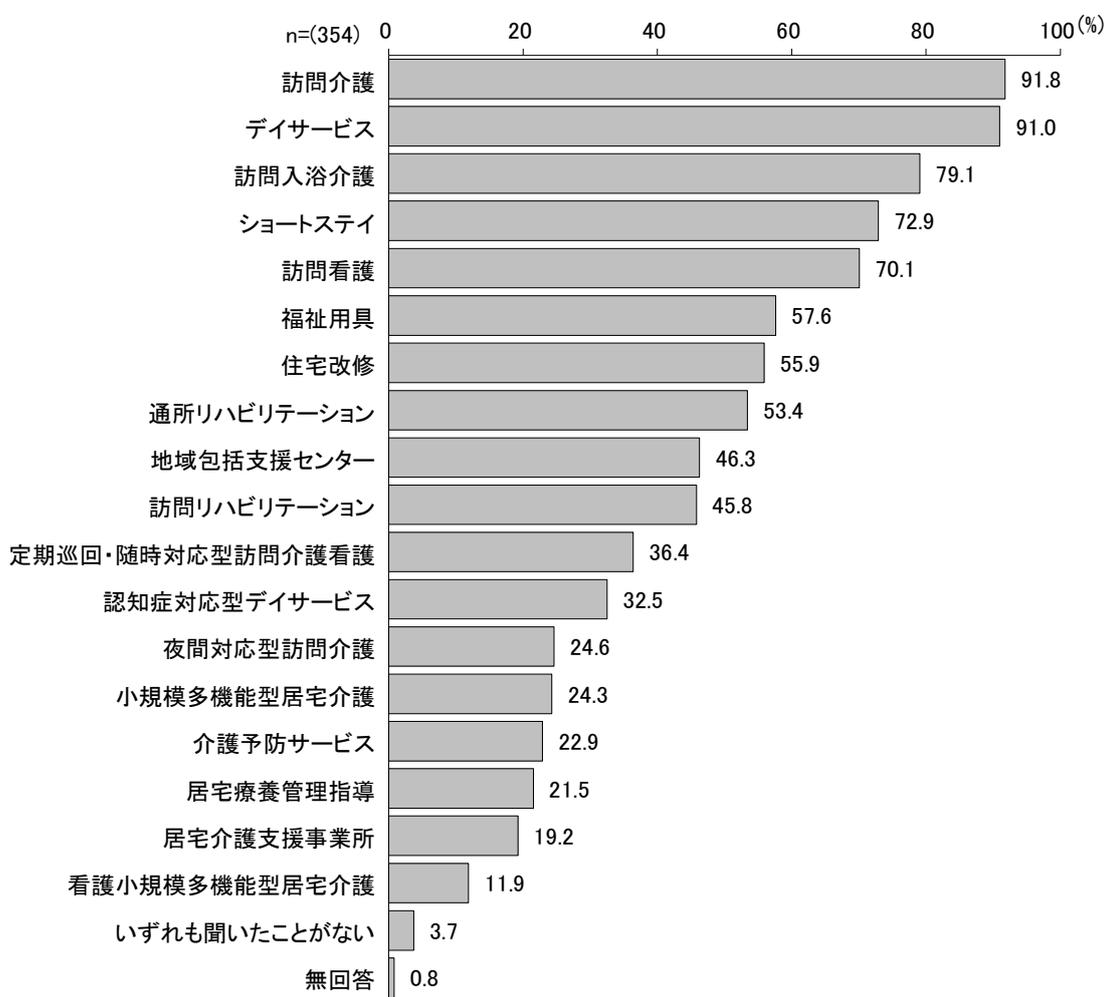
## 5 在宅介護、施設介護に関する意識について

### (1) 自宅で受ける介護保険サービスの認知度

問21 現在の住まいで受ける介護保険の対象となるサービスに、次のようなものがあります。この中で聞いたことがあるものはどれですか。(あてはまるものすべてに○)

自宅で受ける介護保険サービスの認知度は、「訪問介護」が91.8%で最も高く、僅差で「デイサービス」が91.0%で続き、以下、「訪問入浴介護」(79.1%)、「ショートステイ」(72.9%)、「訪問看護」(70.1%)が7割台となっている。

図表5-1 自宅で受ける介護保険サービスの認知度(複数回答)

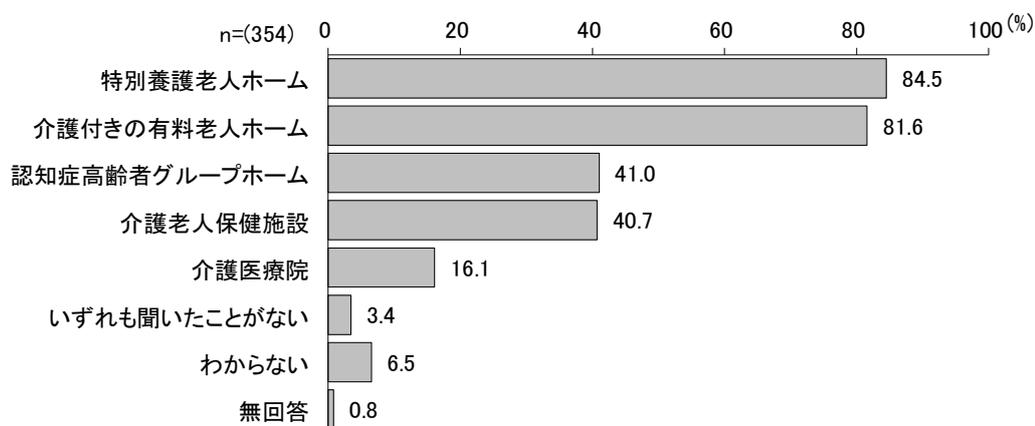


## (2) 施設・居住系サービスの認知度

問22 介護保険の対象となるサービスを受ける施設に、次のようなものがあります。この中で聞いたことがあるものはどれですか。(あてはまるものすべてに○)

施設・居住系サービスの認知度は、「特別養護老人ホーム」が84.5%で最も高く、次いで「介護付きの有料老人ホーム」が81.6%、「認知症高齢者グループホーム」が41.0%、「介護老人保健施設」が40.7%などとなっている。

図表 5-2 施設・居住系サービスの認知度（複数回答）

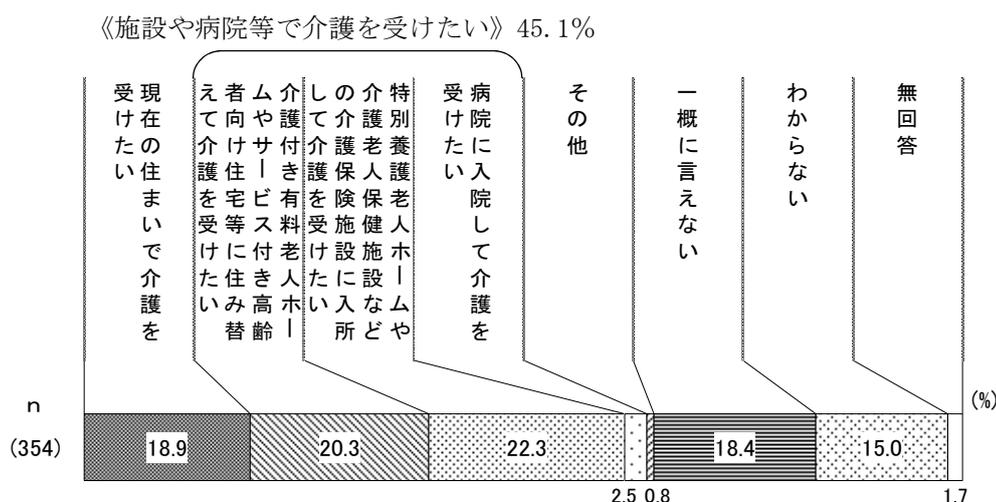


### (3) 自分自身が介護を受けたい場所

問23 あなた(あて名のご本人)ご自身が老後に寝たきりや認知症になり、介護が必要となった場合に、どこで介護を受けたいと思いますか。(1つに○)

自分自身が介護を受けたい場所は、「特別養護老人ホームや介護老人保健施設などの介護保険施設に入所して介護を受けたい」が22.3%で最も高く、次いで「介護付き有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅等に組み替えて介護を受けたい」が20.3%、「現在の住まいで介護を受けたい」が18.9%となっている。また、「一概に言えない」が18.4%、「わからない」が15.0%となっている。

図表5-3 自分自身が介護を受けたい場所（単数回答）



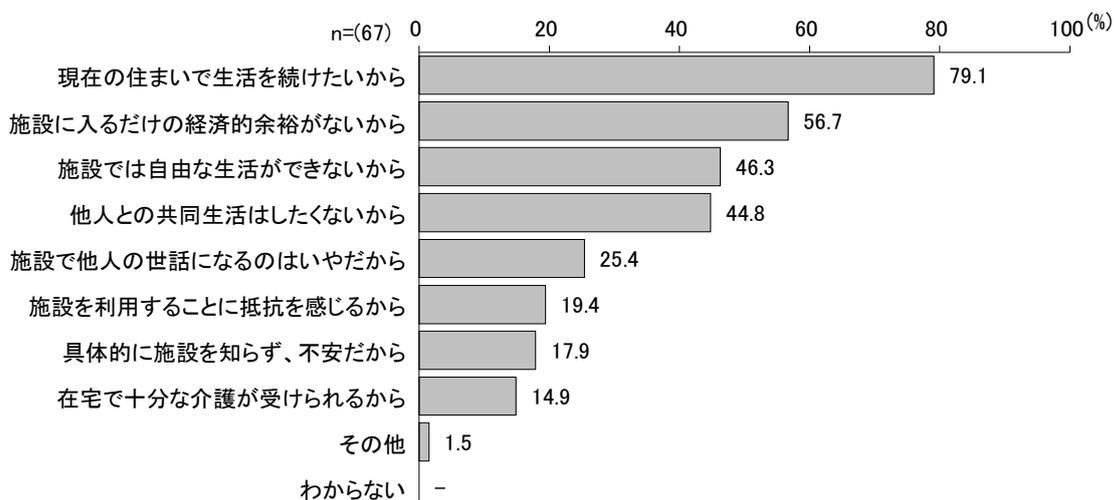
### (4) 現在の住まいで介護を受けたい理由

★現在の住まいで介護を受けたい方(問23で1に○)にうかがいます。

問23-1 それはなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

介護が必要になった場合に、「現在の住まいで介護を受けたい」と回答した人に、その理由をたずねた。その結果、「現在の住まいで生活を続けたいから」が79.1%で最も高く、次いで「施設に入るだけの経済的余裕がないから」が56.7%、「施設では自由な生活ができないから」が46.3%、「他人との共同生活はしたくないから」が44.8%などとなっている。

図表5-4 現在の住まいで介護を受けたい理由（複数回答）



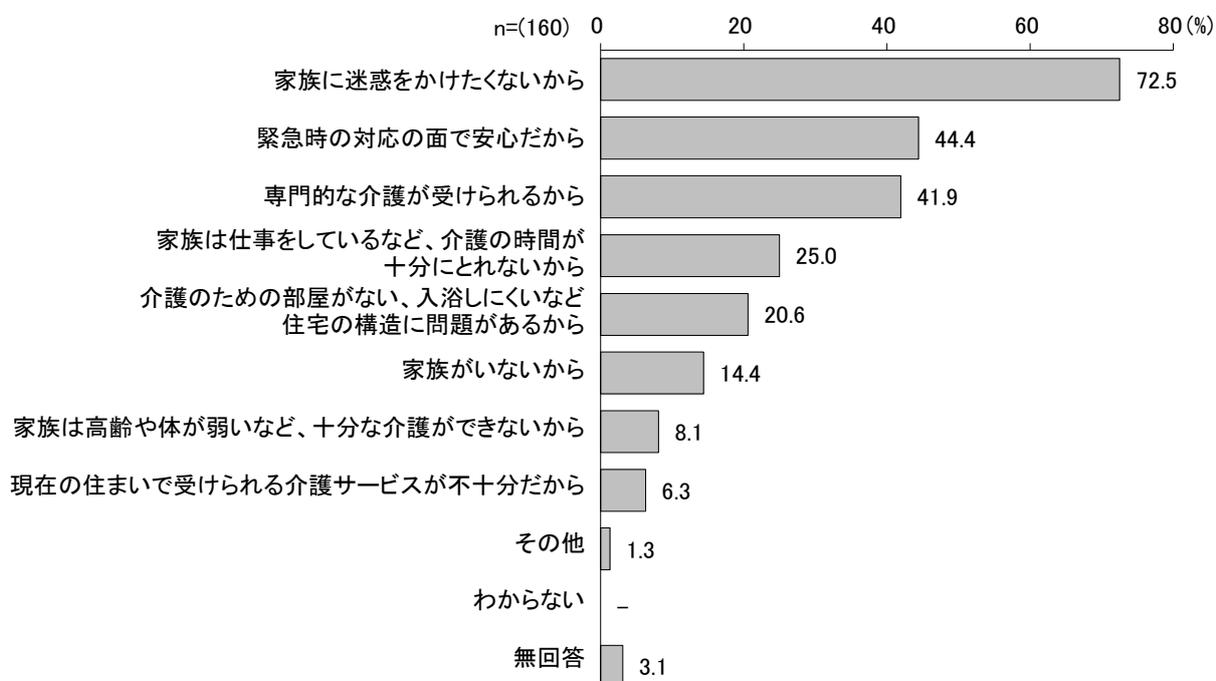
## (5) 施設や病院等で介護を受けたい理由

★以下の問23-2、問23-3は、施設や病院等で介護を受けたい方(問23で2～4に○)にうかがいます。

問23-2 それはなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

介護が必要になった場合に、「介護付きの有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅等に住み替えて介護を受けたい」、「特別養護老人ホームや介護老人保健施設などの介護保険施設に入所して介護を受けたい」、「病院に入院して介護を受けたい」と回答した人に、その理由をたずねた。その結果、「家族に迷惑をかけたくないから」が72.5%で最も高く、次いで「緊急時の対応の面で安心だから」が44.4%、「専門的な介護が受けられるから」が41.9%などとなっている。

図表5-5 施設や病院等で介護を受けたい理由（複数回答）



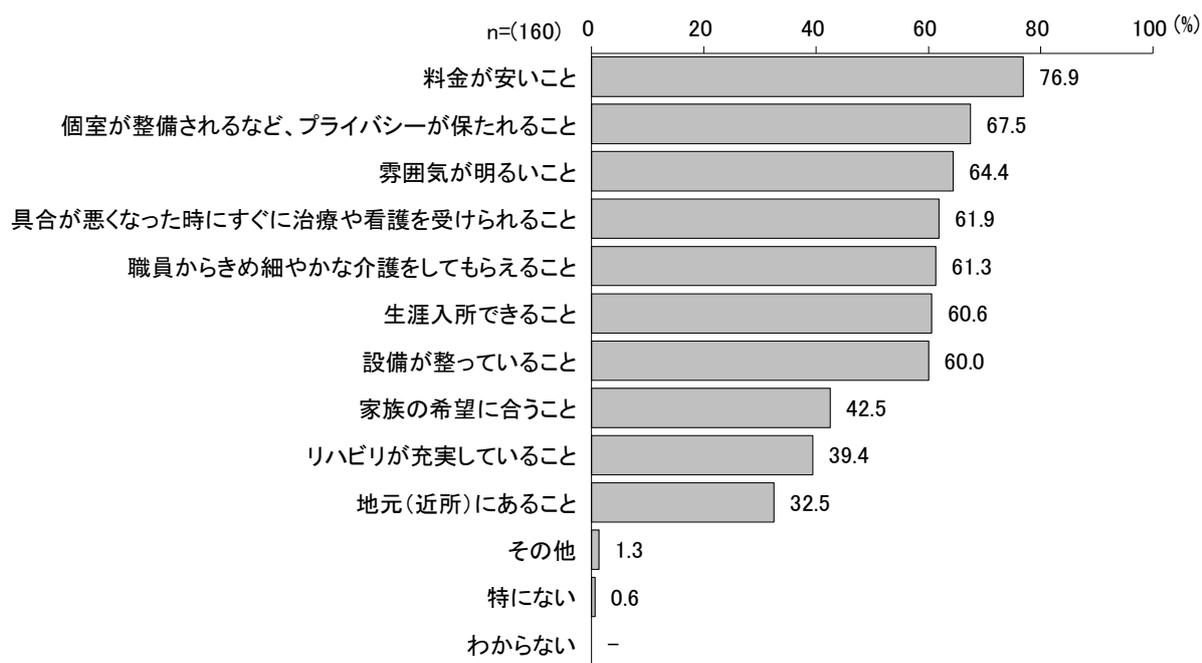
## (6) 施設や病院等を選ぶ際に重視したいこと

★以下の問23-2、問23-3は、施設や病院等で介護を受けたい方(問23で2～4に○)にうかがいます。

問23-3 あなた(あて名のご本人)が施設を選ぶ際に重視したいことはどのようなことですか。  
(あてはまるものすべてに○)

介護が必要になった場合に、「介護付きの有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅等に住み替えて介護を受けたい」、「特別養護老人ホームや介護老人保健施設などの介護保険施設に入所して介護を受けたい」、「病院に入院して介護を受けたい」と回答した人に、施設や病院等を選ぶ際の重視点をたずねた。その結果、「料金が安いこと」が76.9%で最も高く、次いで「個室が整備されるなど、プライバシーが保たれること」が67.5%、「雰囲気明るいこと」が64.4%、「具合が悪くなった時にすぐに治療や看護を受けられること」が61.9%などとなっている。

図表5-6 施設や病院等を選ぶ重視点(複数回答)

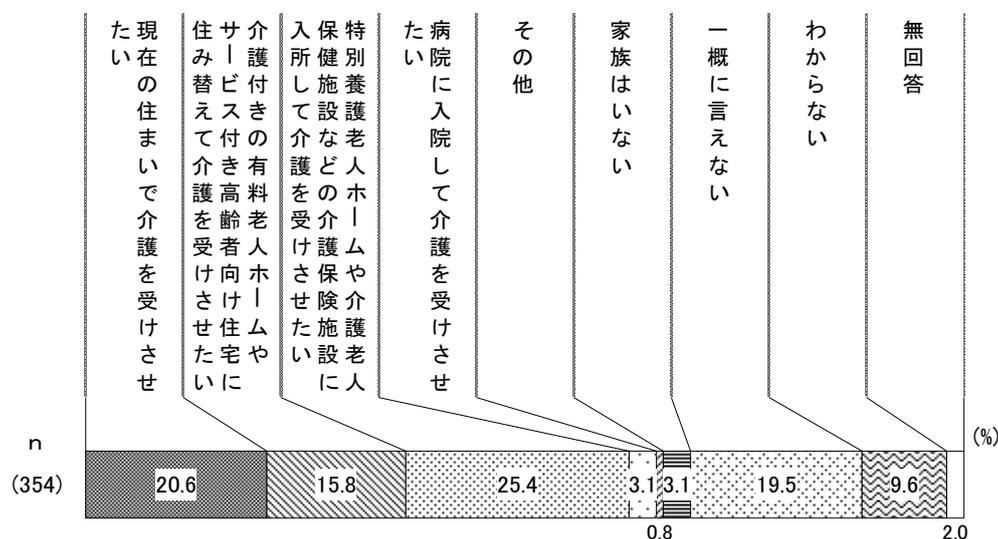


## (7) 家族に介護を受けさせたい場所

問24 あなた(あて名のご本人)のご家族が寝たきりや認知症になり、介護が必要となった場合に、どこで介護を受けさせたいと思いますか。(1つに○)

家族に介護を受けさせたい場所は、「特別養護老人ホームや介護老人保健施設などの介護保険施設に入所して介護を受けさせたい」が25.4%で最も高く、次いで「現在の住まいで介護を受けさせたい」が20.6%、「介護付き有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅に」が15.8%などとなっている。なお、「一概に言えない」が19.5%、「わからない」が9.6%みられる。

図表5-7 家族に介護を受けさせたい場所（単数回答）



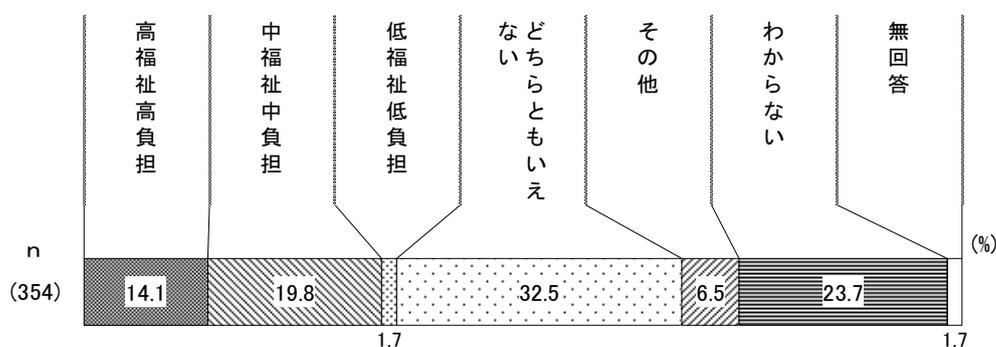
## 6 介護保険制度について

### (1) 福祉サービスの水準と負担の関係に対する考え

問25 あなた(あて名のご本人)は、福祉サービスの水準と負担の関係について、どれが望ましいと思いますか。(1つに○)

福祉サービスの水準と負担の関係に対する考えでは、「中福祉中負担」が19.8%、「高福祉高負担」が14.1%、「低福祉低負担」が1.7%となっている。なお、「どちらともいえない」が32.5%で最も高くなっており、「わからない」が23.7%となっている。

図表6-1 福祉サービスの水準と負担の関係に対する考え(単数回答)

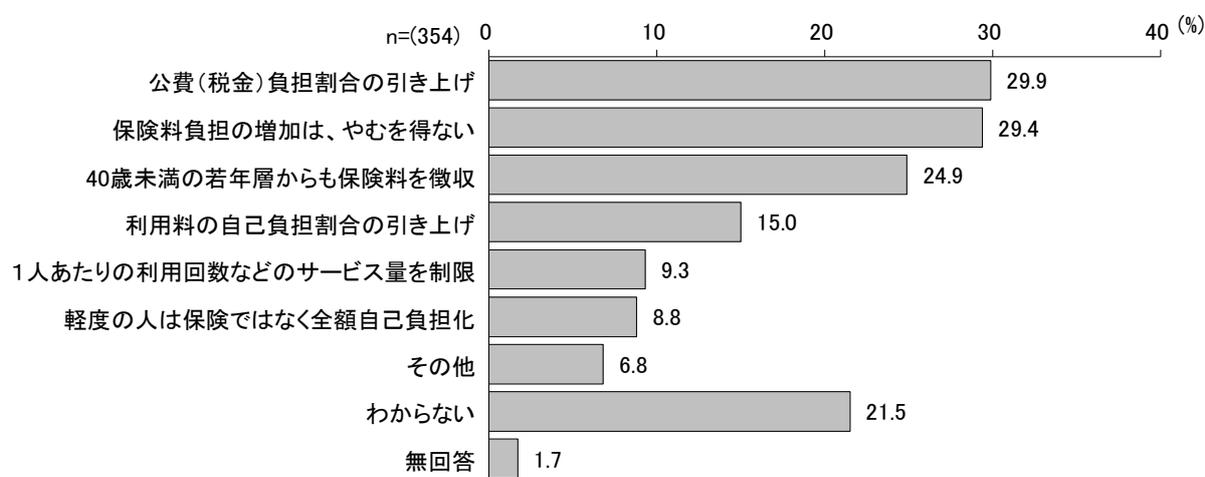


## (2) 介護保険料負担の増加を抑制するために講ずるべき手段

問26 今後の介護保険料負担の増加を抑制するために、どのような手段を講ずるべきだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

介護保険料負担の増加を抑制するために講ずるべき手段は、「公費(税金)負担割合の引き上げ」(29.9%)と「保険料負担の増加は、やむを得ない」(29.4%)が約3割で並んで高く、次いで「40歳未満の若年層からも保険料を徴収」が24.9%、「利用料の自己負担割合の引き上げ」が15.0%などとなっている。なお、「わからない」が21.5%となっている。

図表6-2 介護保険料負担の増加を抑制するために講ずるべき手段(複数回答)

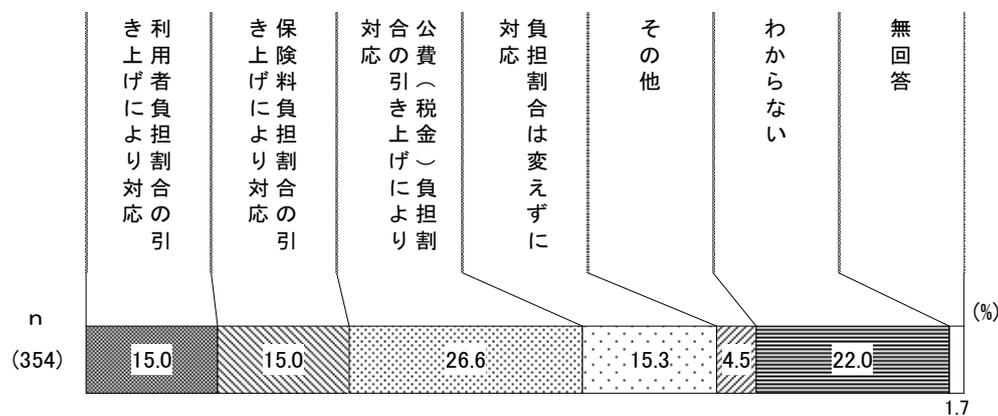


### (3) 介護サービスを充実させた際の費用負担についての考え

問27 今後、超高齢社会を迎えるにあたり、介護サービスをより一層充実させていく場合には、利用料、介護保険料、公費(税金)負担がさらに増えることとなります。その際、大幅に増大する費用をどのように負担していくべきだと思いますか。(1つに○)

介護サービスを充実させた際の費用負担についての考えは、「公費(税金)負担割合の引き上げにより対応」が26.6%で最も高く、次いで「負担割合は変えずに対応」が15.3%、「利用者負担割合の引き上げにより対応」と「保険料負担割合の引き上げにより対応」がそれぞれ15.0%などとなっている。

図表6-3 介護サービスを充実させた際の費用負担についての考え(単数回答)

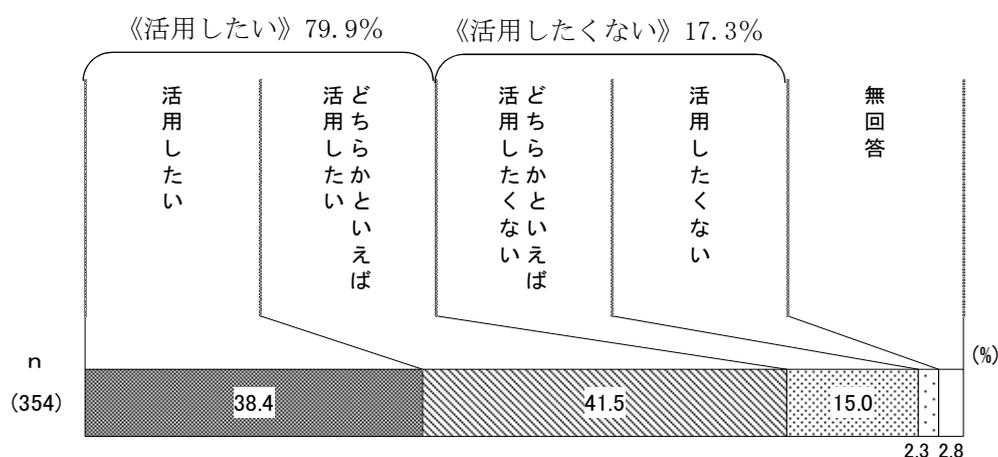


#### (4) 介護保険手続きにかかる電子申請の活用意向

問28 江戸川区では、わざわざ窓口に出向かなくても、スマートフォンなどのデジタル機器を使って各種の行政手続きができる仕組みづくりに取り組んでいます。今後、介護保険手続きにかかる電子申請が可能になれば、あなたは活用したいと思いますか。(1つに○)

介護保険手続きにかかる電子申請の活用意向は、「どちらかといえば活用したい」が41.5%で最も高く、これに「活用したい」(38.4%)を合わせた《活用したい》は79.9%を占める。一方、「どちらかといえば活用したくない」(15.0%)と「活用したくない」(2.3%)を合わせた《活用したくない》は17.3%となっている。

図表6-4 介護保険手続きにかかる電子申請の活用意向(単数回答)



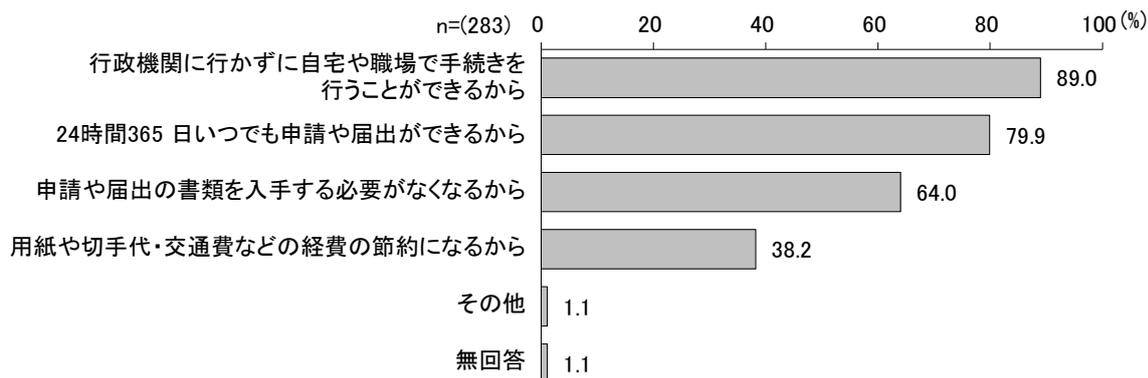
#### (5) 電子申請を活用したい理由

★電子申請を活用したい方(問28で1または2に○)にうかがいます。

問28-1 活用したい理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

介護保険手続きにかかる電子申請を《活用したい》と回答した人に、その理由をたずねたところ、「行政機関に行かずに自宅や職場で手続きを行うことができるから」が89.0%で最も高く、次いで「24時間365日いつでも申請や届出ができるから」が79.9%、「申請や届出の書類を入手するの必要がなくなるから」が64.0%などとなっている。

図表6-5 電子申請を活用したい理由(複数回答)

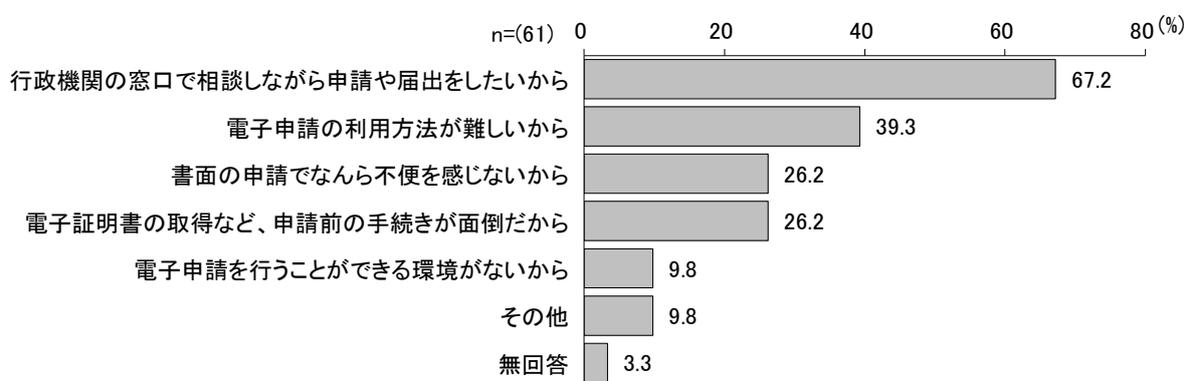


## (6) 電子申請を活用したくない理由

★電子申請を活用したくない方(問28で3または4に○)にうかがいます。  
問28-2 活用したくない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

介護保険手続きにかかる電子申請を《活用したくない》と回答した人に、その理由をたずねたところ、「行政機関の窓口で相談しながら申請や届出をしたいから」が67.2%で最も高く、次いで「電子申請の利用方法が難しいから」が39.3%、「書面の申請でなんら不便を感じないから」と「電子証明書の取得など、申請前の手続きが面倒だから」がともに26.2%となっている。

図表6-6 電子申請を活用したくない理由(複数回答)

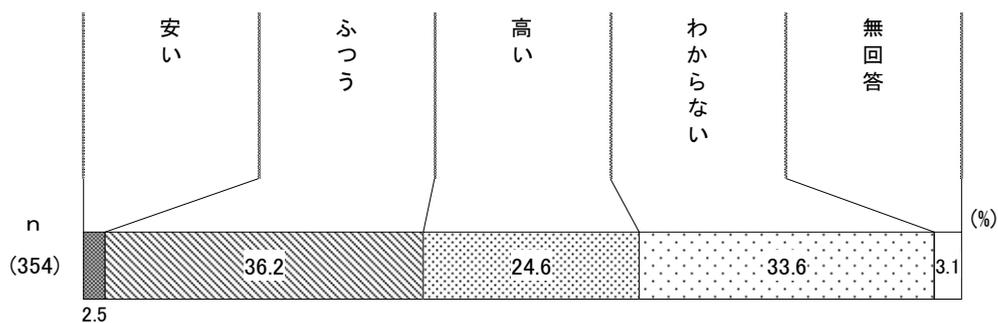


## (7) 介護保険料についての考え

問29 介護保険の保険料について、どのように思いますか。(1つに○)

介護保険料については、「ふつう」が36.2%で最も高く、以下「わからない」が33.6%、「高い」が24.6%、「安い」が2.5%の順となっている。

図表6-7 介護保険料についての考え(単数回答)



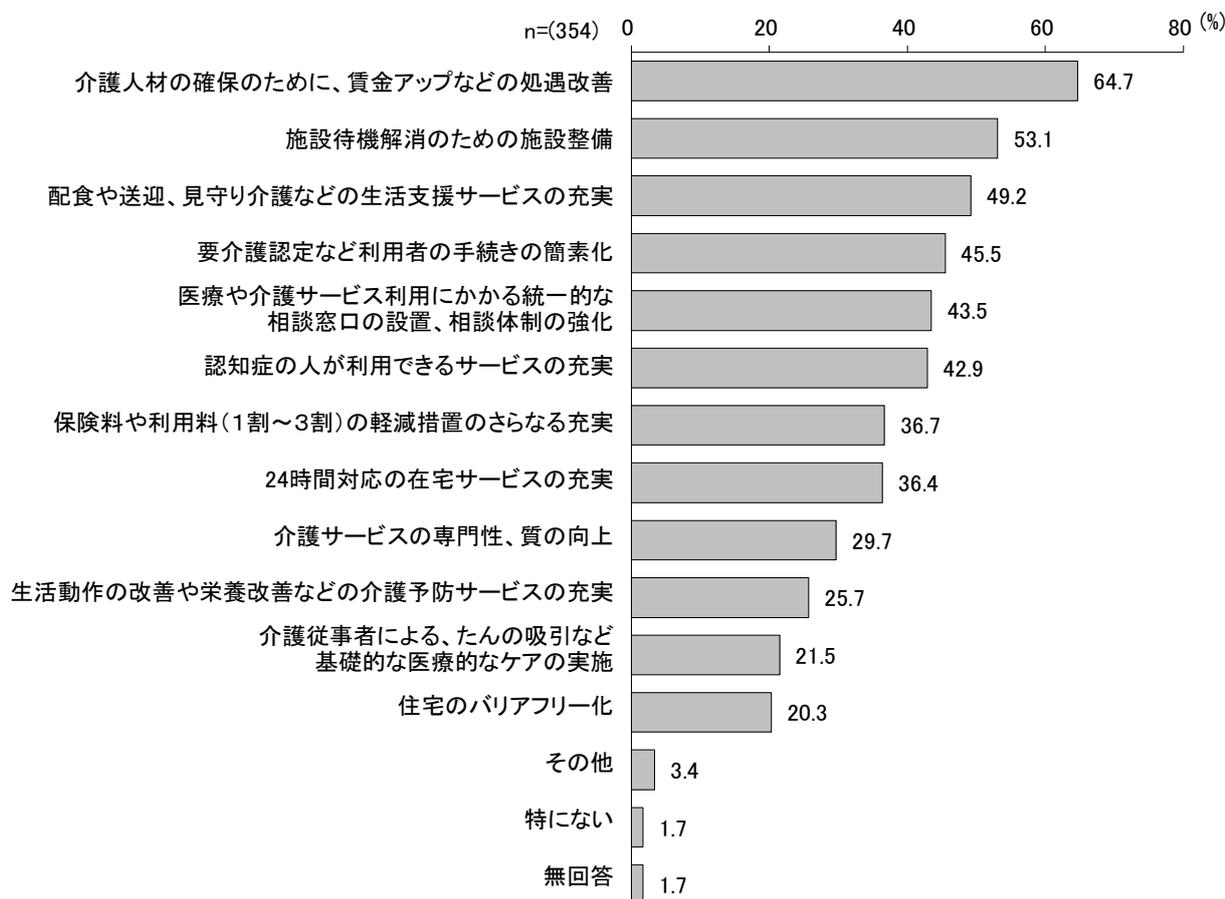
## 7 行政に対する要望について

### (1) 国や区が重点を置くべき施策

問30 今後、増加が予想される介護を必要とする高齢者のために、国や区はどのような施策に重点を置くべきだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

国や区が重点を置くべき施策は、「介護人材の確保のために、賃金アップなどの処遇改善」が64.7%で最も高く、次いで「施設待機解消のための施設整備」が53.1%、「配食や送迎、見守り介護などの生活支援サービスの充実」が49.2%、「要介護認定など利用者の手続きの簡素化」が45.5%などとなっている。

図表7-1 国や区が重点を置くべき施策（複数回答）



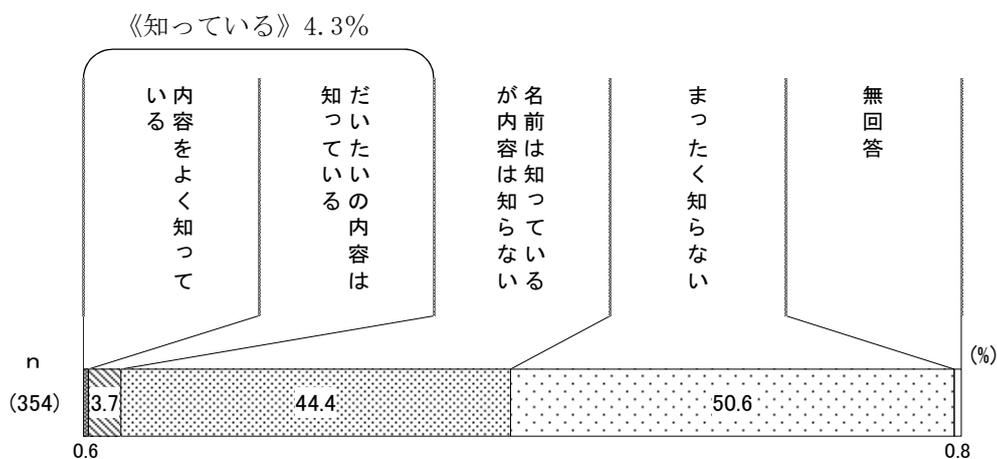
## (2) なごみの家の認知度

問31 あなた(あて名のご本人)は、「なごみの家」についてどのくらい知っていますか。

(1つに○)

なごみの家の認知度は、「内容をよく知っている」が0.6%、「だいたいの内容は知っている」が3.7%で、これらを合わせた《知っている》は4.3%であり、「名前は知っているが内容は知らない」が44.4%となっている。一方、「まったく知らない」が50.6%となっている。

図表7-2 なごみの家の認知度(単数回答)



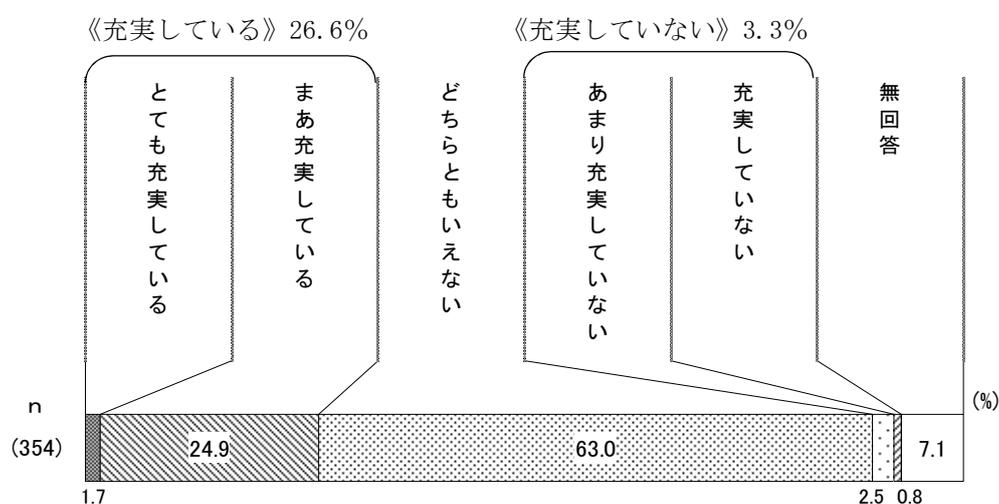
### (3) 区の熟年者施策の充実度

問32 江戸川区の熟年者施策について、あなた(あて名のご本人)はどのように感じますか。

(1つに○)

区の熟年者施策の充実度では、「とても充実している」が1.7%、「まあ充実している」が24.9%で、これらを合わせた《充実している》は26.6%である。「どちらともいえない」が63.0%と最も高くなっており、「あまり充実していない」(2.5%)と「充実していない」(0.8%)を合わせた《充実していない》は3.3%となっている。

図表7-3 区の熟年施策の充実度 (単数回答)



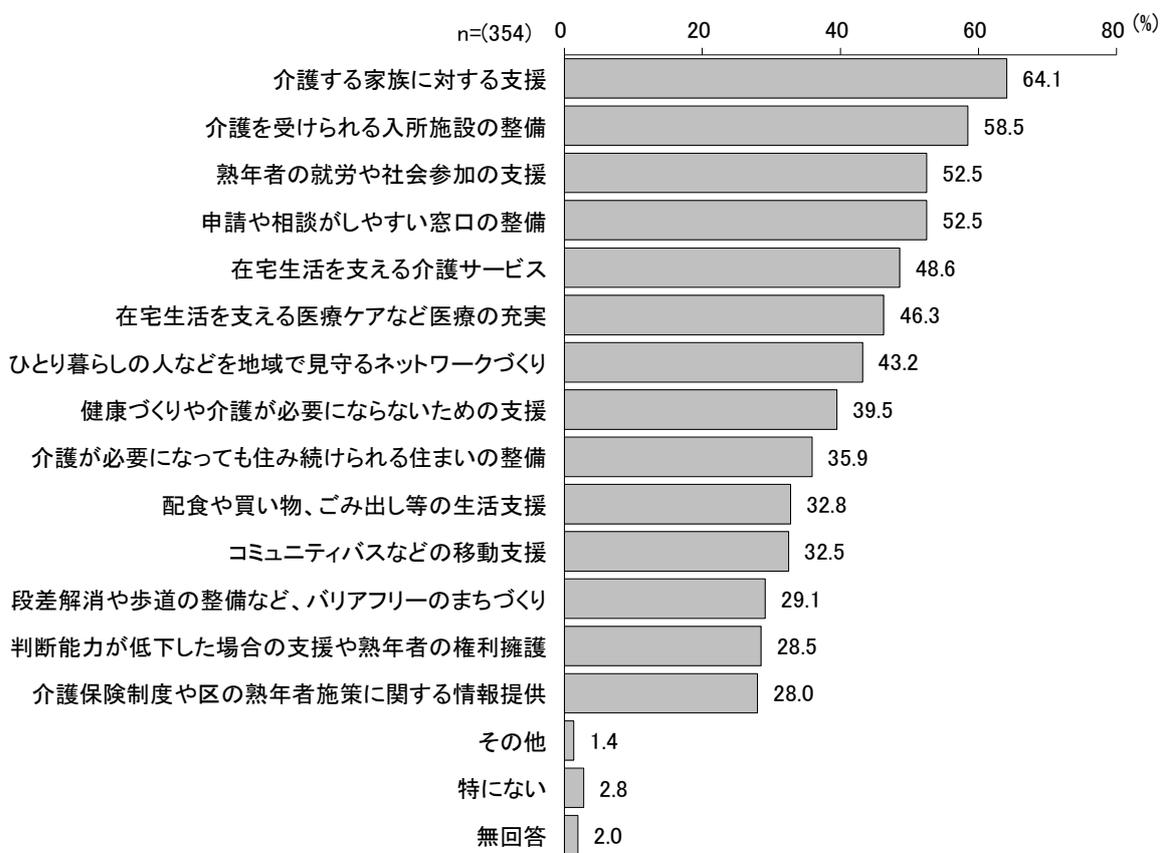
#### (4) 今後充実すべき熟年者施策

問33 江戸川区が今後充実すべきと思う熟年者施策は、次のうちどれですか。

(あてはまるものすべてに○)

今後充実すべき熟年者施策では、「介護する家族に対する支援」が64.1%で最も高く、次いで「介護を受けられる入所施設の整備」(58.5%)、「熟年者の就労や社会参加の支援」(52.5%)、「申請や相談がしやすい窓口の整備」(52.5%)が5割台で続いている。

図表7-4 今後充実すべき熟年者施策（複数回答）



## (5) 区への意見・要望

江戸川区へのご意見・ご要望がありましたら、ご記入ください。

区政への意見、要望をいただいたので、その一部を抜粋して掲載する。

### 【1】 区の熟年者施策について（13件より抜粋）

- ・あるテレビ番組で、認知症も初期の段階であれば、運動や脳トレ等で回復する可能性があるという話を聞きました。高齢者を集めた体操教室のようなものは抵抗がありますが、50～60歳位を対象にしたものであれば参加のハードルが下がるように思います。まずは、早期認知症チェックのような健康診断を区でやってもらえると良いと思います。そこでチェック項目に該当した人を年代別で集めて、運動等をさせてもらえるなら参加したいです。
- ・ありがたいことに現在は介護と縁がないので、介護についてあまり考えたことはありませんでした。区で様々な施策が行われていることを知り、大変心強く感じました。今後、介護にかかる費用は増加する一方だと思しますので、在宅ケアを充実させ費用を抑えるのが良いのではないかと思います。
- ・特別養護老人ホームのように、それほど金銭的に余裕のない人でも安心して老後を迎えられるような施設を増やしてほしいです。国は在宅介護を増やす方向性かと思いますが、実際に在宅で介護を受けることになると、同居家族の負担は大きくなります。また、ひとり暮らしの場合、在宅で介護を受けて生活するのは難しいと思います。少子高齢化が加速している中で、施設の増設は難しいことだとは思いますが頑張してほしいです。
- ・在宅での介護を希望していますが、自分や夫が介護状態になった際の不安、どちらかがひとり暮らしになった際の不安を感じています。利用しやすく、分かりやすい福祉サービスを望みます。将来、年金生活になりますので、その中でやりくりできるようなサービス、保険料でお願いしたいです。
- ・認知症の家族を介護していたとき、安心して預けられる施設が少なく、仕事をしながらの介護は大変でした。予防等も大切ですが、目を離せない状態の家族を預けられる施設を増やしてほしいと思います。

### 【2】 区からの情報提供について（10件より抜粋）

- ・介護に関する書類の書き方や申請方法をどこに相談したら良いかを記載したテキストなど、一連の流れを詳しく説明した資料を作ってほしいです。
- ・もう少し詳しく区のホームページに情報を掲載してほしいです。日々のイベント等も後で知ってがっかりすることが多いので、ツイッター等で宣伝してみてもどうでしょうか。また、住民同士のコミュニケーションづくりのために地域参加のイベントを考えてみてはどうでしょうか。
- ・現在、家族の介護で手厚く支援を受けていますが、そうなる以前には介護に関する情報や知識がほとんどありませんでした。介護についての知識は、病院の相談員やケアマネジャー、施設の職員からの情報提供や説明によって得たものがほとんどです。行政から特に対象となり得る

世代に対しての周知、情報発信を要望します。

**【3】 介護人材の確保・待遇改善について（4件より抜粋）**

- ・介護施設で働く者の賃金アップが必要だと思います。介護を必要とする仕事に休みはありません。介護施設等の仕事は大変な仕事なのに、一般の仕事との賃金格差があり過ぎます。そのため、日本人の職員のなり手がなく介護施設等の職員は外国人が増えています。

**【4】 移動手段の整備・充実（3件より抜粋）**

- ・近くに両親が住んでいます。今は元気なので買物などは自転車で移動していますが、いずれは無理が来ると思います。お金がかかりますが、駅やスーパー、区の図書館等、行動手段としてバスが増便されると高齢者も動く範囲が増えるのではないのでしょうか。既存のバス路線や地域のニーズを踏まえ、コミュニティバスなどの移動手段の支援をお願いします。

**【5】 その他の区に対する意見や要望（18件より抜粋）**

- ・父が脳出血を患い右半身が不自由になりました。運転ができなくなり、バスや電車を利用することになったのですが、少しの段差でもつまづいてしまうので、外出しなくなってしまいました。区内のバリアフリー化が進むことを切に願います。道路の舗装（整備）にも力を入れていただきたいです。
- ・認知症等で判断能力が低下した場合、遺産の管理等のアドバイスをもらえる窓口があるとありがたいです。
- ・江戸川区が好きで、住み始めてから 27 年になります。老いて身体が不自由になっても安心して暮らせる江戸川区であってほしいと思って応援しています。区にはたくさんの施設がありますが、常連さんがたくさんいると利用しづらい場合があります。だれでも気軽に利用できる施設の仕組みづくりをお願いします。
- ・江戸川区といっても、外国人が多い地域、高齢者の多い地域、商業地区、住宅地等、エリアによって様々で、その地域に合ったきめ細かい施策も必要だと思います。

